

490.49-Ta28ウ

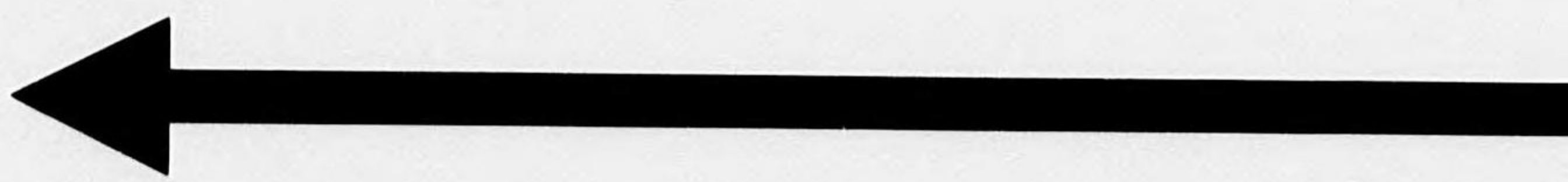


1200500743786

10049  
28  
ウ



始





外  
1.5  
え



490.49  
TA28

# 趣味の醫學夜話

醫學博士

高田義一 著



至三社 版



序

- 醫學は、病床日誌のみを記述すべきものであらうか？
- 脈を數へたり、聽診器を胸にあてたりするだけが、醫學の全部なのであらうか？
- そうではない。解剖や、病理や、藥物等のいろ／＼の基礎醫學といふものもあれば、普通に「醫學」と考へられて居る臨床醫學の中にも、精神病學の様に人類の病的の心理状態を、研究の對照とするものもある。或は又醫史學と云つて、今日に至るまでの醫學の發達の歴史や、その發達に貢献した偉大なる醫學者の傳記の類を攻究する學科もあるし、又社會醫學と稱せられて、現在の社會と醫學や醫術との交渉を、研究の題目とする方面もあつて、一口に醫學と云ふけれども、その範圍は中々廣汎なものである。勿論、醫學的の記録は、病床日誌のみに盡きもしないし、聽診や檢脈の如きは醫學的行爲の、ホンの一端に過ぎないのである。
- そんなに醫學の範圍が廣いものならば、その中には一般の人々にも興味のある話が、随分



澤山あるのではなからうか。例へば冬の夜に爐を圍んで語りあつたり、夏の夜に藤椅子に倚りながら、夕陽の影で話題にする様な夜はなし的の、趣味のある話はあるまいか？

——それは澤山ある。ではなるべく廣く、各方面に亘つて集めることにしやう。

話者の挿入 × × ×

發問 こんな問答に基いて作られたのが、即ち本書で、問者は書肆至玄社、答者は私なのである。

提問 即ち題材は皆趣味的に扱はれて居るけれども、しかし何れも眞面目なものゝみであることを、特に一言して置くのである。但し此の草稿は嘗て皆雑誌其の他に載せたものであるから、各編多

少、文體や筆致に硬軟の差違があることを讀者にお詫びすると共に、各雑誌の主幹に對して、茲に滿腔の感謝の意を表して置く。

一九二九年四月

赤坂の寓居に於て

著者 識

# 目次

ひのえうまの娘.....一

結婚送と信——丙午娘の結婚難——何故丙午を忌むか——丙午忌避の出生届——丙午娘は家庭

訓讀——丙午娘は心配無用——讀者の手紙から

若返り法大觀.....一七

古今東西相藥雜考.....三九

惚れる藥か。惚れられる藥か——支那の相藥、蝙蝠の黒燒、守宮の黒燒——相藥としての鼠——

——とかげに似た諸龍——イギリスの黒燒——牛の胎盤——氣ちがひ茄子——相藥處方——結び

B C 漫談.....四九

胎教ローマンス.....五三

目次



胎教と子供の肉體——胎教と子供の心——胎教と不良兒——胎教を何と見るか

子供の出来る迷信

赤ん坊はどうして出来るか?

夢遊病雑話

右利と左利の問題

動物は右利か左利か——原始人は右利か左利か——何故右利になつたか——右利と言語中樞の關係——左利に関する研究——顔面の不相稱

煙草の害毒

頭腦明晰の秘訣

胸腺淋巴體質の話

序——胸腺淋巴體質——解剖的變徵——生前の診断——大人——此體質の者は何故急死するか

内分泌物語

分内泌とホルモン——内分泌の研究方法——睾丸と卵巢——松果腺——大脳下垂體——甲状腺

——胸腺——副腎皮質——脾臓——扁桃腺——其他の關係

醫學から見た現代人の生活

現代生活——藥品愛好——海水浴萬能——温泉陶醉——郊外住宅

日本文學に現れたる醫學——血液篇

はしがき——血液に依る治病——毒物としての血液——胎兒は「瘡」の藥——血族の鑑別と血

液——合血法——滴骨法——附言瀧澤馬琴に就て——末尾に

遺記

血を嘗める事——血を飲む事——盟の爲に血を飲む事——血書及び血判のこと

血液型に関する研究

目次



親と子とを識別する難題

醫學の殉教者.....二三

聖列傳.....二三

ゴベルド・ヨツホー——マックス・フォン・ムツチンコーフェル——ルードルフ・ウキルヒョー——

ツェザレ・ロンブロー——ウキルヒョー・コンラート・レシトマン——アルフレヒト・フォン・

グレーンエ

醫學博士の激増と興論.....三九

醫學博士物語り.....三三

目次終り

ひのえうまの娘

一、結婚と迷信



結婚に關する迷信は、世界至る處にあるもので、今日無意識に行はれてゐるエンゲージ・リングを第四指——薬指——にはめることも、第四指へは心臓から特別の血管が來てゐるものといふ迷信に本づくと思へられてゐる。

結婚が抽籤以上にあてにならなかつたり、投機以上に不安であつたりする關係かち、舉式の日取りや合性の良否等に幾多の迷信の件ふことは、或る程度までは無理もないし、他人に迷惑を及ぼさない迷信ならば、有つても特に禁じる必要もないから、それは各人の趣味位に考へて置く方がいゝかも知れない。歐洲で一般に五月の結婚を忌むことや、ローマで二月十一日、十一月二日及び十二月一日の三日を結婚の凶日としてあること、或は成年と申年とは仲が悪くなるか、或

ひのえうまの娘



はまた水性と火性はいけないとかいつて、「犬猿管ならず」や水火相妨ける常識的の判断を、結婚に應用(?)したりすることの類は、かれこれ咎め立てをするほどのこともない。しかし、丙午の年に生れた女子と結婚するのは不幸の基であるといふ考へは、どうも一片の趣味として放つて置けない。それは今日までに幾多の悲劇を生み、現在なほ多数の女子を泣かしてゐるからである。その悲惨な事實については、確かに無關心に過すに忍びないものがあることを、次の記事に徴して貰ひたいと思ふ。

## 二、丙午娘の結婚難

いろいろの職業婦人、オフィス・ガールや小學女教員等の中に、心にもない生活を、結婚の出来なために止むを得ず續けてゐるものゝ多いことは、東京のみならず恐らく全國的のことであらうと思ふが、事實は單に婚期の遅れるだけに止まらないのである。

大正十三年の三月に、千葉縣銚子町の附近に、婚約が出来て嫁入仕度までした後で、單に丙午といふことのために、俄に破談になつたのを恨んで、相手の一家を襲殺せんと企て、井戸の中に

毒藥を投じて、刑事問題を引起した當年十九歳の娘があつた。

右の例は、少々過激のやうにも見えるけれども、丙午なるがために結婚出来ない娘達は、年齢を重ねるに従つて焦燥の感が激しくなるから、自然にその悲劇の數が殖えて行くのであらう。

昭和二年五月八日の朝、相州江ノ島二ツ山下の海岸に漂着した若い女の死體からは、次のやうな遺書が発見された。

「……丙午といふことは、迷信とは思はれますが、我身の不幸は事實であります。

東京市麻布區筭町谷澤方 茨城縣結城郡總上村袋畑 三原さい子」

その娘は、いふまでもなく當年二十二歳の丙午生れで、それがために、五六度も縁談が出来ては中止されることの繰返されるのに悲觀して、遂にこんな自殺を企てたものである。

澤山の例は擧げたくはないが、少しく趣の違つた例を、なほ一、二附加へさせて貰ひたい。東京府下南千住の岡田某方居住、當年二十三歳の小林やすといふ南千住の合同毛織物會社の女工は、以前から同社の職工福田某と結婚生活を續けて、すでに妊娠五ヶ月の身であつたに拘はらず、従前隠してゐた丙午の年の事實が知れた爲に、夫婦仲が悪くなつて、昭和三年七月十一日、



猫いらずを飲んで自殺を遂げたのである。

東京府下三河島町の高田某長女ちよといふ二十三歳の娘は、昭和三年八月十六日、丙午を苦にした擧句、剃刀で腹を一文字に切り、更に頸動脈を切断して自殺を遂げた。「丙午の娘だから切腹したりするのだ。それだから丙午の娘はいけない」などと、簡単にこの事實をかたづけずに、丙午とは何のことか、何故丙午が嫌はれるやうになつたか、しかして丙午は果して嫌ふべきものか如何かなどについて、慎重に考へて見る必要があらうと思ふ。

### 三、何故丙午を忌むか

丙午は、十二支と十干との最小公倍数として、六十年目に一度づゝ廻つて来るもので、現在の悲劇の女主人公は明治三十九年の丙午に相當する人々であるから、このまゝで行けばこの次には昭和三十九年生れの女子が、又々この悲劇を繰返すことになるはずである。その未來の悲劇防止のために、簡単に説明すれば次の如くである。

十二支とは御承知の子丑寅卯辰巳午未申酉戌亥の動物名で、十干とは木火土金水の五つを、甲

乙丙丁戊己庚辛壬癸の十字に配して、それを順次に「きのえ」「きのと」「ひのえ」「ひのと」「つちのえ」「つちのと」「……」「みづのえ」「みづのと」といふ具合に、「え」と「と」に分けていふところから、通俗にこれを「えとー」と呼んでゐる。しかしてこの十二と十との組合せが、六十年目に元に歸することは、六十一年目を還暦と呼ぶ事實から見てもよくわかるはずである。

つまりそれは年の符號に過ぎないから、一九二九年といふのも己巳年といふのも、昭和四年といふのも同じことであるが如く、丙午もまたその年の符合に過ぎないこと勿論である。

ところが丙午が「ひのえうま」であるところから、火はすべてを焼き盡すものであり、馬はあはれるものである。兩者共に女性には望ましくないからといつて、果ては「燕石雜誌」のやうに、「女子丙午に生るるものは、必ずその良人を食ふ」と書いたものまで出来て來たのである。

但し丙午を忌む起原は明白でない。「燕石雜誌」は文化六年の刊行で、その著者、瀧澤馬琴は謝肇制の「五雜俎」や、愈文豹の「吹劍錄」等を引用して、丙午や丁未の年に火災が多かつた爲であると考證してゐるが、どうも火事と女の性質との關係が不明である。

文書の中に丙午の迷信が明記されてゐるのは、井原西鶴の「男色大鑑」であるとも聞いたけれ

45  
39  
36  
13  
20  
13  
33



ども、同書には、「丙午の女は必ず男を食ふと世に傳へしが、それには限らず」とその迷信を排してゐるから、この考へが西鶴以前の古いものであることは勿論である。一説には享保十一年と天明六年との丙午の歳に懐胎の女子で、流産の薬を飲んで死んだものが多数であつたのに始まるともいふが、それならばその時代が淫靡であつたため、丙午の年生れの娘を責める材料にはならぬのである。或は又淨瑠璃でお馴染の八百屋お七といふ少女、即ち戀人に逢はんがために天和二年に放火した小娘が、丙午生れであつたのに起因するともいふけれども、たつた一人の放火犯を標準として、一般の女性を律するのは、不具者を標準にして健全なものを不具者扱ひにするのと同様に、愚かなる考へであるといはなければならぬ。

(此の間十三行抹殺——)

然り丙午の女性を恐れることは、確に據り所の無い迷信である。しかし單にさういつたよけでは承知出来ない人が多からうと思ふから、心配するに及ばないといふ事實を、列擧して見る必要がある。

#### 四、丙午忌避の出生届

大日本統計年鑑の數字を見ると、丙午に相當する明治三十九年の女子の出生數に怪しい節々がありくと見えてゐる。即ち、女兒の出生數が

明治三十八年	七十一萬六千八百二十二
明治三十九年	六十六萬八千四百四十
明治四十年	七十九萬六千三百五十八

となつてゐて、丙午の年には非常に少い。前年よりも五萬人の減少はまだしもとしても、翌年と十四萬人の大差は何を物語つてゐるのであらうか？ 年々の出生數は、大抵一定不變である。もし大差が天變地異の影響として起る場合には、男子にも同様の變化があるはずなのに、その年の男子の出生數が殆ど平年と同様で、女子のみが右の通りであるのは甚だ怪しい。これは娘の將來を慮る親心から、國法に背いてまで明治三十九年中の出生を内密にして置いて、翌年の四十年生れと届け出た者が數萬に上ることを示してゐるのであらう。



この推測を明にするために、同じ統計中の中から、丙午の三十九年十二月と、翌四十年正月との、女子の出生数を見ると

明治三十九年十二月 五萬五千二百二十八人

同 四十年一月 九萬四千七百四十三人

として、殆ど倍ほどの相違があるが、これが人為的の數字であること明白である。それはつまり、十二月の出生を正月まで延期したものが多いためである。これと同一の事實が明治三十八年十二月と三十九年（丙午）正月との間にも見えて、~~四十九年~~三十九年正月の女子出生数が著るしく減少してゐるのは、わざわざ前年に繰上げて届けた關係も少くあるまい、平年ならば年末の出生を避け、なるべく正月に延ばすのが普通であるけれども……。

此の事實は、丙午の娘が或は丁未（四十年生）となつたり、或は乙巳（三十八年生）となつたりして、世間を欺いて結婚してゐる前提であるのは當然であるが、その丙午が別に良人を食殺しもせずゐるのは、つまり丙午忌避の迷信たることを示してゐる一つでなければならぬ。

### 五、丙午娘は家庭圓滿

しかし以上の數字では勿論誰も承知出来まいから、以下に少しく丙午生れで夫を食はずに、夫婦共に長命し、子孫繁榮、家庭圓滿の實を擧げた人々を紹介しよう。

子爵石黒忠憲氏は、長命で有名な人であるのに、その夫人くか子刀自は、丙午の年の生れである。その他名士の夫人で丙午に生れた人々には、左の方々がある。

森村文左衛門氏夫人きく子氏。

文學博士、加藤弘之氏夫人すゞ子氏。

文學博士、星野恒一氏夫人きん子氏。

前選信次官、鈴木大亮氏夫人きく子氏。

紳商、中井長兵衛氏夫人ふな子氏。

等、等。

右の如く、知名の人のみを数へると、それは例外であるからといふ疑問の起る餘地があるから



更に各方面における、いろいろの調査をも掲げなければならない。

弘化三丙午年生れの婦人とその配偶者との關係を、東京府立第三高等女學校の豊田教諭が、東京市赤坂區内について調査したところによると、次の如くに、夫をして早死させてゐないことを示してゐる。

第一回調査 表町、傳馬町、丹後町、一ツ木町、新町、田町の一部の各町で、合計十二人の人を見出した。甚だ少いやうであるが、九十に近い老人であるから、さう澤山はゐらないのである。しかしてその十二人中、配偶者が五十歳未満で死んだものは四人で、五十歳以上まで存命したものは八人であつた。

第二回調査 田町の一部、溜池町、榎坂町、葵町、龜南坂町、福吉町、氷川町、仲ノ町、檜町、台町、新坂町、青山南町の一部には、合計六人の人があつて、五十歳未満で夫を死なしたものが二人、五十歳以上のものが四人あつた。

それから又、大阪府北河内郡役所で、管内三十二ヶ所の町村役場について、右と同じ年の婦人を調査した結果によると、六十七名の中、六十五名までは皆夫婦共に長命であつたといふことである。

愛媛縣八幡濱町にある財團法人、西宇和郡社會事業協會の主事、村田吉右衛門氏等が主となつて、西宇和郡の二十二ヶ町村について、弘化三年生れの婦人を、その前年及びその翌年生れの婦人と對比して、夫を早く死別させたか何うかを精しく調査した統計的の報告書がある。それは非常に細密なものであるから、こゝに全文を掲げることは出来ないが、左にその中の一節のみを轉載して、委細を必要とする人々には、左の雜誌を見られんことをお勧めして置く。

柳澤統計研究所季報 第二十四號 (昭和三年八月刊行)

さて愛媛縣西宇和郡の調査成績の中から、夫の死亡年齢を見るのであるが、簡單にするために表とすれば次の如くなる。

實 數	
生存	七二
死亡	二七六
計	三〇三

ひのえうまの娘



趣味の醫學夜話		百分比	
弘化三年生(丙午)	二四	二二八	二四二
弘化二年生	二〇	三二二	一三三
生存		死亡	
弘化四年生	八・九一	九一・〇九	一〇〇・〇〇
弘化三年生(丙午)	九・九二	九〇・〇八	一〇〇・〇〇
弘化二年生	六・〇二	九三・九八	一〇〇・〇〇
計		計	

これで見ると、配偶者死亡の割合は、丙午の弘化三年生れの者が一番少数の九・九二の割合で生残してゐるといふ、全く豫想外の皮肉な結果を示してゐるのである。  
 そこでなほその配偶者死亡の年齢を明にするやうに、細い表を掲げて置く。

實 數
-----

百分比	弘化四年生										弘化三年生										弘化二年生									
	不明	二十歳	三十歳	四十歳	五十歳	六十歳	七十歳	八十歳	九十歳	合計	不明	二十歳	三十歳	四十歳	五十歳	六十歳	七十歳	八十歳	九十歳	合計	不明	二十歳	三十歳	四十歳	五十歳	六十歳	七十歳	八十歳	九十歳	合計
百分比	二二	〇	三	二一	三九	六九	八九	三三	一一	二七六	一六	一	四	一四	三一	四六	七七	二五	四	二二八	一九	一	六	二六	四三	七七	九八	四二	〇	三二二



不明	弘化四年生	弘化三年生	弘化二年生
三十歳	七・六一	七・三五	六・一〇
二十歳	一・〇九	〇・四六	〇・三二
四十歳	七・六一	一・八三	一・九二
五十歳	一四・一三	六・四二	八・三三
六十歳	一五・〇〇	一四・三二	一三・七八
七十歳	三三・二三	二二・一〇	二四・六八
八十歳	一一・九六	三五・三二	三一・四一
九十歳	〇・三五	一一・四七	一三・四六
合計	一〇〇・〇〇	一〇〇・〇〇	一〇〇・〇〇

### 六、丙午心配御無用

もうこれ以上、くどくどいふ必要はあるまいと思ふ。丙午の娘と安心して結婚出来ない者は、頑迷なる迷信の徒である。丙午の娘を忘れて放つて置くのは、單に本人のためのみならず、社會全般としても考へものである。結婚が出来ないと觀念して、高等の教育を受けたり、社會的に活躍するものが出来たりするのは結構かも知れないが、それはむしろ少數で、自殺をしたり、自暴自棄に陥つたりするのは、非常に多數に上るのである。丙午の年の娘でも配偶者を食ひ殺した例は一つもないのである。或は舐めたところを見まちがへて、接吻の流行しなかつた時代の人々が、食殺すものと早合點でもしたのではあるまいか。丙午の娘は澤山あるから、賢明なる男子はこの際、特に丙午の娘の中から配偶者を選ぶがよい。それこそ良い娘のより取り勝手次第で、これ位幸福なことはあるまいと思はれる。筆者の如きも、もし今獨身であるならば直にその行動を取るのであるが、遺憾ながら三角關係になつては困るから、見合してゐるに過ぎない。

未婚男子にとつて、恐らく今日ほど多幸なる時は、またと來ないであらう。もし來ればそれは



今から六十年後でなければならぬ。

嗚呼、美しい哉、現代の未婚男子諸君！

### 讀者の手紙から

.....丙午に關する御高見、御同感の至に御座候。これが爲に救はるゝ女子の決して僅少ならざるを信じて疑はざる者に御座候。小生本年三十三歳、.....目下好配偶者物色中に御座候處、計らずし御論文を拜見、選擇範圍の火いに擴大致されたるを感じ申候のみならず、御説の通り斯の如き絶好の機會に、獨身者たる身の幸福を喜び居る次第に御座候。就ては.....

.....小生も迷信打破の爲に、率先して丙午女と結婚仕るべく決心に御座候。小生等の年輩の者にて丙午迷信に捕はるゝに於ては、一事は萬事、國家の前途憂心すべきもの有之べくと思考仕候間.....教員

大阪市外.....四五三

一月十八日.....田.....

### 「若返り法」大觀

「いろくゝの若返り法の話に就て」といふ問題を與へられたけれども、考へて見ると之は甚だ厄介な注文であつた。音も無く忍び寄つて來る「時」といふ曲者は、誰一人容赦すること無く、地球上の人類の悉くに對して、最も公平無差別に「平等の標準は之であるぞよ」といふが如き態度で、怪しげな藥をふりかけて行くのであらう。久遠に若く美しくありたいと願つて止まない、花も羞らう手弱女をも、むごたらしく皺苦茶の梅干婆に變化させてしまひ、此の世のあらん限り、その權力を恣にしたいと思ふ支配者をも、荒々しくむしり取る様に君王の椅子から引ずり下して空しく地下の墓穴の中へ投げ込んでしまつて、不老不死の望みすら叶へてはくれないのである。萬里の長城を築き上げて、外には匈奴の侵入を防ぎ、内には萬民の不平を壓迫して、儒生數百人



を、思想問題の圖書と共に或は坑殺し、或は焼き棄て、四百餘州を風靡した理想的の暴君、秦の始皇帝の如きすら、不老不死の靈藥を求めに出かけさせた徐福の土産を手に入れ得ないで、果敢なくも死の旅に上り、下男の如く辭を低くし、禮を厚くして、その膝下に一顧の媚びを求めに來る貴顯紳士の數々を、塵芥の如くにあしらつて、九十九夜まで通ひつめた深草の少將にまでも焦れ死をさせて顧みなかつた小野の小町すら、卒塔婆にすがりながら、憐れにもものたれ死をしたのは、皆此の「時」といふ曲者の所業であつた。

不老不死は爾く困難ではあるけれども、不老長生といふことは、全然不能のことでもなく、その例證は澤山にある。つまりそれは「時」の曲者の藥の利き目を食ひ止めて、比較的長期に亘つて、一定の程度に踏み止まることであるからであるが、若返りといふことは、一定の程度に踏み止るだけでは満足せずに、更に一步を進めて、「時」の力に逆ひながら、若さを逆にあと戻り——バック——させやうといふ、世にも大それた、圖太い慾望なのであるから、之こそ顧る非常の難問題なのである。之を厄介な注文といふのは、決して私の無能の爲のみではないであらう。

## 二

若返りとは何ぞやの定義のかはりに、一、二の例話を擧げて見る。

爺さんが、いつもの如く山へ獵に出かけたが、その日は小鳥一羽すら見つからなかつた。所が偶然一羽の鳥が足許から飛立つたので、一生懸命になつて追かけて見たけれども、どうしてもつかまらなればかりか、いつの間にか、山深く入つて道を踏み迷ひ、疲れ果てて倒れてしまつた。咽喉が焼きつく様に渴いてたまらないで苦しんで居る耳許に、向ふの方からドウ／＼といふ水の音がするので、膝行いざる様にして音をたよりに谷川の方に近づいて、手に掬んで呑んだ所が、その水が甘露の様にうまいのみならず、今迄の疲勞は拭ふが如く消散して、手足の皸までも延び、若い時その儘の血色のいゝ艶やかな皮膚となつたのである。

家へ歸へると婆さんが、若々しく輝かしい夫の顔を見て、驚きながら右の次第を聞いて、「それなら妾も行つて來ませう」と、教へられた通りに谷川へ辿りついて、一口二口用意の茶碗で飲んだまではよかつたが、成るべく若くなりたといふ欲望から、続け様に數十杯、息もつかずに飲



み乾した。すると不思議にも婆さんは、忽ちの中に若くなつて、二八あまりの美しい娘となつたのも束の間、更に止の度もなく若返つて、遂に未だ齒さへ生えない赤ん坊と化してしまひ、歩いて歸る事さへ出来なくなつたといふ話がある。

それから又こんな話もある。

非常によく利く若返りの靈藥を、名醫の所から貰つて來たお爺さんが、藥瓶を卓上に置いて一服して居る間に、去年高等女學校を卒業して、昨今婚選み最中の令嬢が、リモナーデと間違へてコップに一杯グツと呑んで、忽ち生後二三月の乳呑兒に變つてしまひ、オギヤ〜と大聲に泣き叫びながら、大小便のたれ流しを初めたのである。

時ならぬ赤兒の泣聲に、家中の者が驚いて集つて來た。しかし赤ん坊が令嬢の衣服にくるまつて居るだけで、何の事かわからないので、姉の傍に驚いて貰ひ泣きをして居る、尋常一年生の弟に聞くと、弟は「姉ちゃん此のお藥をかうして呑んだら、それつきり居なくなつたんだい」と云ひながら、説明の爲に姉のした通りに一杯を呑んだ。すると、その瞬間に弟の姿は消失して、臺の上に一滴の液體のみが残つて居た。

往診を依頼されて、馳けつけた醫者が學究的の男で、臺の上の液體を顯微鏡で検査した所が、その中にたつた一正の精蟲が、元氣よく遊いて居るのを發見したそうである。

私はこれから此の如き純粹なる若返り法の有無に就て、一瞥しやうとするのである。

### 三

歴史的に最も古い若返り法は、紀元前十一世紀にイスラエル王ダビドに依つて行はれたものであらう。それは老衰に傾いた者が、元氣潑瀾たる若人と共に起臥して青春の氣を補充する方法であつて、フーフエランドの著「長命術」(Hufeland: Die Kunst das Leben zu verlängern, 1798) 中にも、「舊約時代に若き處女と接する時は、老衰を回復し生命を延長するものと信ぜられたり、即ち所謂處女回生術にして、ギリシヤ人、ローマ人等に多く採用せられ、延いて近代に及べり」或は「若き乙女の氣息中に、清新なる生命の活力を包含する事は云々」等の記載があるのみならず、近代の大醫ポエルハーフも亦、之をオランダ國アムステルダムの老市長に勧めたと傳へられて居る。加之、處女回生術に對する信仰? は、十七世紀に發掘された碑文に「トラウヂウス・ヘ



ルミツブースが、少女の氣息を受けて百十五歳の高齡に達し得た御禮として、健康の神エスタラツプに奉納する」旨が書いてあつた事に依つても知られ、我が國にも此の考が入つて居ることは説明を俟たないが、此の肉茄團に依る若返りの効力は、老者に對する最も贅澤な保温法であるといふ以外に、醫學的の立場から之を保證することは困難である。

## 四

松葉を煎じて吞めば腦病に特效があるといふ俗説は、男爵松本順國手の裏書を得たとかで、往年相當行はれたものであつたが、近代になつて又松葉や松の實を食用すれば、血壓を降下させて中風の豫防となるのみならず、精力を増進して若返らせるといふ理由から、中々盛んに廣く行はれて居る様である。従つて種々の經驗談も發表せられて居るから、その一例を擧げて見やう。

「黒松では効が少く、赤松がよろしい。特に百年以上の老木がよい。就中よいのは人里を離れた深山の自然木から、夜中、日光のあたらない時に採取して、之を暗所に貯藏したものである。之を水で洗つて、そのまゝ嚼むのであつて、初め二週間位は食ひにくい、一ヶ月も連用すれば胃

腸の消化作用が旺盛になつて活力を増し、音聲も美しく、皮膚も白く艶やかになつて来る」云々。

それから又トロポフといふロシア人は、レモン汁飲用若返りを宣傳して、第一日にレモン一個翌日には二個と、一日一個づつ増して十五日日には十五個の汁を呑み、十六日目からは又一日一個づつを減少して、三十日目に又一個に歸り、之を十數年反覆して非常に若返つたと云つて居る。之を聞いて夏蜜柑でも同じであるといふ説も起り、昨今夏蜜柑がよく賣れるとの噂もある。

しかし食物に依る若返り法の著しい例としては、映畫女優グレンタ・ガルボ嬢を紹介する必要がある。彼女は一九二七年メトロゴールドウィン撮影所で、トルストイの「アンナ・カレニナ」の劇案劇をやつて居た最中に、腸カタルを病んで數週間休養したのであつたが、休養後再びメジャーに立つた時には、病後の疲勞のなかりか、以前よりも著しく若返つて居たので、容姿を生命以上のものとするワンサガール達の證據の種となつたのであつた。

綿密なる調査の結果、彼女が病中、ビタミンAの缺乏を補ふ爲に毎日四回づつ肝油一匙を飲み、パンにはバターを澤山塗り、ミルクはコップに三杯、クリームは二合、鶏卵は三個、その他にビタミンCの必要上、トマト數個、莖稜草ほうれんそう、ちしや、甘菜かんさい、人参、はなはほたん、きくぢしや



オレンヂ、レモン、葡萄、苺、林檎や馬鈴薯等を食し、肉類の他に肝臓、腎臓、腦等をも缺かさず食したといふことがわかつた。しかしこれだけ旺盛な食欲があれば、特にビタミンAやCの類をわざわざ採らないでも、十分若返り得られやうとも考へられるではないか？

## 五

若返り運動法といふものにも、いろいろの方法があるけれども、數年前に評判になつたベントット式若返り運動を、その一例として掲げるに止める。その方法は屈伸運動、打撲運動、摩擦運動に三大別せられ、次の三十則から成立つものであつて、ベ氏は五十歳にして老衰したのを、此の方法に依つて七十二歳にして再び若返つたと云ふことである。即ち、

- 一、足を曲げる運動——左右各五回
- 二、上半身を左右する運動——左右各五回
- 三、頭を擡げ、下腹部を叩く運動——十回
- 四、兩肩を交互に前後する運動——左右各五回

- 五、臂を上下する運動——左右各五回
- 六、双手で首を擡げる運動——十回
- 七、咽喉部の緊張運動——十回
- 八、首を左右に曲げる運動——左右各五回
- 九、兩肩を交互上下する運動——左右各五回
- 十、頤裏を押す運動——五十回
- 十一、前腕の運動——左右各五回
- 十二、後腕の運動——左右各五回
- 十三、腕の廻轉運動——左右各五回
- 十四、脚を曲げ、腰を動かす運動——左右同上
- 十五、腿及膝部の運動——左右各五回
- 十六、膝を兩手で引く運動——左右各五回
- 十七、肝臓部の仰臥摩擦——五十回



- 十八、肝臓部の打撲運動——五十回
- 十九、側面屈折運動——左右各五回
- 二十、肝臓部の横臥摩擦——五十回
- 廿一、全身の伸張運動——三回
- 廿二、頸部の摩擦——左右各五十回
- 廿三、耳の前後の摩擦——左右同時に五十回
- 廿四、頬部の摩擦——左右同時に五十回
- 廿五、鼻の兩側の摩擦——左右同時に五十回
- 廿六、頤部の摩擦——五十回
- 廿七、眼球的運動——五十回
- 廿八、前額部の摩擦——五十回
- 廿九、口腔の運動——五十回
- 三十、頭髮の摩擦——五十回

追加、脛部内側の打撲、脊筋の摩擦、深呼吸運動、足蹠の摩擦、等。——以上。

主唱者は以上の運動に依つて、血液から老衰の原因となる石灰質、其他の有害成分を排除して、青春の特長たる肉體の弾力性を蘇らせると云ふが、之は動脈硬化といふ老年性の一變化のみを重視した説である。無論悪いことではないけれども、之のみに依つて若返り得るとは、醫師として斷言するに躊躇せざるを得ない所であると思ふ。

## 六

ベネット法と同一に、老人に於ける血管の石灰沈着と、筋肉その他の弾力性の減少を重視したものであるが、前者が、物理的であるのに反して、之を化學的に行かうとする方法がある。それは硫酸ナトリウム溶液の靜脈内注射であつて、醫師に依つて考案されたわけであつて、前者よりもその説明が精しく、成る程と首肯させる所がある。

フランスの醫家オリヴィエは、自體に三年間硫酸注射を施して、動脈の硬化と慢性腎臟炎から免れ、七十歳に達して身心共に若返つたと云ひ、ブリツシエ、セツフレル、サルトリ氏等も亦之



と思者に於て確認して居たが、ドイツ國ロストック大學教授キューン氏は、それを基礎として一九一一年に、次の若返り法を發表したのである。

老衰するに従つて、結締組織中のエラスチンが減少して、弾力纖維網が粗鬆になることは、既にヒュック等の云ふ所であるし、又シユルツ等の研究に従へば、人體組織中の硅酸鹽類の分量は老年者に於て著しく少くなるもので、筋肉一キログラムに就て見れば、壯年者二六ミリグラムであるのに、老人には僅に一九ミリグラムに過ぎない。反之、壯年者に少い石灰が、老人には増加して居て、兩者間に密接の關係が存在するから、老衰の一徵たる石灰沈着防止の爲に、硅酸の補給が必要であるといふ見解から、キューン氏は一週二回づつ十乃至二十ミリグラムの硅酸ナトリウム溶液の靜脈内注射を適當と認めたのである。

その注射は十回か十二回位で一段落とするもので、第一回注射では何等の認むべき所もないが、三四回頃からそろ／＼効果が現れて來て、八十歳の老婦人が動脈硬化症と強度の狭心症發作から救はれたり、七十歳の男子の心臟障碍と強度の呼吸困難が治つた等、澤山の好成績の實例を持つて居ると報告して居るのである。

## 七

我が國では、大正九年中、一漢法醫が某雜誌上に發表したのが動機となつて、有効なる若返りの藥として、全國の津々浦々にまでも、廣く行はるゝに至つた「何首烏」と稱する漢藥がある。

何首烏といふのは、名を聞けば烏の一種かと思はれるが、之は藥學雜誌や、東洋學藝雜誌等に發表せられた研究成績によれば、「つるどくだみ」なる草であつて、大黃と同科の藥草と認められ、主成分の緩下劑に屬することも亦大黃と同一である。故に特に若返りの効力があるものでも無く、「支那四川省の山中で取れた、四百年以上を経過したものを最上とす」といふ式の廣告は、畢竟その有難味を増さしめんが爲のものに過ぎないことがよくわかる。

此の如く若返り藥と稱せられて、その主成分が單純なる緩下劑であるものは、何首烏以外にも二、三有るが、それはつまり便通を調節して身心を爽快ならしむる結果、人の元氣を旺盛ならしめる所から考へつくものではあるまいかと解せられるのである。

何首烏を強精劑とし、且つ若返りの靈藥として一時世間で持て囃したのに就て、思ひ合せられ



るのは、若返りといふ事と、性慾の亢進との混合せられ勝ちな事實である。印度の性的聖書と稱せられる *Kamasutra* のうちに、「酪、蜜、砂糖、マドフーカ、各二バラ（分量の單位）乳一ブラストハを混和して、アムリタ（甘露）を作れば、滋養に富み、精力を増し、長壽を保たしむ」とあるのも、その一例とするに足るが、支那の内地に於て古來、牡鹿の陽根を乾し固めたものを、「鹿鞭」と稱して珍重し、先端の方から少しづつ削り取つて、長壽補陽の目的に、酒に混和して飲用する風があるの等は、最も遺憾無く此の謬想を發揮したものといふことが出来るであらう。

## 八

若返り法のいろ／＼唱へられた中にも、最も世界的に問題を起したのは、オースタリーの首都ウキーンの學者、スタイナハ氏の主唱した外科的手術で輸精管結紮をする方法である。之は長壽を保つ人には性慾の旺盛な者が多い事や、何等かの方法に依て性的機能を恢復させると、自然に他の老衰に由來する諸現象も、消失して行くといふが如きことを前提として考案せられたものであつて、輸精管を結紮すれば、いつでも睾丸の間質細胞、即ち所謂レイヂツヒ細胞が増殖して、

性慾が旺盛になり延いて著しく若返ると云はれ、我が國に於ても前福岡醫科大學教授、榎保三郎博士が非常に之に熱中した結果、巷説の中心となつて、遂に瀆職の名の下に臍首されたといふ歴史附の若返り法であるが、之は男性のみがその恩恵に浴して、女性は與らずといふ不公平なものであつた。

此の顯著なる差別待遇に對して、不思議にも男女同權を主張する婦人論客は一言をも發しなかつたが、醫學者仲間からは異論が紛々として四方から起つて、さしも世界的に大流行を極めて居た此の人々をも、間もなく山師扱をして葬り去つてしまつた。即ちスタイナハ氏等が「間質細胞は内分泌を司る發情腺であつて、性慾を喚起するものである」といふのを否定して、「その若返ると認められるのは精神的の暗示作用に過ぎないし、假に一時的に性的興奮が起るとしても、それは決して永續しないものだ」としたのである。

此の若返り法に就ては、もう少し詳細にいふ考へであつたが、之は本誌（中央公論）の大正十年新年號に、永井潛博士が精しく述べられたことがあるから、單に主眼だけに止めて置く。



## 九

若返り法としてその次に出現したのは、一九二七年、即ち、昭和二年の新春早々に、セルジ・ヴオロノフ氏がパリで発表した外科手術に依る方法である。此の方法も亦スタイナハ氏と同じく、生殖腺の内分泌を旺盛にして、若返らうといふ考へであるが、前者が輸精管の結紮に依つて所謂、發情腺から内分泌が起るのを待つといふ間接手段であるのに反して、之は單刀直入に若い元氣の良い内分泌腺——睪丸或は卵巢——を移植しやうといふ直接手段である。即ちヴオロノフ氏自身は「使ひ古した自動車の部分品を取り換えるのと同様で、老衰消耗した内分泌腺を新しくすればいい。之に依つて百二十五歳まで生きられることは、自分が一千名に就ての實驗に徴して確實である」と云つて居るが、方法自身はスタイナハ氏法よりも單純であるし、且つ既にス氏以前に、ブラウンセカール氏が睪丸エキスの注射によつて、若返ると主張したのと同じの考案であるから、新し味が反つて少いかと思はれる。但しスタイナハ氏法が男性にのみ行はれて、女性を除外したのに反して、此の方法が公平平等に男女両性をして恩恵に浴せしめる點は、少くとも女

性の立場から見ても、賞讃に値するものと云ふべきであらう。

しかし同一考案に基づくブラウンセカール氏の注射法は、ホンの一時的のものとして、久しき以前に葬り去られたものであるし、本法に對しても亦、一九二八年正月にドイツ國フライブルグ大學のホフマイスター教授が、反對論を發表して、「無効なるのみならず、反つて危険を及ぼす場合さへある」と云つて居るのである。

尤も反對論は何にでも出るものであるし、睪丸エキスの注射の効力が少くても、睪丸全部の移植は、注射と同日の比ではあるまいから、あながち急に之を否定すべきものでないかも知れない。

## 十

近頃に至つて、スタイナハ氏と同じオースタリーの學者、カール・ドツプラー氏が、ヴオロノフ氏のように、他の動物の睪丸や卵巢を移植すること無く、老衰して活力の消耗した本人の睪丸又は卵巢に、直接に血液を補給することに依つて、その組織の更生をはかる若返り法を發表して、已に二百人に實驗したが、無効の者は一人も無かつたと揚言して居るのである。有効か無効か、は



た又どれ位の持続性があるか等、すべて未定の問題ではあるが、之も亦面白い考案と云つてもよいであらう。

## 十一

之を要するに、若返り法と稱せられるものにはいろいろ有るが、飲食物や藥品、或は運動の如き全般的の方法では、中々その効果を現はすまでに暇がかゝつて、惟急なる希望者を満足して持続せしめるに至難であるかの如き點がある。血管の硬化を防いで、血壓の降下をはかる事に依つて若返る方法、或は性慾を亢進せしめて若返る方法の如き、部分的に全力を注ぐ方法が、全般的のものよりも多く、又廣く行はれるのは、恐らく此の關係からであらう。しかし血管の硬化を防ぐだけで、果して全身が若返り得るであらうか？ 又性慾を旺盛ならしめることが、即ち全身の若返りそのものであると云ひ得られるか如何か？ に就ては、大に疑問を存するのである。かゝる部分的に全力を注ぐ方法の主唱者は、皆その部分が若返れば、他の部分も亦若返つて、やがて全身が若返るのであると力説して居るけれども、表向は、兎に角、主唱者自身と雖も、内心には

そこまで思ひ詰めて居ないのではあるまいか？ 唯々若返りたいと切望する者が、所期に急なるの餘り、何等かの方法に依つて部分的に効果の現はれるのを見る時に、「やがて全身も若返るであらう」といふ暗示——それは最初は術者から受ける暗示であるが、やがては一步を進めて、自己の要求の爲に生ずる自己暗示となつてしまふ——の爲に、確に若返つたと信ずるに至ると、それが同じ希望と、物珍しさの大衆の好奇心とに依て吹聴せられ、喧傳せられて、事實以上に奏効した様な外觀を呈して來る様な氣味が、大に有るかと思はれる。

主唱者自身も、徹頭徹尾、大衆を感心させて、巨利を占めやうといふ山師的根性のみを持つて居るのではあるまいが、之も亦自己の特意の考案をして、有効に且つ有名ならしめたいといふ熱望から、試験中に自己暗示にかかつて、どれも之もヒキキ眼で、有効確實であつたものゝ如く、曲解し勝ちのものである。

此の二つの考が經となり、緯となつて、有名な、而して確實な、幾多の若返り法を作り上げるのであるけれども、何れも皆短い年月の間に、世間から忘れられてしまふのは、つまり奏効が、主唱者の云ひ、或は被術者の吹聴するが如くに確實ではないからであらう。



若しもその奏効が確實であつたならば、人として殆ど之を望まない者の無い、有難い若返りの靈術が、一時的の流行に止つて、急速にその跡を絶ち、影をひそめる筈は無いのである。假令、噂は止むとしても、後から／＼問合せ、聞き訊して、その靈術を懇望し、切願して止まないものが、踵を接して主唱者の門前に市をなして居る筈である。

私は折角の若返り法に對して、門外漢の身として無効であるとは云はないが、しかしそれは望む方が無理な事からであることだけを、斷言して憚らないのである。

その理由は次の如くである。

十二

人類、殊に他に不足のないブルジョア階級に屬する人類の、「金はいくらでも出すから、若返りたい」といふ欲求の熱烈であるが爲に、後から／＼手を代へ、品を替えたいろ／＼の若返り法が、出ては消え／＼／＼して走馬燈の様に、目まぐるしくも去來して居る。考案者は熱心にその腦漿をしほり盡し、之に要する資本は惜しけも無く補給せられて居るに拘らず、古い時代から今日

に至るまで、不斷の努力が繼續せられて居るのも報ひられないのは、一體何の爲であらうか？

それは不思議でも何でもない。自然に對する大なる反逆だからである。不老長壽以上に慾張つて、地球を逆に回轉させやうといふ「時」に對する謀反だからである。

大自然が、折角有難い至公至平な思召に基いて、「王者も老いよ、美女もしなびよ」といふ無差別待遇を與へたのであるのに、その大慈悲心に感謝しないばかりか、地球上にのさばり返つた人類が、飽くことを知らぬ慾望から、遂に地球の廻轉を食ひ止めやうといふ不老長壽から、更に一歩を進めて、地球を逆に廻轉させやうといふ、此の蟲のいゝ欲求は、到底大自然の許可を得られる筈が無いのである。若し又許可無くして此の欲求を貫徹せんが爲には、實力で大自然を抑へなければならぬのであるが、そうするには人類といふものは、大自然の前にあまりに小さい。象の背に飛上つた蚤や、大佛の頭にとまつた蚊どころの比でない程、あまりに小さ過ぎるのである。

萬里の長城は、同じ小さい人類の匈奴を防ぎ得ても、大自然に對しては物の數でもない。深草の少將は追返せても、「時」の曲物の侵入は防ぎ得ないのである。



或る程度までの不老長壽を保ち得るに止つて、若返るといふことが完全に出来ないことは、自然を「出し惜しみ」する吝嗇漢として罵倒すべき理山にはならない。反つて人類一般に對する、至公至平なる大慈悲心を、自然に對して、厚く感謝すべき理山となるべきものである。

學者や山師の手に依つて行はれる、幾多の若返り法は、畢竟、ブルジョアの氣休めの遊戯に止るであらう。而して、真正の完全なる若返り法は、遂に永久に冒頭に掲げた様な偶話の中に踏み止つて、一步もそれから外には足を踏み出すことをしないであらうと思はれるのである。

## 古今東西媚藥雜考

### 一、惚れる藥か、惚れられる藥か？

「媚藥」は支那流の名で、和譯すれば、通俗の「ほれぐすり」となる。兩者共に媚びる藥、又は惚れる藥といふから、使用者自身が、誰かに對して媚びたり、惚れたりする爲の藥かと解せられるが、事實は反對に、使用者が他の人から、媚びられたり、惚れられたりしたい爲に、使用する藥品なのである。「之だから日本語は嫌ひだよ」といふ、外國語の名人も少くないことであらう。成る程、自動と他動、受身になること、仕掛けること、は、餘程明瞭にして置く必要があるもので、惚れられたつもりで居たら、案外自分の方が惚れて居た等は、赤面しただけでは濟まない羽目に陥つてしまふであらうから！

餘談は扱て置き、何か「媚藥」の事を話せと云はれたけれども、之亦甚だ厄介な註文である。



といふのは、モダン好みの昨今の人は、媚薬のかはりに「催情薬」といふ言葉を用ゐるのであるが、この言葉の定義が極めて曖昧であつて、動もすれば醫學上に用ゐられる「催淫劑」の方に流用されるのであるし、又此の催淫劑の事は、うづかり、之を口にすることが出来ないことになつて居るからである。

「そんなことは何でもないぢやないか。媚薬は純然たる催情薬であつて、催淫劑を含まないといふ前提の下に、話を進めればいゝぢやないか」

と教へてくれる人もある。しかし之が實際上、さう簡単に區別がつかないから困るのであることを、一言して置きたいと思ふ、柳里恭の隨筆「ひとり寝」の中に、

「……二十年前許り以前に、長崎へ線香渡りぬ。其線香竹しん香の如く、竹にねり付けしものなり。この香、淫薬なり。床に入りてかの香を焚くに、其匂ひ女の鼻に入りて、しばらくありて如何なるつとめの女良にても、忽ち野干の姿をあらはし、殊の外○○○○物也とかや、此の香程奇妙なるものはなしといへり。云々」

とあるのは、催淫劑らしくも見えるけれども、之を催情薬と見做して居る人もあるし、又此の

香と雖も、使用法に依つては高尚？なる催情薬とするに足るのである。腋香の匂ひは日本でこそいやがられるが、歐米人は一定の腋香の匂ひに引きつけられて、

「あの女の方が、匂ひがいゝから……」

といふ工合に、春の蝶の花の香に引きつけられる様に、戀愛の心も起せば、又それが催淫のよすがとなる時もあるとか聞及んで居る。

つまり香は同一のものであつても、之に對する相手の心は同一でない。戀愛の程度に止まれば催情薬であるけれども、一步を進めれば催淫劑の程度に入つてしまふのであるから、前にも云つた如く、その境界が甚だ不明瞭で、始末に困る次第なのである。

## 二、支那の媚薬、蝙蝠の黒燒

強精劑を除外した、嚴密な意味に於ける媚薬、換言すれば狹義に於ける媚薬の事を、最も簡明に答へるものは、次の俗語であらう、曰く、

惚れ薬、何が良いかと守官くわんに問へば



乃公ぢやいけない、佐渡の上

「黄金、是れ最上の媚薬」といふ金言は、たしかに正鵠を得て居るであらう。しかしそれは、あまりにヤンキー式丸出しであるし、又此の答案としては、餘りに短か過ぎて、及第が覺束ないから、申譯にも何とか云はないと納まるまい。

支那にはいろいろの媚薬があつたらしい。「相思子、叩頭虫、發殺嘴、驢駒媚、其他いろいろの名のものを、青貝摺の小盒に入れてあつて云々」とかいふ事が、小説にあつたのも、矢張り媚薬のことであつた。同じく又、麝香入りの内服薬云々ともあつたが、之は廣義の部類に入るものらしい。「廣東新語」には又次の様な事が書いてある。

廣東地方には、岩山に洞窟が澤山あつて、奥深くつて、晝尚ほ小暗いその中には、氣味の悪い怪鳥と伍して、蝙蝠が居る。その蝙蝠は、夏は出で、野生の荔枝を食ひ、冬は單に大氣を吸ふのみであるが、春秋の二季には洞内の乳石の精汁を食つて、翼の色は鼠に似て居る。それから百年を経たものは身體の色が赤く、千年を経たものは純白で鵲位の大きさがあつた。而してそれよりもつと古くなれば頭に鶏冠が出来て居る。

此の蝙蝠は、身體中に陽精が充滿して居て頭が重い爲に、いつでも頭を下にしてぶら下つて居る。夫婦仲が至極睦しくていつでも一所に棲んで居るのみならず、その中の一疋を捕へれば、残りの一疋は慕ひ寄つて来て、すぐに捕へられる位である。従つてその肉は補血薬として効があり、その毛は婦人病を治するに妙であるし、之を黒燒として思ふ人に振りかければ、その戀が叶ふ事請合である。

少しく餘談にわたる氣味があるけれども、支那で蝙蝠が、此の方面に重んぜられて居ることは或る書物に、秦の始皇帝が宮女に試みた處方として、次の如く載つて居るのに依つても、知ることが出来る。

一、朱砂、密佗僧、乾烟脂、各等分

右細末にして、蝙蝠の血をとりねり合せ、女の身上にぬりつくれば、年を経て退かず。若し其の婦人、別人と交を偷めば、其の色にしるしあらはる。實に不測の法なり。



### 三、守宮の黒燒

支那の媚薬が編輯の黒燒であるのに反して、日本のそれが守宮の黒燒であることは、誰も皆承知であるから省略するが、唯一つ云ひたいのは、支那で編輯の血で女の貞操を見つけたのと同様に、日本では又守宮に依つて、女の貞操を鑑別したといふことである。即ち前に引用した柳里恭の隨筆「ひとり寝」の下巻に、次の如き文字が見えて居るのである。

いもりのしるしとは、歌にもよみなしたれども、説たしかならぬ事あり。博物志に、いもりに朱を食はしむれば、後にはいもり悉く赤う成て死ける也。それを取て、陰干にして、女の身に文字にても何にても、印を書て置く也。此のしるしいかやうに洗ひても落る事なし。若し女、淫事をなしぬれば落ること也。それによりて、是を印にして、女の貞節、不貞節をば見すぐる事也とあり。(中略)

本草に守宮の説などあり。法華經、嘉祥大師の疏に、守宮の血をとりて、女の髻にぬる時は、若しその女が不心中なる事ある時は、洗へども落ちずと見えたり。博物志の説、うらはら

の事也。されば歌にも、

忘るなよ、たぶさに付し蟲の色の

あせなばいかゞ人にたゞさん

あせなばうせるといふ事也。

是は法華經の疏の心を用ひたり、又

あせぬとも、つれぬりかへん唐土の

るもりも守りかぎりてこそあれ

此歌は、博物志の心を用ひたり。

消えるのが本統か、消えないのが本統か、そんなことはどつちでもかまはない。要は和漢共に蝠媚と守宮との差こそあれ、模倣か創意かは知らないけれども、何れも似たり依つたりの、同じ様な考をして居る點が面白いといふことである。



## 四、媚藥としての鼠

媚藥には又、鼠を用ひることもある。「和漢三才圖會」の第三十九卷に、漢文で書いてあるのを、讀下しにすれば、次の如くであるのを見て貰ひたい。

鼠印。即ち外腎なり。人をして媚悦せしむ。正朔、端午、七夕、十一月、子の時を以て、北に向つて刮取し、陰乾として青囊に盛り、男は左、女は右に、臂の上に繫ぐ。人之を見れば權悦せざるもの無し。求むる所、心の如くなり。

御説御尤と云ひたいが、鼠の死んだ奴を、臂にしぼりつけられて、喜ぶかどうか、甚だ以て疑問である。之はうづかり、眞似が出来ない様である。

所が、鼠を媚藥とする話は、和漢三才圖會ばかりでなく、「太平廣記」にも亦、次の如く書いてある。之も漢文であるのを、便宜の爲に讀下しに改めて見よう。

紅飛鼠は、多く交趾及び廣管隴州より出づ。皆、深毛あり、茸々然たり。唯々肉翼は淺黒色なり。多くは紅蕉の花間に雙伏し、採捕者、若し一を獲れば、其の一は去らず。南中の婦人、

買て之を帶し、以て媚藥となす。「嶺表異録」に出づ

此の鼠も、雌雄共に居て、一方が捕へられれば、他方も亦捕へられるのを忘れて、その地を去らない程、交情の濃かな點は、前の蝙蝠と同一であると見える。此の流儀で行けば、日本では宜しく鴛鴦の黒燒や、進んでは駱駝の黒燒を作る必要があるだらう、但し駱駝を二正一所に焼くには少々大型の竈を新設する必要があるかも知れないが、大きいだけに效能も亦、著大であるかも知れないではないか。

## 五、とかげに似た諾龍

もう少し、媚藥として用ひられる鳥や蟲等の話をしなければならぬが、之も亦「談會」卷二十九に、漢文で書いてあるから、讀み易い様に改めて見よう。

投荒雜錄に、番禺の人、端午の日に逢へば、鵲窠中を探り、兩小石を獲、名づけて鵲枕といふ。此の日、之を得る者は佳にして、婦人、之に遇へば、簪珥を抽きて、其の値を償ふ者あり。



蓋し、取つて以て媚男薬となすなり。

又曰ふ、南海郡に水虫あり、諸龍と名づけ、蜥蜴に似たり、得る者あれば、必ず二つなり、雄者、既に獲らるれば、雌者即ち至り、雌者、獲らるゝも、亦然り、雌雄を以て、俱に竹中に置くこと少頃にして、竹中の節、自ら通ず。里人、貸して婦人の男子を感はす術となす。

西陽雜俎に、鸚鵡の交る時、足を以て足を勾し、鳴て翼を鼓すること、闘の状の如く、往々にして地に墮つ、俗に其の勾足を取つて、媚薬と爲すなり。

どんなものか知らないが、蜥蜴に似て居るといふ水虫も、交情密の如きこと、前の紅飛鼠等と同様であるし、鵲の巢の中の石でも、鵲枕と稱せられる有難いものは、必ず二つづゝ並んで居るとあるのが面白いではないか。

その上、その諸龍といふ水虫を、竹の筒に入れても、節の區別を食ひ破つて、二正の雌雄が合してしまふ所が、又日本の守宮の話と、同一である點に興味があるから、序に守宮のその話を抄記して、参考に供したい。之も序に前記「ひとり寝」の一節であることを断つて置く。曰く、

又俗説に、守宮の交りたるを引はなして、竹の筒に、節をこめて兩方に入れ置くも、中のふしを食ひぬきて、又交む物也。それを引はなして、山を隔てゝやきぬれば、煙、山を隔てゝも交るとかや。此のるもりの一つ我持てる時は、必ず後にはその女と、男が夫婦に成るともいへり。

### 六 イギリスの黒焼

英國でも、媚薬として黒焼をふりかけるが、それは守宮や蝙蝠ではなくて、鹿の陽物の焼いたものである様に聞いて居る。所かはれば品かはるとは、此の事を云つたものかと、をかしくなつて来る。さうであらう。英國では媚薬とも呼ばず、惚れ薬とも云はないで、アフロチアックと云ひ、もう一つ碎けては又ラヴ・フィルターと呼ぶのであるから。

### 七 牛の胎盤

牛が分娩した後に、後産として出て来る所の胎盤と稱する。ホット、ケーキを數枚重ねて、莓



ジャムを塗つた様な形の、頗る氣味の悪いものを、母牛自身がペロリと、うまさうに食べてしまふ。牛が子を愛することは頗る濃厚で、所謂「舐懐の愛」といふ諺までも出来て居る位であるが、此の母子間の濃厚な愛情を生ずるのは、此の胎盤の効果であらうと考へられたものと見えて、矢張り支那には此の牛の胎盤を原料として造られた媚薬があるとか聞いたことがある。それを又荒唐無稽な想像本位のものみに止めて置くのは惜しいと云つて、輓近やかましい内分泌研究の立場から、現代の醫學に基礎を置いて、研究をやつた學者があつたけれども、その結果はどうであつたか、不幸にして聞くことが出来なかつた。

動物の翠丸や、人類の精液の類を、強精劑として使用する話は澤山あるが、胎盤の方は純粹の媚薬で、珍しくもあり、又奥床しくもある。

### 八 氣ちがひ茄子

現實主義の強精劑に關するものは、泰西にも、支那に攷けない程澤山あるが、空想を交へて成否の程も覺束ない所の、純粹の催情藥——媚薬——といふ、非現實的のものは、どうも泰西の方

には少いらしい。それが私の調べ方の粗漏のみによれば結構であるが、或は兩者の性格の相違に基くのではあるまいかと思はれてならない。

曼陀羅華、即ち所謂「氣ちがひ茄子」は、花の形が朝顔に似て居るから一名朝鮮朝顔とも呼ばれるもので、名の如くそれを食へば發狂するとされ、古來和漢の魔酔劑として用ひられた植物であるが、之が媚薬として舊約聖書の中にも出て居ると云ふ。その用法を知らないで居て、此の植物に雌雄の兩株がある所から、之が媚薬として使用されたのであると聞くと、扱ては之が植物界に於ける蝙蝠であらう、或は守宮の役をするものであらうと考へられるけれども、その考は少しく早計であるらしい。何故かといふのに、此の曼陀羅華といふ植物の主成分で、魔酔劑と考へられ、氣狂ひ茄子の異名を生ぜしめたものが、アトロピンと稱する猛毒であつて、此の毒物を極めて少量に用ふれば、〇〇〇に分布して居る血管を擴張させ、局部的充血を來して、××の効果があることを、立派に藥物學が教へて居るからである。

バイブルの御聲がよりはあつても、之はあまり奥床しい方ではない、至極現實的の強精劑に風するもので、之を黒燒として私に意中の人に振りかける爲に用ひられるものではないらしいので



ある。

### 九 媚藥處方

非學術的の某書に、次の如き媚藥のことが書いてある。

嗅で、女の心を亂す藥

一、丁子、一匁。甘松、一匁。紫梢花、八分。白檀、二匁。附子、二匁。五八霜、二匁。麝香六匁。龍腦、八分。海豹肝、八分

右九味、細末にして煉密にてねり、土器に入れ、地中に埋め、七日程経てとり出し、香氣のぬけざるやうに貯へ置き、女に對して何氣なく焚くべし。女自然に上氣する。○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○  
○○靈藥也。

之はたしかに嗅覺に訴へる媚藥であつて、黒燒をふりかけるよりも、數等効果の著しい事は明白である。汗臭い者が、嫌はれるが如く、麝香や龍腦等の香氣が好かれるのは、當然のことであ

るのみならず、麝香は本來、麝香猫や、麝香鹿、或は麝香鼠等の類の身體に、交尾期に限つて特に著しく發生する、天然の媚藥なのである。しかし効果が著しいだけ、それだけ、一步を誤れば直に催淫劑の部類に入る懸念のあることは、本稿の劈頭に、特にことはつて置いた通りである。君子は危きに近寄らずといふから、強精劑や、催淫劑には全然觸れないことを前提として、媚藥を嚴正なる催情藥に限定した私は、此の邊で筆を止めなければならぬ。

### 十 結 び

若し催淫劑や強精劑に立入つてよければ、三四百頁位の書物は立所に出来る。しかし支那の書物に所謂、房中藥や助情藥、廣義に於けるアフロチアークムを持出して、上下三千年に亘る長い歴史のある「房中術」の講義はしない。單に淡い詩の世界に生きる催情藥の話、語を換へて云へば、一篇の清い戀愛を催進する藥の話をしたのに止まる。

明白に兩者を區別したいことを、重ねて茲に述べて置く。

本邦に於ける媚藥の本家、守宮の黒燒の話は、餘り長くなり過ぎることを恐れて、わざと省略



したこと、前述の如くであるが、若しそれに就て精しく知る必要のある人は、小著「世相表裏の醫學的研究」(實業之日本社刊行)中の、「黒燒」の項を見て貰へばいゝと思ふ。

## B C 漫談

一

BCといふと、一見西洋の「いろは」にあたる「ABC」の、Aの活字が脱け落ちた様に見えるけれども、之は植字の間違ではなく、確實に「BC」なのであつて、BCとはベース、コントロール、即ち我が國では産兒制限で通つて居ることの略字なのである。但し「ABC」に似て居るから、わざと「BC」の字を用ひたらうといふことは、單に想像のみでないものと、考へられる節があるから、此の題名を「西洋いろは」の誤植と思ふ人にも決して無理はないのである。

二

千葉縣の警察部では、年々多額の經費を投じて、野犬狩をする甲斐もなく、毎年一萬頭近くも



野犬が増殖するのに困りはてた揚句、昭和三年度から、縣下の獸醫を督勵して、犬の罌丸拔取りといふ珍案を行ふことに定め、五頭乃至三十頭を槍玉に擧げたものには、四回から三十二回までの奨励金を交附することに決定したのである。

正に犬の去勢で、犬に對する産兒制限の窮極の策であるが、此の事實は單に犬に關する珍談として、笑つて過す譯に行かない。何故かといふのは、犬殺しを使役して見つけ次第撲殺してもいゝといふ犬、且つ××期が春秋二回位に確定して居る所の犬にして、尙此の如く子孫が繁榮するとすれば、無暗に殺すことの出来ない人類に於て、——而して××期といふものを動物のことゝのみ考へて居る所の、閨房に甚だ不規則で、季節を選ばない人類に於ては、果して如何？といふ疑問である。

明治二十七八年の日清戰爭當時に「三千餘萬、兄弟共よ」と歌はれた日本の人口は、三十年後の今日、六千萬を算して居るのである。

勿論その中には臺灣や朝鮮等の人口も加へられては居るものゝ、日清、日露兩戰役の戦死者や本所被服廠跡その他の大震災に依る多數の死亡者もありながら、人口の増加に影響等を見せな

い所から見れば、かゝる野犬の問題にも一寸首を傾ける方が賢明な様になつて來はしないか。

産兒制限相談所が、方々に、後からく出來ること——それから……

いろ／＼の××藥殺菌劑と稱して無數に賣出されること——

その他、一寸言ひにくひ事の數々が、目まぐるしい程入亂れて、活躍して居るのを見れば、以上の言葉もいさゝか、奇矯には見えるかも知らないが、萬更、杞憂でもないらしく思はれるではないか。

### 三

産兒制限をしたいといふ人にも、いろ／＼の種類があつて、良いとも悪いとも一言にして片付け去ることは困難である。種類のみならずその階級に於ても、上流の富豪から、下級の貧困者に至るまで、あらゆる階級を通じて、その希望が満ち／＼して居るだけは明である。

子供があると手足纏ひで、社交界に活動することが妨げられるから困るとか、子供を生むと容色が衰へるから、老衰防止の爲に産兒を制限したいとかいふのが、上流の階級に一番多い原因で



ある。

所が下層階級になつて来ると、「夫婦がいくら汗水を流して働いても、子供ばかり出来て到底食つて行かれません。若し此の上に子供が殖えたら親子諸共餓死するより他に、選ぶべき道がありませんから、何とかして産兒を制限したいのです」と、前者とは全く別の原因を持つて居る。

そんなら中流にはあるまいと思ふのは大間違で、最も此の問題を切實に考へるのが、實に此の中流階級なのである。従つてその原因にもいろいろあるが、就中、無理のない事で、且つ多數なのは、子弟の教育の關係からである。

「私達の將來は見えすいて居ます。私達の一生をして意義あらしめるのは、子供を立派に教育することのみであります。所で、二人か三人ならば、苦しみながらも相當の教育をしてやれますがそれ以上となると私達の所得では、之を如何することも出来ません。幸ひにして産兒制限といふことが出来るならば、子供を三人に限定したいと思ひます」といふ様な注文は、全く同感である。「徒に數を多くするよりも、その質をよくせよ」といふ主義の私としては、之でこそ社會の中堅であると云ひたくなる。

曾て知人の一人は「子供と親との關係に依つて、日本の社會は三階級に分つことが出来る。上流は親と子と没交渉の階級である。中流は、親が子供の犠牲となつて、一生子供の爲に苦勞する階級である。而して下流は之と反對に、無制限に子供を生んで、親が子供に養はれようとする階級である」と云つたが、此の天晴れなる中流階級の言葉を聞く毎に、私はその知人の説を聯想させられるのである。

無闇に生めるだけ生んで、生みはしたが養ふことも出来ないで、小僧に出したり、藝人にしたりして、左團扇を理想として居るが、さう中々うまく行かない。その家から澤山の浮浪人や犯罪人を出す向ふ見ずの無謀出産階級を、恐ろしいものと見るのが、この種の中流の人々の心なのである。

#### 四

産兒制限希望の理由は、未だその他にもいろいろ有る。例へば、妻の健康を保持せんが爲に、妊娠を避けなければならないといふものもあれば、結婚はしたものの、未だ人の親となるだけの責



格が無いから、向後數年間修養を重ねて後に、おもむろに親になる爲に、當分の内は妊娠を避けたいといふ、産兒制限ではない、産兒延期或は産兒繰延といふべきものもあるし、甚だしいのに至つては、同棲はして居るが、子供の出来ることを欲しないからといふ様な、極めて蟲の良い代物さへあるから、一々數へ立て、居ては、限りがあるまいと思はれる。

しかし如何に蟲が良くとも如何に得手勝手であつたにしても、産兒制限といふことは、妊娠を未然に食ひ止める方法であるから、決して法に觸れるものではない。若しも之をやかましく咎めるならば、結局子供の出来ない夫婦を禁錮に處したり、オールドミスから獨身を理由として罰金を取つたりする所まで行く必要も生じて來やうし、翻つては子澤山の律義者に勳章をやる所まで徹底させなければ嘘である。然るにそんな心配は少しもないので、實際上に困ることは、産兒制限と墮胎とを打ちがへて、刑法の則を越える者が少くないことである。

此の誤解は、妊娠といふ現象を未然に防ぐのと、妊娠といふ現象の出來上つて後に、破壊するのとの相違を知れば、忽ち氷解する筈で、例へば之を火事といふ現象に比較すれば、産兒制限は「火の用心」に注意することであるし、墮胎は燃え上つた後にする「消防」作業であつて、本統

に、一目瞭然の別があることがわかる。それにも拘らず、單にその誤解者の數が多いのみならず、相當の教育のある人までが、矢張りその誤解をして居るのは、あんまり産兒制限を悪いことの様

に、秘密にし過ぎた結果であるまいか。

今日の事は云ふのを憚るが、徳川時代には墮胎が公認の姿であつて、東北地方や上總國あたりでは之が細民救済の方法とされてあつた。上總地方では人民の分に應じて、子供の數が限られて居て、子供を多く作ることは「身の程を知らぬ不届者」として、上を憚らぬ行爲の不都合は勿論、郷黨からも爪はぢきをされたものである。従つて佐藤信淵の「鑛造化育論」に「十室の邑、年々墮胎殺兒をなす者二、三人を下らず、或は一國にては七八萬に及ぶものも往々これあり」等と明記されてある様な始末であつた。

それは昔の話であるが、妊産婦の死亡率等は、特別の流行病でも無い限り、大抵一定したもので、現に日本國中の十六都市のそれを平均して見ると、

大正十年

四・六五プロセント

同十一年

四・四五〇

B C 漫談



同十二年	四・五四%
同十三年	四・二八%
同十四年	四・一七%

の如く、その百分率が年々略一定して居るのに、試に大正十四年の統計を、各都市別に見るとそこに非常の差を生じて

東京市	五・七九プロセント
大阪市	四・二〇%
京都市	四・三一%
名古屋市	二・五五%
神戸市	四・〇〇%
横濱市	三・八四%

といふ如く、少い名古屋と、多い東京とでは二倍以上になつて居るのは何故であらうか。悪く氣を廻せば、東京市に特に妊産婦の死亡率の高いことは、そこに何か不自然な原因が介在して居る

のを暗示するものではあるまいかとも、思はれないことは無い。之が若し果して一部の者の邪推に過ぎなければ幸福である。

物事には何にでも弊害の伴はないものはないから、弊害が伴ふからと云つて産兒制限を禁止しようといふことは、反つて悪い。或は角を矯めて牛を殺す様に、墮胎を盛んにしたりするかも知れない。さうでなくてさへ、両者が混同され易い事を思へば、兩者の別を知らしめて、墮胎等をさせない爲に、BCのこと位は知らせる方がいゝであらう。BCはABC同様、今日に於ては處生上の「いろは」なのであるから。

## 五

舊約か新約かを忘れたが、何れにしてもバイブルの中に、オナンといふ人の話があつて、彼が「地にそゝけり」と記されてあるのも、亦産兒制限の一法である。現に南洋邊の絶海孤島で、食物の關係上、人口を限定しなければならぬ所では、現今に於ても男子の肉體に手術を加へて、結果に於て地にそゝがしめることに依つて産兒制限の實を擧げる様な制度？の行はれて居る所



もある。従つて二千年近い昔から、已に産兒制限はあつたと云ふべきであらうが、氣の毒にもオナンといふ人は、後年の人々から誤解されたものか、見當違ひの「オナニー」といふ言葉に依つて、その有難くない名を永久に傳へて居るのは、飛んだ災難と云はなければならぬ。

但しオナン君に基いた産兒制限の方法、即ち〇〇法といふものは、云ふべくして實行の困難なものであることを一言して置く。

## 六

淋病に罹つて甲羅を経る中に、睪丸炎を患ふことが珍らしくないが、その睪丸炎を左右共にすれば、その結果子供が絶対に出来ないといふことになるから、之こそ理想的の産兒制限法であらう。

又微毒に罹ると、婦人の方の身體が産兒を制限するに適したものになる。即ち幾度妊娠しても皆中途で自然に流産してしまつて、一人前の子供は容易に出来ない。たまく生きて生れたと思へば、生後一、二年以内に病死したりして、弱さうな、智慧の足りない様な子供が一人も出来れ

ば、大出来の方であるから、微毒も亦産兒制限病の一つと認められるが、数は少くても、良い子供の出来ないのが重大な缺點である。

此の二つの病氣——淋病と微毒と——が、申合せた様に何れも花柳の巷からのお土産であるから、最も簡単に産兒制限をする爲には若い時分から努めて花柳の巷に出入するがいいといふことになる。「律義者の子澤山」といふ諺は、之が裏から説明するもので、花柳界等は何處にあるかも知らずに、朝から晩までコツ／＼働く者程、子供が澤山生れるといふのは、花柳病に縁が遠いからであると云ひたい。

## 七

此の如く永久に子供の出来ない様な身體になつてしまふことは、最早産兒制限の爲に骨を折る世話もなくなる點から云へば、最も理想的方法であるが、しかし永久に出来ないといふことは、萬一、小數の子供が病氣その他不慮の災害等で死んだ場合に、之を補充することが出来ない。或は之が爲に、老後に及んで子供の無いのに淋しさを感じながら、不幸の生涯を送る原因とならな



いとも限らないから、一寸良い様に思はれるけれども、之はあまり感心した方法ではない。

従つて永久的に不妊症になる方法、即ち所謂「永久的産兒制限法」に屬するものは、いろいろあるが、之にはうつかり手をつけることが出来ない。若し之に手をつけるにあつては、よくよく先の先、末の末まで考へてからにしなければならぬ。

そこで、單に一言、之に屬する方法としては、例へば、レントゲン線放射（X光線をかけること）その他いろいろの内服薬が用ひられることを云ひ、併せて此の種の内服薬は、何れも子供の出来なくなる程までに、内生殖器の組織を破壊する毒物であるから、それと同時に身體の他の部分をも犯して、健康を害することが決して少くないことを、特に注意する必要があると云つて置く。

## 八

「永久的方法」でいけないとすれば、何がいいか。それは説明するまでもなく、一時的の産兒制限方法、即ちその場限りの方法が残るのみであるが、之は安全であるかはりに、その場限りのこ

とであるから、いつまでも××××のある度毎に、心配をしたり、手数をかけたりしなければならぬので「うるさくつてやりきれない」と多くの人が云ふ。而してその防禦工事を粗末にする所から、はからずも豫想外の結果を生ずることになる。つまり、事ある毎に注意をして居なければならぬのが厄介であるといふ缺點を持つて居るのである。

否な缺點はそれのみに止まらない。折角注意に注意を加へても、その効果が常に確實とは云はれない。下に述べるが如くいろいろの方法や手段があるけれども、何れも皆不確實な場合、萬一の破綻を勘定に入れて置くべき必要があるといふ缺點をも持つて居るのである。

しかし此の缺點を持つて居ても、身體の健康を害することはないから、危険なる永久的の方法を避けて、而倒でも、亦不確實でも、此の一時的の方法を選ぶのが賢明な策であること、勿論である。

## 九

一時的方法が澤山ある中に、生理的事實を基礎とした。毫も手数のいらぬ方法が一つある。



それは婦人の妊娠すべき時期の研究に基き、月経を標準として、一ヶ月中に八ケ日だけが妊娠する日であるといふ學說から來たものであるから、無論悪いとは云はないし、加ふるに手数のかゝらぬといふ便宜もあるから、結構此の上無しといふ點に異議を挟む餘地を存しないけれども、すべての婦人に於て月経の週期が恰度二十八日と正確に行かないで、病的その他の理由から、早くなつたり遅くなつたりして、何日から何日までが、本統の安全デーであり、不妊デーであるかを明にしない場合が多い。それが不確實になれば矢張り不安で、何か他の防禦工事を施さなければならぬといふ必要が生じて來ることを考へなければならぬ。

それから又、假に一ヶ月中に八ケ日だけが不妊デーであると確實に定まつたとしても、人間の本能といふものが、極めて不規則で且つ勝手氣儘なものであるから、却々おとなしくお膝の上を手を置いて、その妊娠デーを避けたり、安全デーまで待つて居てくれたりしないのである。理性の交通巡查が、如何に大聲叱呼しながら此の交通整理に努力しても、性慾の十字路に於けるGOとSTOPとは、到底、須田町や日比谷の様に、整然とは行かない所に人類の悩みがある。折角の學說も、之が爲に木ツ葉微塵に吹き飛ばされてしまふのである。

もう一つ、妊娠と妊娠との間隔を大きくして、上の子と下の子との年齢を隔てさす爲に、赤ん坊に哺乳を永く続けることが役に立つ、即ち上の子に乳を十分に飲まして居る間は、次の妊娠が容易に起らない様になるといふことは、生理的根據のある確實な事實で、それこそ手数もいらす、何の害もないのであるが、乳房を見せまいとする歐米婦人な基礎として、母乳の必要な一ヶ年位で切上てしまはうとする小兒科學の直譯の影響、或は乳を多く飲ませると容色が早く衰へるからとか、或は子供が手足まとひになるから不便だ等の爲に、實行されない様である。しかし之を實行しない爲に、次から次に妊娠が續發して分娩又分娩により、より以上容色の衰へて居るのに氣がつかないのは、一を知つて十を知らないといふ誹りを受くべきものではあるまいか。

## 十

その他の一時的制限方法は、物理的方法と化學的方法とに大別することが出来る上に、物理的方法に依るものも使用する物品の形態や用法に、種々の別があり、又材料から見ても、礦物性のものがあり、動物性のものがあり、或は植物性のものもあつて、一定して居ない位であるから、



その一々に就て語つて居れば、餘りに長くなることは勿論、又詳細に之を一般的に云ふべき自由を持つて居ないのである、唯々それを總括的に見る時には形態に於て、或は用法に於て、その別はあつても、歸する所は何とかして、男女兩性の生殖細胞の接近を妨げようとする方便に過ぎないと云へる。

物理的方法であつて、少しく趣の違ふのは液體の力を借りる洗滌方法である。但し之はその爲に使用する器具の良否に依り、形狀に依り、或はその川法の如何に従つて、或は全く無効になる上に手間と勞力とを多く費し、或は又反對に著しく有効である上に、手間と勞力とを要することが非常に少かつたりするものであるから、之にはその器具の選擇に心を川ひるのが肝要であらう。家族の目のつく所に大仕掛にブラ／＼ぶら下けて置くものなどは、體裁の上から云つても、甚だ感心川來ないものである。

尙ほ前掲の物理的方法の中で、持続的に身體につけて置くものは、その部分にいろ／＼障礙を來して、病變を作る基になるから、之は心して避けなければなるまい。況んやそれが純金製等と稱して、極めて高價であれば尙ほ更不經濟で不得策であらう。

## 十一

化學的方法には、液狀として用ひるものも瓦斯體として用ひるものもあり、又保存の場合の形態に至つては、更にいろ／＼であるが、之も一々云ふことが出來ない。或は又或る種の物理的作用をするものと、併用されるものもある。而して此の化學的作用は、机上で論ずる場合には甚だ簡單明瞭であるけれども、實際上に於て有効ではあつても、感覺を變化させるものは使用することが出來ないから、此の點が甚だ厄介で、此處が苦心を要する所であることのみを一言して置く。

## 十二

最後に以上の種々の方法があつても、何れも一時的の方法は皆奏効が不確實であると云つたから、不確實なものを行つても、何の役にも立てないではないかといふ疑問が起るだらうと思ふ。此の疑問に對して、特に一言を附加へる必要がある。



然り個々の方法は不確實で、多くの缺陷を生じ易い。しかしその各個の缺陷を、互によく、補ひ合ふ様に、適當に之を二つ三つ組合せて防禦工事を施したならば、先づ以て金城鐵壁を築き上げる事が出来る。勿論それが爲に多少の手續を要するが、それは何事に於ても免れ難いこととして、辛抱しなければならぬ。

又各個の方法を單一に採用する場合、それが不確實であるとしても、尙ほ放任するに勝ること萬々であらう。世の中に「絶対に完全無缺」といふものは殆ど無いから、若し不完全だと云つて放任すれば、天下遂に何一つすべきことが無くなる譯ではないか。不完全ながらも、出来るだけの力を盡すに限る。盡せるだけ盡して尙ほ及ばない時には、あきらめるのが肝腎であつて、「人事を盡して天命を待つ」といふのはこのことである。支那の聖人孔子さへ、「丘の渡らざるは是れ命なり」と云つたと、「論語」の中に書いてあるではないか。

之がABC、即ち産兒制限の話の「いろは」である。

## 胎教ローマンス

### 胎教と子供の肉體

エヂイオピアの王ヒダスベスの妃ベルシナは、王子を胎内に宿して王宮の庭園を逍遙して居た時に、いつも園内に立てられてあつたギリシヤの神々の大理石像に見とれて、永い間そこに玉歩を止めるのを常として居たが、扱て月満ちて生れた王子を見ると、それは驚くべき程眞つ白で、丁度大理石の神像そつくりであつたから、王に見咎められては一大事と、そのまゝ王子を人知れず遺棄してしまつたといふ話を、ヘリオドールが書いて居る。

之は無論作り話であるけれども、次の話はマルブランシュといふ人が見た事實談で、右の王妃の話と全く同一なのであるから面白いではないか。

或る婦人は、宗教心の篤い人で、妊娠中にいつも氣高い老僧の立像をあこがれながら眺めて居



た所が、生み落した子供の顔は、不思議にも皺苦茶で、その老僧そのままであつたばかりか、肩の所にあつた母斑の形も、その立像が載いて居る僧帽の通りであつたといふのである。

支那の聖人、孔子はその名を丘と呼ぶのであるが、此の命名のいはれを聞くと、之も同じ様な關係なのである。

孔子の母は顔氏といつて、孔子の父の許に嫁いで後に、久しく子供が出来ないのを歎いて、魯の國の尼丘山の廟に參龍をして、「何卒子供をお授け下さい」と一心に祈願したのであつた。その甲斐があつて聖人孔子が生れたのであつたが、靈驗はあらたかなもので、孔子の頭の形が、不思議にもその尼丘山の形そのままであつた所から、紀念の爲につけたのがその一字を取つた「丘」といふ名なのであつた。

リンベックといふ人の見た一例に、次の如き事實があるが、それは我が國で古來から「妊娠中に火事を見てはいけない」火事を見ると生れた子供に赤あざが出来るから」と云ひ傳へる事實を、ヨーロッパで保證してくれたかの如くに見える。或る婦人が、分娩の五六日前に近火があつたので、見るとも無く、盛んに燃え上る火焰を眺めた所が、赤ん坊の頬に大きな赤あざが一つ

出来て居た。

又フォン・ベアといふ學者も、或る農夫の妻が、妊娠中に耕作の手傳をして居た時、フト自宅の方に火の手が高く上るのを見て、驚いて歸つて見ると、自分の家は安全であつたが、そのまゝ産氣ついて生み落した赤ん坊の前額には、火焰の形をした赤あざが一つあつた事實を認めて居るのも、矢張り前例と同じ様なことである。

あざといふ意味で「痣」といふ字がある上に、母斑の二字をあざと訓ますのは何時の時代からであるかは知らないが、矢張、前例の様な事から起つたものではあるまいかと、推測されるではないか。兎に角、此のことは、世俗にさう云ひ傳へるばかりでなく、徳川時代の醫書にはちゃんとそのことが書いてある。

即ち左にその一例を書き抜くが、それは今から二百年前の名醫で「中華の醫書とて誤謬尠からず、古人の説とて精確なるものみにあらず」といふ、立派な見識を持つて居た香月啓益先生の著書「婦人壽草」の一節なのである。

「(前略)妊婦、火災のとき出で、火を見るべからず。心氣を驚動して胎氣やすからず、生子か



ならず身中に赤痣出来るもの也。私俗、これをほやけといふ。中華の醫書にていまだ考へず、しかれども多く試むるに違はざること也。云々』

此の火事の話のみばかりでなく、例へば妊娠中に熊の壁畫を始終見て居た婦人が、熊の様な子供を生んだといふ様な實例は、ドイツの婦人科醫者ウエルレンブルグ氏の書いた「過去、現在に於ける婦人のフェルゼーエン」といふ書物に澤山出て居るし、英語でもアンテナタール、トレイニングといふ様な文字が使用せられて居るから、胎教といふことは決して支那と日本との考だけではない、東洋のみならず、泰西にも廣く行はれた考なのである。而して前記の様に皮膚の色や、瘤の様な外形ばかりでなく、形のない心のよしあしにまでも重大な影響を及ぼすものであると教へて居る。否な此の心の變化こそ、胎教の主眼であらうと思はれるのである。

### 胎教と子供の心

烈女傳」といふ書物に、「妊娠したならば、寝る時にも、坐る時にも、立つ時にも始終氣をつけなければならぬ。をかしたものを食つたり、よくない物を見たり、淫靡な音響を聞いたりして

はいけない。正しいことばかりを見聞して居れば必ず形が端正で、才氣の優れた子供が生れる」と書いてあるのを、名高い「小學」といふ本に引用して、その一例として周の文王といふ名君の母太任のことを挙げ、そこに胎教といふ言葉の使つてあるのが、「胎教」の唱へられた最初であらう。

文王の母、太任が、妊娠中胎教に心がけて、「目に悪色を視ず、耳に淫聲を聽かず、口に贅言を出さず」といふ態度を執つた結果、明敏な文王が生れて、周の世、八百年の基礎を作つたのを支那の例とすれば、日本では伊藤仁齋がその夫人の懐妊中、毎夜々々、孝經や先賢の列傳等を読み聞かせて居た結果、後に父仁齋よりも名高くなつた大儒、伊藤東涯が生れたといふ例を、一番有名な話として居る様である。

それから又、此の考が單に和漢のみに限らないことは、ミンニー・デビスといふ米國人の著した「理想の母」といふ書物に、次の一節が見出されることに依つても知ることが出来る。

「青松白砂の海濱に暮を避けて、自然の風物を友としながら、未だ戀人であつた未婚時代の様な心持で、幸福に暮して居る夫婦があつた。此の二人の間に出來た子供は、高潔な品性の持主の男



子であつたが、それから數年を過ぎてから、生れた弟は、同じ親の子でありながら、兄とは全く別人の様な、誘惑に反抗する力の少い子供で、後に不正な行爲の爲に家名を汚して、世間の人からは「兄と較べると丸で黒い羊の様だ」と批評されたのであつたが、之は決して子供ばかりの罪ではなかつた。

此の不肖の弟の生れたのは、兄の誕生よりも數年後で、兩親の境遇や心持が兄の生れた當時とは全く異つて居た時であつた。即ち父は事業に失敗して以來、それを恢復しようとして益々失敗を重ねたのを、旨く胡魔化さうとしていろ／＼の奸策を考へ、をかした悪い人物とばかり交際をして居たし、妻は又之を苦に病むのと、失望のあまりに、毎日不愉快な歳月を送迎して居る時なのであつたことを考へなければならぬ。

此の胎教を主題として作られた探偵小説に、ドイツの作家ホフマンの書いた「スキュデリー嬢」といふのがある。その筋は、母が妊娠中に立派な寶石入りの首飾りに非常の執着を持つて居た結果、その子供は成長後パリー第一の細工物師となつて、貴族からいろ／＼の注文を受ける程の名人であつたけれども、自分が一心になつて作り上げた首飾等を、注文主に渡して後にどうもそれ

が惜しくてたまらない所から、夜ひそかに出かけて持主を殺害しては、寶石入りの首飾り等を奪ひ取るのをと居た常といふことで、小説ではあるけれども、胎教の重大なことを最も痛切に人の母たる者に知らせる上には、事實談以上に有力なものである。

### 胎教と不良兒

妊娠中の母の心持が、子供を不良にすることに就ては、一生涯を免囚保護事業に捧けて居る篤志家、原胤昭氏の調査がある。氏が、立派な兄弟の中で、タツタ一人犯罪者となつたといふ者に就てよく調査した所によると、その子供を懐妊中、母が夫の放蕩を心配したり、嫉妬の爲に煩悶を重ねたりしたのが多いので、之を「前世の約束だ」等といふのは妄説であると云つて居る。即ちその書いてある書物「母と子」の中から、一二の顯著な例を抜いて見れば、左の如くである。

第一例。維新前に、幕府の役人で金持であつた時代に、酒と女とに身を持ちくづして居た當時、妻が嫉妬と心配との中に生んだ長男は、放火と強盜の前科五犯といふ人物になつたが、維新後全家故郷に引退して、土地の開墾に従事し、楽しい家庭の人となつてから生れた弟の方は、立派な



高等官になつた。

第二例。呉服商、新家庭の樂しかつた時代に生れた長子は善良であつた。所が企業熱に驅られて失敗し、財産や名譽を失つて、妻の煩悶と不平の中に生ませた次男は不良の徒となつた。しかしその後再び家産を取返して、親睦團樂の中に起居する様になつてから妊娠した三男は、兄弟の中で最も優れたものになつた。

第三例。維新後、手習師匠をはじめた或る士族が、新妻を迎へて一家平和の中に備けた長男は、成長後一人前の飾職となつたが、その後小學校が出来た爲に失職して貧困と家庭の不和と不満から外遊びを始めた時代に、妻が嫉妬と不快の中に生んだ子供は、長じて窃盜八犯の札付になつた。しかし後に巡査に採用せられて、品行は方正となり、家庭は質素儉約になつてから妊娠した第三男は、小僧から仕上げて立派な商家の大番頭になり、母に孝養をつとめて居る。」

### 胎教を何と見るか

以上の例の中には、今日の學問で説明出来ないこともかなりあるし、又胎教と云はないでも、

境遇や感化によるものとして説明出来る點もある。そこで學者の中には、「胎教等は考へる必要もない」と云つて、一文の價値もない様に唾棄してしまふ人もある。しかし妊婦が驚いた後に早産や流産を起す事實から見ても、精神感動の力の大きいことは明白であるし、妊娠中の婦人は特に敏感になつて居るのであるから、三百口に近い妊娠中の心掛けを謹む様に教へる胎教を、一概に排斥するのは、一を知つて十を知らぬものではあるまいか。妊娠性精神病といふものがあつて妊婦の中でも始めて妊娠したものに特に多く、且つ妊娠の後半期に之にかゝり易いと説いて居る醫家もあつて、妊娠性精神病と認められるものには、ノランコリーが最も多く、躁狂や早發性痴呆も少くないとか、之が爲に自他殺をはじめ放火や竊盜等が行はれる事實を見れば、「火事を見ても赤あざが出来る筈はないから胎教はうそだ。だから勝手な行動をするがよい」といふ議論には少しく賛成し難い點が出来て來はしないか。

又別の立場から考へても妊娠中に、平安な心持で居ることは、胎兒の發育を順調にして、畸形兒を作つたり、異常分娩や難産を起す原因を無からしめるものであるに反して、妊娠中に煩悶苦惱を續けたり、不安な心持に始終することは、單に胎兒の發育を不良にするばかりでなく、自ら



を苦しめる可能性を増加するものであるから、どう考へても胎教の心持を捨てないのが、愛兒の爲でもあり、又同時に母自身の爲でもある。宇宙一切の事物を、悉く學問で説明することは、今日に於ては不可能なことなのであるから、説明不十分を理由として、一切を古草鞋の様に捨てしまはうとするのは、少々無謀に過ぎるか考へずには居られない。

若しも周の文王の母、太任の話が、あまりに古過ぎて氣に入らないならば、せめて近代にナポレオン一世の母が、妊娠中にブルタークの英雄傳を耽讀したといふ話に耳を傾けて貰ひたいと思ふ。假令百歩を譲つて、此の話が全部、うそであるとしても、妊娠中に好い事を聞き、良いものを見、良い事をして、心を常に平安にして置くことは、少しも妊婦に不利を與へるものではないことを考へなければならぬ。しかし之に反して、妊娠中に不安と懊惱を續けて、火事を見て驚いたり、良くない話を聞いて胸騒ぎをさせたり、果ては良くないことを敢行して、餘計な心配を重ねたりすることは、假りに胎兒に影響が全く無いといふ證明がついても、尙ほ妊婦たる母自身に、早晚苦痛と危険とを與へる可能性が極めて濃厚であることを考へて置く必要があらう。況んや、それが胎兒に影響が無いと斷言することは出来ないし、悪影響を及ぼすであらうとは、誰に

でも考へられることではないか！

胎教は重んずる方がいゝ！ 少くとも重んずる方が賢明である！ よしや、聖人、孔子の頭の形が、母の祈願した尼丘山の廟の記念であるといふのが、荒唐無稽の迷信であるとした所で、自ら好んで不良の子供を生むといふ前例のある危険を敢てしてまで、胎教を踏みつけて快哉を叫ぶ必要は少しもないであらう。いゝ子が生みたいと思ふ人は、胎教を重く見て、妊娠中の行爲と思索とを謹むがいゝ。否な婦人のみならず、人の親とならうとする父、或は人の夫としてその妻の爲に、はた又自分並に自分の家の繼承者の爲に、此の胎教を重く考へて、妻の爲に不安懊惱の素地を作らない様に心掛ける必要が十分にあるであらう。



## 子供の出来る迷信

一

子供の出来るか出来ないかといふことは、妊娠や分娩の生理的關係のよくわかつて来た今日に於ても、尙ほ人爲的には思ふ様にならないことで大にある。「もう子供は多過ぎて困るから、此の子を最後にして、之れ以上は決して生むまい」と、堅く決心をして、その最後の子供といふ云ふ意味で、お留とか、留吉とかいふ名をつけて置いても、その後から二人も三人も生れて来て困つて居る人がある。最近の新聞にも脚本家の仲木貞一氏が、三男の方にそれと同じ意味で「大尾」といふ文字を、ヒロヨシと讀まして、その令息を最後のつもりで居た所が、近頃又四番目の赤ちゃんが生れ、「大尾」の關係からその命名に困つて、「付録」とつけやうとした所、夫人が泣いて抗議を申込まれたと書いてあつたのを見た。



そうかと思ふと又、幾年経つても子實の無いのを、非常に悲しんで居る家もあるし、「子供は有るけれども、男の子が一人も無い。如何してかううちでは、女の子ばかり生れるのだらう」と不平をいふ家もあれば、一方には又、女の子の一人も無いを残念がる人もあつて、子供の出来る出来ないは「神様の御心によるもの」と考へる人さへ少くない様である。

従つて古代の未開人の間に於ては、之が最も不可思議で、且つ畏敬すべき魅力を持つて居た次第で、今日の人々の眼から、漫然之を見れば馬鹿々々しく、滑稽に見える生殖器崇拜の風習が、世界到る處に存在したのも、決して怪しむに足りない現象である。それは無論我が國にもあつたもので、今日でも尚ほ道祖神その他の形式で、方々に残存して居るのを見ることが出来るのである。

その様な關係から、子供の出来ることに關して迷信の存在することは想像に難くないのであるが、その事柄の性質上、他人に話すことを憚りもしやうし、又誌上に公にし難いこともあつて、具體的に例を示すもの、少いことは遺憾千萬と云はなければならぬ。

## 二

ヨーロッパでは、こぶのとり（鷓鴣）が屋根の上に巢を作れば、間もなくその家に婚禮があるといふ迷信が、廣く一般に行はれるのみならず、生れた子供は鷓鴣がつれて來ると、小さい子供に教へる等、鷓鴣と子供とを結びつけて考へるのである。而して特にオランダ地方に於ては、屋上に鷓鴣が巢を作つた家では、その巢の中に居る鷓鴣の數だけ、子供が生れると信ぜられて居るのである。

それから結婚披露の式場で、葡萄酒が水かを偶然にこぼせば、それは近い中に子供が出来る前兆であると信ぜられて居るし、又新妻が、毎夜、枕に就いてから、何處からとなく、サラサラと水の流れる様な音を聞くことも、亦同じ様に近々子供の出来る知らせであると考へられて居るのである。

ヘッセン地方に於ては、結婚式の翌朝に、花嫁には必ず水をスcoopがはりに與へることが習慣になつて居ります。之は「そうしないと、夫妻の間に子供が出来ないから」といふ迷信に基いて



起つた習慣であります。

ポヘミア地方に於ては、土龍（むぐらもち）が家の方に向つて穴を掘れば、その家には近い中に子供が出来るかと考へられて居り、又鳥（ふくろ）が良い鳴き方をして、屋根の上を飛んで行く時にも、亦近々に子供が生れるかと考へられて居る。

モラビア地方に於ては、「なゝかまど」がよく出来た年には、子供が多数に生れるとか、榛の木がよく育つた年には、私生児が澤山生れるとかいふ迷信もある。それから又、ポヘミア地方では、二月朔日に双児が生れると、その年の中に尙ほ三組の双児が、その近所で生れるといふ迷信もある。

ドイツ等にはこんな事を集めて書いた本もあるから、便利であるけれど、日本語で此の種類の書物のあることを知らないから、聞いただけの事實、若干を述べて見ることにしよう。尙ほ此の種の事柄は、地方に依つて違ふであらから、地方々々の習慣等を、教へて下されば幸福の至りである。

## 三

温泉國の日本では、方々の温泉地に於て、「その温泉に浴すれば子供が出来る」といふ傳説がある。

文治三年の頃、源の義経が、靜御前を同伴して羽前の國まで落ちて來た時に、靜御前が急に産氣づいたので、男手ばかりで處置に困つて居る折柄、武藏坊辨慶がフト谷間を見ると、湯氣の濛々として立込めて居る一大岩石があつた。且つは怪しみ、且つは喜びながら、得意の腕力でその岩を割ると、そこから温泉が滾々として流れ出したので、早速それで産湯を使はせたのである。而してその石の形が龜に似て居たからであらう、その山を龜割山と名づけ、生れた男子をも龜若丸と呼んだので、今日でもその地に龜割觀世音があつたり、子枕石や、辨慶硯石等の傳説に因んだ舊跡があつて、瀬見温泉と稱せられる此の温泉には、浴すれば必ず子が出来ると云はれて居るのである。

名高い伊香保の温泉には、近くに子持山といふ地名もあつて、



こゝは上州、伊香保の湯。」

向ふ小野の子、子持山、

子ないお方はござらんせ。

といふ俚諺があるばかりでなく、その温泉に浴して、愛兒を授けられた人々も、少くないと云はれて居る。

陸前の國の鬼首温泉には、「子持湯」といふ別名もあつて、享保年間の書物にも「子なき女中は懐胎ありと申傳へ候。」と書かれてあるから、此の温泉に依つて、子供の出来る傳説も亦相當古くからあつたことと思はれるのである。

その他にも尙ほ、伊豆の吉奈温泉や、羽前の五色温泉をはじめとして、「赤ん坊の出来る湯」或は「子持湯」といふ様な名稱や、傳説のある温泉は、全國にかなり澤山あることと信じるが、之は迷信といふべきものでなく、相當に科學的の根據をも持つて居ることとして、或はそれ等の地方の人々から抗議を申込まれるかも知れない。

つまり激しい生存競争の中に、日常羅網として活動ばかりを續けて居る人々が、その惡戰苦闘

に引かへて、のんびりと天恵の温泉にひたりながら、昔日の疲勞を忘れて、未來の爲に餘力を蓄積するのであるから、その間に子供の出来ることは、相當に理由のあることで、全然迷信とは云はれないのである。しかし或る温泉には、夜中、人が寢靜まつて後、そつと藁人形を浮かして來るといふとか、或は浮いて居る藁人形を、人に氣づかれない様を持つて來れば、いゝ赤ん坊が生れるとかいふことが云ひ傳へられて居るそうであるが、そうなればもう確に迷信であると云ふことが出来る譯である。

四

「いくらほしくても子供が出来ない、もう此の上は人力ではいけないから、神佛の御力にすがりより他に、何とも致し方がない」といふ人々は、世界到る處に在る。

徳川綱吉は、將軍職に就て萬事を思ふまゝに振舞つた人であるが、奥方に子供の出来ないことだけは、之を如何ともすることが出来なかつたのである。そこで數多くの後宮を大奥に集めただけども、それでも誰一人として、將軍の御胤を宿すものがなかつたので、綱吉は遂に知足院の住職



隆光に命じて、男子懐胎の祈禱をさせたのである。祈禱の爲に知足院の建物は、間もなく莊麗に出来上つたけれども、肝腎の公達は一向出来そうにも見えなかつたので、短氣の綱吉を怒らしては一大事と、隆光の方から先手を打つて、「祈禱をしても公達の出来ませんのは、上様が前世に於て殺生を遊ばされた業の結果と思はれます。就きましては、一切の生物を憐まれることは勿論、わけても上様の御生年に當る犬を御憐みにならねばなりません」と、まことしやかに申立てたのである。綱吉將軍は成年であつた。その結果直ぐに犬の保護令が出て、犬を殺した者は死刑にするといふ様な、物騒な天下になつたことは、日本歴史に名高い話である。即ち元祿七年から八年にかけて、十二萬五千坪の地に大小屋を作らんが爲に、お側衆、米倉丹後守と、藤堂伊豫守とを普請奉行に任じ、津山の城主、森長成と、多度津の城主、京極高成とを工事手傳とした他に、犬奉行や、犬専屬の醫官が出来、元祿八年に、犬の爲に費された食料が、米三百三十石六升、味噌十樽、干鰯十俵、等と記された上に、將軍には誰いふとなく「犬公方」といふ皮肉な尊稱が奉つられたのも、皆その子供が出来る様にといふ迷信に基いたものに過ぎないのである。

## 五

一國の支配者としての將軍でさへ、右の通りである？すれば、その他の人々が夢中になつて子供ほしさの一念から、神社佛閣に参籠をして、幾日も幾日も満願の日の来るまで、一心不亂に祈願をこめるのは、寧ろ當然過ぎる位である。従つて此の風習は、古今東西を通じて行はれたもので、ヨーロッパに於ても、暗黒時代と呼ばれた中世紀には最も盛んであつたと稱せられて居るし。日本では楠正成といふ大忠臣が、その母が子の出来ないことを嘆じて、信貴山の多聞天に祈つた結果として生れ、幼名を多聞丸と云つた様である。支那の大聖人孔子も、母の顔氏が、魯の國の尼丘山に祈つた御利益として生れた爲に、その紀念として、名を丘、字を仲尼と呼んだのである。

之で見ると、神佛の力にすがれば、親以上に立派な子供が出来て、鳶が鷹を生むかの様に見えるのであるが、之は偶然であらうか、それとも何か理由のあることであらうか？

三七、二十一日の間、薄暗いお籠り堂の中で、苦しい思ひを忍びながら、来る日もく／＼一心に



祈願をこめて、弱り切つた母の心は、夢にも子供の出来ることのみを思つて居ると、愈々満願の日に近い一夜、五彩の雲が棚引いて、名香の薫つて居る中に、神々しい白衣をまとふた仙人の姿が、夢幻の中に出現して、聲さへいとも氣高く、

「ちよー 内儀、よく承はれ。汝等夫婦の心願、奇特の至りなるに依り、日夜參籠の熱心に免じ、よい子寶を授けてやるぞよー」

と神託が下つて、有難さ忝なさに恭しく瞑目して、感謝の念を捧げて居ると、むらさきの雲に乗せられて、極樂の淨土に遊ぶ様な心持に陶醉して居る間に、煙の如く仙人の姿は消えてしまつて、いつの間にか曉の旭光が、戸の隙間から洩れて来る。

その靈驗のいやちごなことを、夫にも告げて尙ほも信心を怠らない中に、月は満ちて玉の様な男子が生れたといふ話の中には、子供が神佛にあやかつてか、少しも父には似ないことがある。それは極めて不可思議で、迷信の如くにも見えると同時に、又極めて平凡に、容易く科學的に立證することが出来る様にも思はれるのである。

## 六

「閏年には、猫も杓子も子を生む」とか、

「閏年には、小槌を見ても孕む」とかいふ諺があつたり、或は

戌の日に、晒の賣れる閏年

といふ文化年中に出来た川柳があつたりして、昔から閏年には子供が澤山出来るといふ迷信がある。

その最後の句の説明の爲に、一言して置くが、戌の日といふのは、犬はお産の軽いものであるから、犬にあやかつて軽くお産が済む様にといふ考から、犬張子の玩具を贈つたり、戌の日を選んで岩田帯をしたりする迷信？があることを云つたもので、句中の晒は、腹帯にする爲の晒木綿のことである。それと同じ意味のものに、

戌の日に、嫁はづかしい帯をする

といふ川柳もあるし、又

子供の出来る迷信



戌の日に、婆々アしつぽを振つて來る

と産婆の喜ぶことを、尻尾を振る犬にかけたものもある。

それから尙ほ十二支に關する迷信としては、

「卯の年には美人が生れる」といふ謠や、「庚申の夜に孕むと、盗人の子が生れる」といふ考へ等がある。「東海道名所記」に、「庚申の夜に孕みたる子は、遊魂の卦にあたる故に、人となつて盜をするなりといへり。曆家の説にや」とあるし、又次の様な川柳は澤山ある。その爲か何かわからないが、私達も小さい頃に、「庚申の晩にはお話をするものだ」と聞かされて居つたことを、今でもよく記憶して居る。

今日は庚申だと、姑いらぬ世話

庚申にお仕事をする〇〇〇

新世帯、七庚申も〇〇つもり

庚申に出來たは、壬生の小猿也

最後の句の「壬生の小猿」は、熊坂長範の手下の盜賊の名。その前の句の「七庚申」は、普通

庚申の日は一ヶ年に六回ある筈でありますから、閏年か何かでもなければ、七回もあることは無いのである。その六回の庚申以上にも、新婚者は尙ほそのいましめを破るといふ意味なのであらう。

七

密柑のニ夕袋一所につながつたもの、或は栗の實の中に、澁皮で二分されて入つて居るものを、何れもニ夕子と呼んで、之を一人で全部食べてはいけない。若し一人で食べれば、ニ夕子を生むから、その半分は誰か他人にやれといふ地方もある。

すると又、一方では「便所の掃除をすると、よい子供が出来る」と教へる所もあるが、之は人のいやがる仕事を、進んでやらせる爲の方便から出たものかとも思はれるのである。「數の子（鯨の子）を食べれば、澤山子供を生む」といふことを、耳にした記憶があるが、「秋茄子は嫁に食はすな」といふ謠には、之に似た意味は無いのであらうか。秋の茄子はおいしいから、憎らしい嫁に食べさせないのだといふ説明を聞いたこともあるけれども、子種が多くなり過ぎては困



るからであると解するのがいよと云つて居た人もある。私には何れが本當かわからないから、御教へを煩したいと思ふ。

滿洲で泥細工で、支那一流の濃い青や赤の繪の具をつけた、桃の實の形の玩具を、支那人の家に賣つて居るが、之は子供のほしい婦人が買うものであると云つて、それを賣つて居る荒物屋の様な家に笑はれたことがある。桃の實と赤ん坊といふと、何だか桃太郎のお話を考へさせられるが、精しく御承知の方から教へて戴ければ、感謝に堪えない次第である。私が笑はれたのは、大正三年のことで、所は奉天府の支那市街であつた。

「赤ん坊はどうして出来るか？」

こいふ子供の質問に對するドイツ人の解答

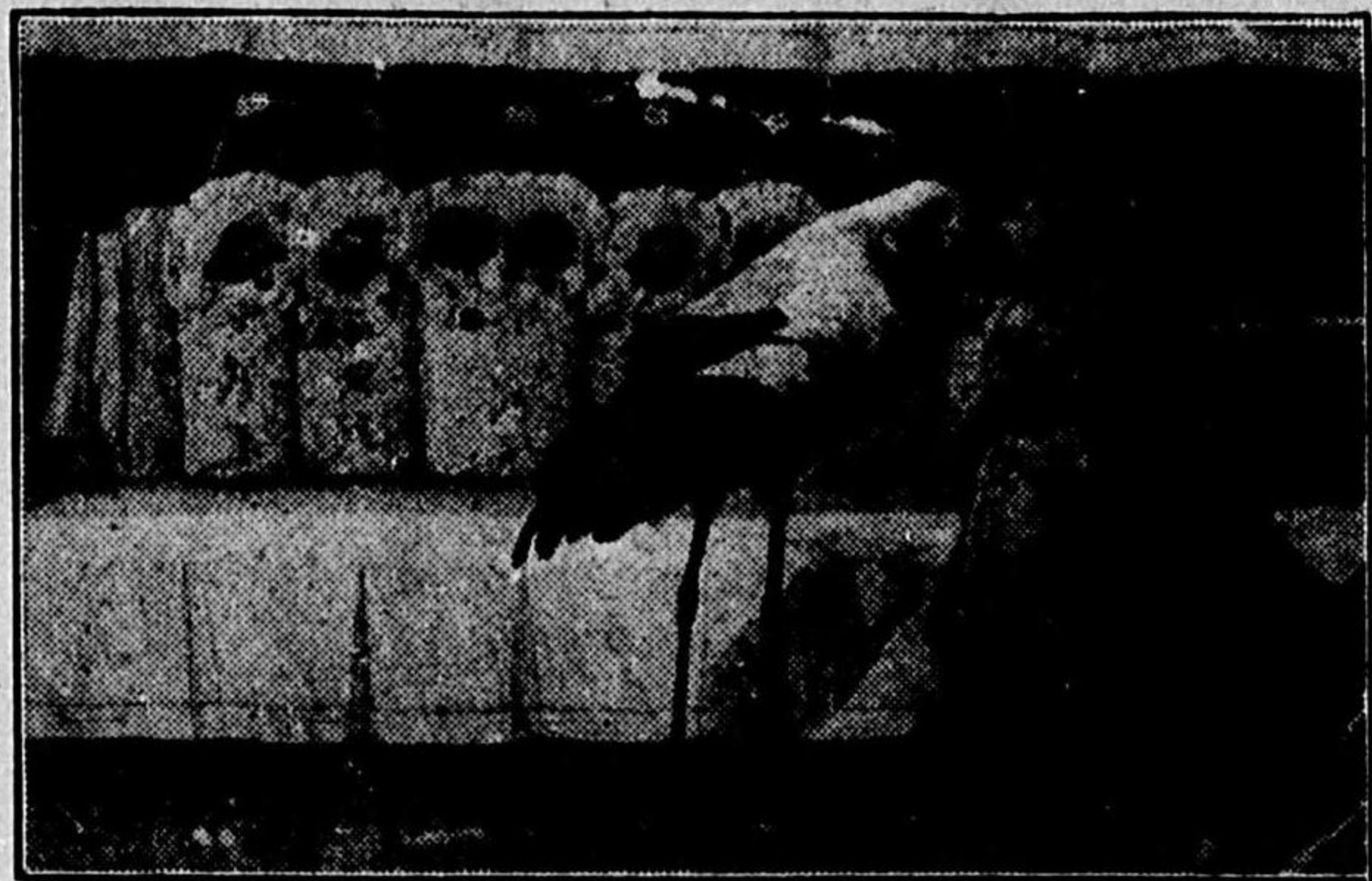
性教育を子供に施すかどうかと云つて、問題にすると、せぬとの如何に拘らず、ズツと昔から「母さん、父さん、坊やはどうして生れたの？」といふ質問に澤山の父や母は困りぬいて居る、そして困りぬいた揚句の果に、「母さんのお腹から出たのだから縫つた痕がチャンとあるでしやう」と云ひながら、下腹部の正中線にある妊娠線を指示する事を案出した様であるが、之は到る處皆そうではなくて地方により、社會によつて種々の異同があるであらう。一國內既に然りであるから、外國はどんな風にして此の質問に應答して居るかを見るのも亦一興であらねばならぬ。其一例としてドイツの父母は何と答へるかを紹介すると左の通りである。

ドイツではコウノ鳥 (Borch) が遠くから赤ん坊を父母の處へつれて來ると教へて居る。そこで第一圖や第二圖の様にどれでもほしい子を選んで來てくれる意味を示した繪があるし、玩具に

「赤ん坊はどうして出来るか？」



■ 一 第



も亦コウの鳥が立つて居て、横の草原の中に籠があつて、籠の中に赤ん坊と鳥の玉子が入つて居たり、又は破れかゝつた鳥の玉子から、赤ん坊が半分出かゝつて居る様なのがチヨイ／＼見られる。氣をつけてさがしたら定めて、澤山ある事があらうと思ふ。

第三圖、第四圖も亦コウの鳥が赤ん坊をつれて來る事を意味しては居るが、之は單に子供に説明する丈でなく、進んで青年男女の爲に諷刺的に畫かれたものである。

即ち第四圖は愛の天使たる「キューピット」がストルヒ國手の玄關を訪ふて「甲女と乙男の爲に赤ん坊を頼むぞ」と依頼して居る所である。コウの鳥が首を半分出して居る横に「Dr. med. Storin」といふ表札がある

■ 二 第



「赤坊はどうして出来るか？」

■ 三 第

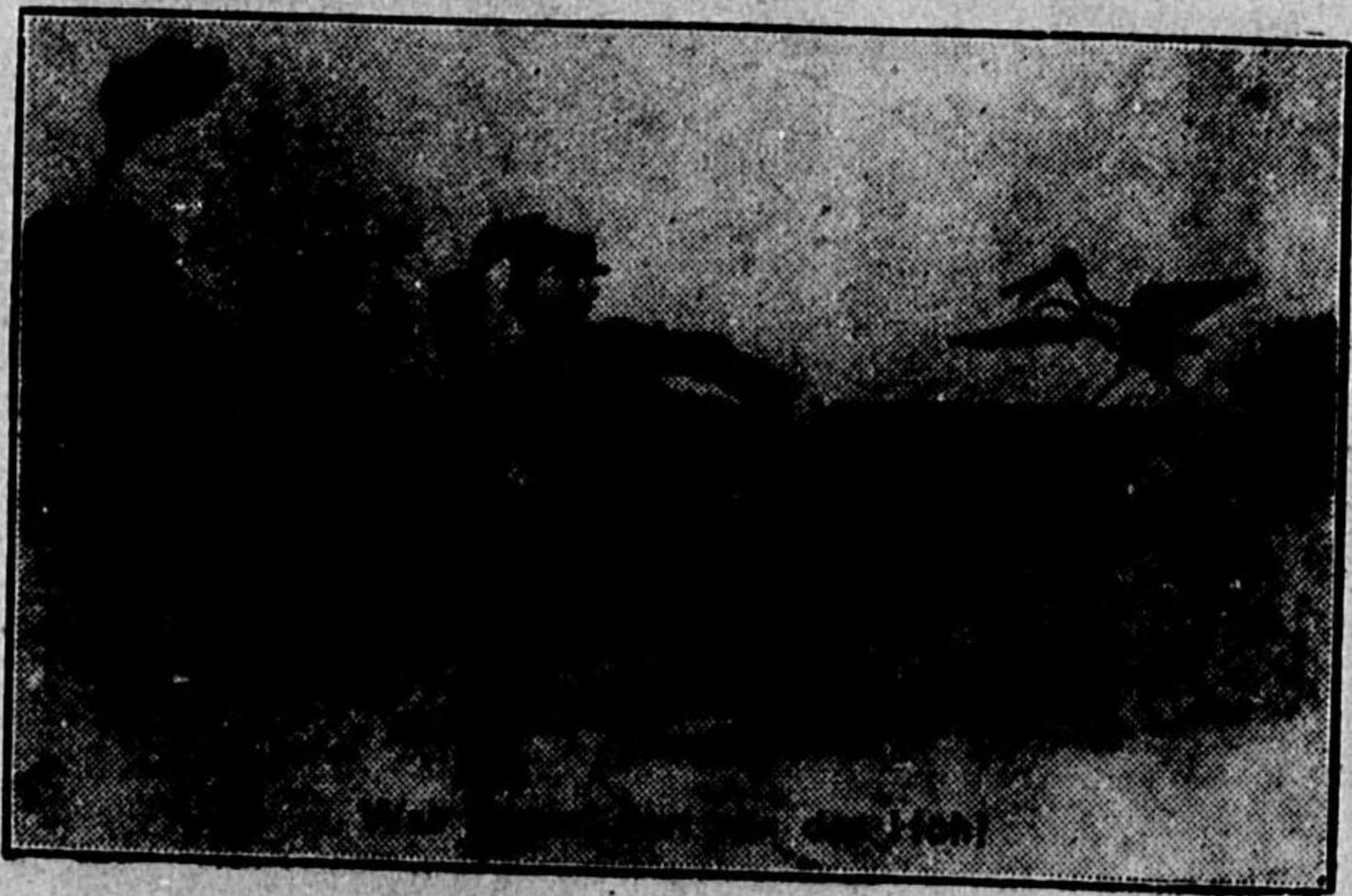




第四圖



第五圖



のを氣をつけるがい。第三圖は甲女乙男の爲に花束を持ち赤ん坊をつれて、コウの鳥が玄関を訪づれる所で、*Meide stes, das rat' ich Dir, Diesen grossen Vogel hier!* と説明が書いてあるから「シ、ヨツ、中、氣をつけて居なさい。こんな大きな鳥が居る事を忘れてはいけないよ」と云つて「因果の胤を宿しなざるな」と戒めた所である。

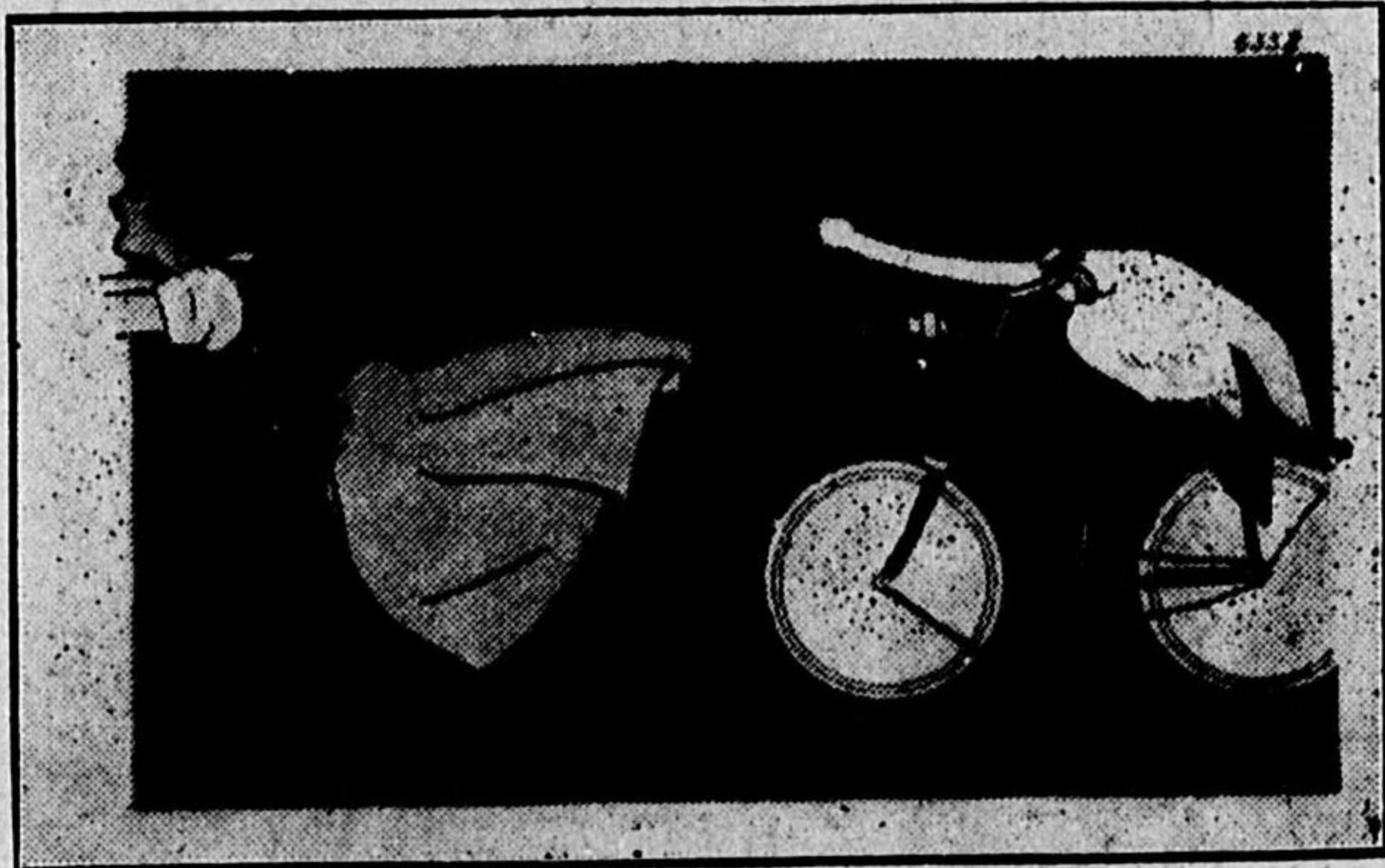
コウの鳥の漫畫化はソレ丈に止まらず、更に第五圖以下の如きものを作つて居るのが面白い。第五圖は若い男女が無意識に楽しい夢の様な事を語り合つて居る所へ、*ダシヌケ*にコウの鳥が二人を追ひかけて來たので、春夢は之が爲に破られてしまい、大騒ぎをして取りへず、逃出す所である。即ち「やあ飛んでもない事がおつ始つたぞ」といふ意味の註釋がつけ加へてある所以であらう。

次に第六圖はコウの鳥を自轉車に乗らせて、其追跡が急速である事と、先づ第一に追跡されるのが、男ではなくて女である事を示して居る。それから第七圖は更に一步を進めてコウの鳥が先づ女を捕へると、それに驚いて女が、相手の男を捕へる、而して男が又それに驚いて逃出しようとする所であつて、第六圖と第七圖とは何れも非結婚者が、内證の享樂に耽つた揚句の紋切形にな

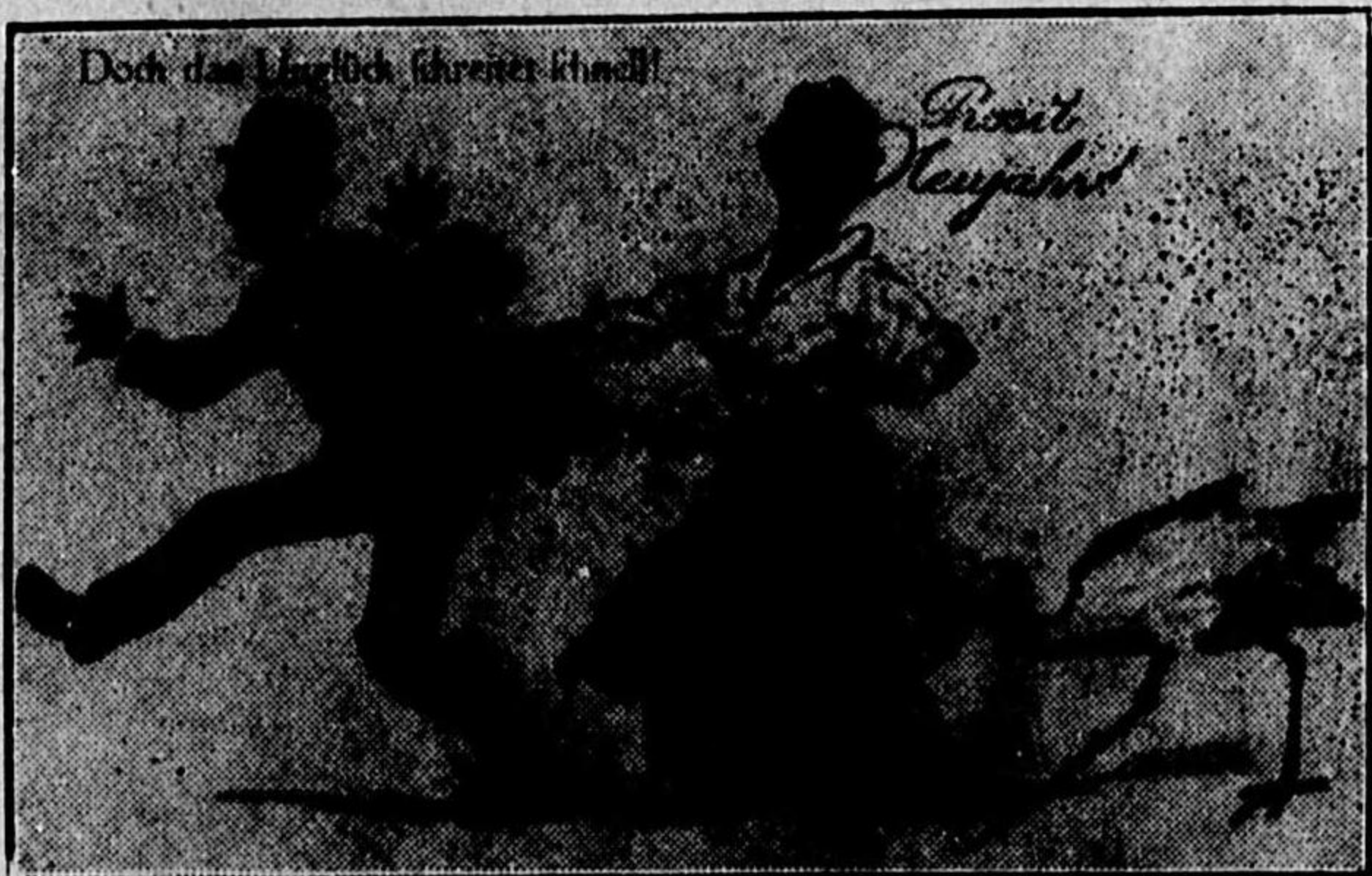
「赤坊はどうして出来るか」



第六



第七



つた徑路、即ち妊娠する迄は中よくして居るが、妊娠となると男が女を見すて、其危険を逃れやうとする状態を諷刺して居るのである。

私はドイツ文を集めて見たが、各國のを集めて對稱して見たらば必ず面白からうと思ふ。多識の諸君に「秘藏の智識を貸して下さい」と御願ひする次第である。

「赤坊はどうして出来るか？」



第八圖



附記

第八圖も、同じ意味の繪で鳥がくはえて來るのに、  
 屋上には「いらないよ」と書いてある所が面白い。但  
 し之は英語だから恐らくアメリカのであらう。

夢遊病雜話

—

新聞の三面や、小説の中等に「無遊病者の様にふら〜と歩いて來た」といふ形容が、度々使はれてゐるけれども、無遊病とは一體どんなものかを知つて居なければ、何の事だかわからないから面白くも何ともない譯であるし、萬一書く人が之を知らなければ、或は飛んだ滑稽な描寫をして物笑ひの種を蒔くに至るかも知れない。

兎も角、一種不可思議で一見氣味の悪い無遊病者の奇怪な現象を説明して、之に興味を持つ人や、小説の類を読む人々の参考にし、併せて若干の作家の踏み臺になりたいといふ考で、此の一篇を綴ることにしたのである。「道理で無遊病者の様な、ふら〜とした書きつ振だ〜」なんて、ひやかす事丈は勘辨して貰ひたいものである。



## 二

夢遊病は、本名をゾムナンプリスムスと呼ばれて居る。それはゾムヌス(Somnus)即ち「眠り」といふ字と、アンプロ(ambulo)即ち「漫歩」といふ字とを結びつけて作り上げた Somnambulismus であるから、字義から云へば「睡中漫歩」であるけれども、亦別にノクタンプリスムス(Noctambulismus)——夜間漫歩の意——の異名もあつて、ドイツ語でもそれを直譯して Schlafwandeln 又は Nachtwandeln と云つて居る。だから夢といふ言葉を、意譯でつけたのは、誰か知らないが餘程詩人に違ひないのである。而して夢遊病者といふ名が、廣く一般に行はれて居ることは、何よりもその名が詩的であつて、多くの人々の耳に氣持よく響くことを立證して居るのであらう。日本は矢張り詩の國、歌の國なのである。

## 三

此の「睡中漫歩」即ち所謂夢遊病とは、一體どんなことかと云ふと、普通に寝て居るものが、夜半突然起き上つていろ／＼繁雜な仕事をして、それが済むと再び舊の通りに寢床に入つて、又普通の眠りに入るのであつて、仕事の最中には眼を閉いで居る事が多いけれども、亦平常の通りに眼を開いて居る場合も屢々見うけられるのである。

所でする仕事は、單に便所へ行く位のものではなくつて、ちやんと衣服を着替へて庭内を一巡したり、書齋に入つて書物や什器をいぢつて見たり、或は外出して知人の門を叩いたり、その他種々の事に及び、それも單に一回限りでなしに、毎夜一定の時間に一度宛、雨が降つても、風が吹いても、必ず缺かさずに、その夜間行事を敢行するものが、少くないのに拘らず、それが或は失神状態であつたり、或は半ば失神して居る位の程度であつたりして、翌日覺醒中にその話をしても、少しもそれを記憶しては居ないのである。

しかも不可思議はそれ丈に止らない。或は千里眼や透視等の能力がある様に見えたり、或は「神降し」の巫女のような行動をしたりして、未だ曾て習つた事のない外國語で、ペラペラしゃべつたりする事もあつて、その夜間の行動は、少くとも本人の心からでは無く、必ず他人の心がその人の心に入替つて、さういふ事をさせて居る様に見えるのである。そこで之は何か動物磁氣の力の



様なものに作用させて起るのであらうと、考へられて居た時代もあり、或は又満月の、魅力に富んだ皎々たる光に引きつけられて、外出するものとより、如何しても解釋することが出来ないで、意譯すれば「満月狂」とでも云ふべきルナチスムス (Lunatismus) ——ドイツ語では *Mondsucht* と云つてゐる——と命名された事もある。

忠臣蔵のお軽は、秘密の手紙を二階から讀んだテ、隠しに、

「風に吹かれて居るわいなあー」

といつたけれども、由良之助を胡魔化することは出来なかつた。しかし無遊病者は、わざわざ、

「月に浮かれて居るわいなあー」

と云はないでも、さう十分に信じられた結果、此のルナチスムスの名稱が出来上つたのであつた。

## 四

此の睡中漫歩の現象は、ヒステリーの患者や、癲癇の患者、その他先天的に神経質の素質を持

つて生れて来た。或る種の人々に、度々見られ、又深い催眠状態に陥つて居る時にも起るのである。それで其の一例として、ヒステリーの場合に就て述べて見よう。

ヒステリーの患者には、時々いろいろの發作が起るもので、或る時には痙攣を起して卒倒するし、或る時には又非常に暗示を受け易くなる事がある、而して又時には昏睡した様な状態になつて、夢遊病者と呼ばれる行爲を執る場合もあり、或は又一定の操作、例へば頭の頂邊を撫でることによつて、容易にさういふ状態に陥る場合がある。之を「ヒステリー性夢遊病者」と呼んで居るのである。

その状態の時には、患者は半ばは意識を失つて居るけれども、しかし何か質問をすれば、自動的に一々返答もするし、又命令すればよくそれに従つて行動することも出来る。それから又屢々見られるのは、患者が平生以上に微細なことにまで氣のつく様な、敏感な心の持主になつて居ることである。

概して云へば、此の状態の時には瞑目して居る方が多いから、外見上には無意識の様に見える。加之、全身の筋肉が全く弛緩して居るから、餘計にその感を起さしめるのであるけれども、しか



しそれは外見上の事であつて、筋肉や神経の感受性は、著しく高まつて、はち切れる程に緊張し切つて居るのであるから、ホンの一寸壓されただけでも、忽ちその神経なり筋肉なりが痙攣を起して、カチ／＼に堅くなつて了う位である。例へばその場合に一寸顔にさはると、顔面神経が刺戟されて、その神経が分布して居るすべての筋肉が、強直を起す結果、破傷風の患者と同じ様な顔貌になつてしまつて、筋肉の強直の爲に口一つ開く事も出来ない、觸れても堅い、木彫りの面をつくり、に急變してしまふのである。

## 五

ヒステリーの患者の夢遊状態が、睡眠中でなく、又夜間でもなしに、眞つ晝間の覺醒中に起ることが珍らしくないので、之をソムナンプリズムスと呼んだり、或はノクタンプリズムスと云つたりするのは當を得ないといふ所から、覺醒中に起る夢遊状態には、別に又、ヴィギラムプリズムス (Vigilambulismus) の稱呼がある。尙ほ又晝間に起る夢遊状態といふ意味で、Anomalismus diurnus と云ひ、ドイツ語でも Tagtraumen と、特に稱して居るのである。

此の晝間夢遊状態は、ヒステリーの兒童に特に多いのであつて、日光の明に照り輝いて居る所で、母慈母や友人達の澤山集つて居る室内に於てさへ、平氣でその奇怪な現象を起すのである。恐らく病氣の爲の心の不安と、不眠状態とが續く結果であらうが、立派に覺醒して居ながら、夢見た様な態度になるのは、おかしいよりも、氣の毒であつて、素人目には氣味悪い、恐ろしいものとして映するに十分であらう。

それはどう見ても、魔物か何かによ外から操られて居て、自分の意志でない行動をして居るとより思はれない。France といふ様な言葉があるのは、その何よりの證據であると云へる。

## 六

晝と夜とを取ちがへて、現實と夢幻との間に心的の苦闘を續ける、奇怪至極な空想の世界に彷徨ふ者は、自分のこれまでの經歷に依つて知つて居る、あらゆる智識と才能とを、此の半醒半睡の間に現出して、周囲の人々を驚倒せしめることが屢々である。

わけてもヒステリーの少女の如きは、此の状態の時に強烈な出血を起して、人を驚かすことも



あれば、又虚偽の犯罪事實を申し立てたりして世間を騒がすことが稀でないが、それがともすれば性的の事實に亘つて、捏造？ が基礎になつて居ながらも、立入つて眞偽を定めにくい問題に關するが爲に、一層厄介を引起し勝ちである。

「お隣の何某に強姦されました」と云つて、警察へ行く。早速犯人は捕へられるが、事實を否認する。そこで強情な奴だと云つて、いろ／＼の酷い調べ方もするし、世間の評判は高くなるが、暴行を受けて氣が變になつたと同情されて居た當事者は、後になるとそんなことは知らない。警察へ行つたことも覚えて居ないといふ事になつて、結局隣家の男が、汚名を着て、時間をつぶして、不愉快な目に逢ひ損といふ、天下無比の馬鹿々々しい結果に終ることになるのである。

何分夢中でした事だとすれば、當人を責める譯にも行かない、いくら躍起となつて腹を立て、も、當事者に責任を負ふだけの能力が無いのだから、手のつけ様が無い。

「本統に飛んだ御災難で御座いましたねー」

といふ御挨拶を聞かされても、慰安を得る以上に、恥をかゝられる氣持の方が大きい位のものであらう。

## 七

所がそんな事は未だく迷惑の小さい方である。といふのは、此の夢遊状態の間に正々堂々と人を殺したり、傷けたりする者が、決して少くないのである。

前にも一言した様に、此の夢遊状態が癲癇の患者によく起るが、癲癇患者には又、發作的に残酷極まる暴行を敢てして、人を大根か人參同様に斬り倒す時期があるのである。又ヒステリーにしても、その他の精神病者にしても、之に類似した事があるから、その犠牲となつて、恨を呑んで斃れながらも、相手が相手である爲に、苦情の持つて行き所もなく、殺され損になる場合が、決して稀有ではないのである。

## 八

若し夢遊状態の間に行はれた行爲であるならば、假令、人を殺しても傷けても、掠奪をしても暴行をしても、當事者に責任を負ふ丈の力が無かつたのであるから、少しも之を所罰する事は出



來ない筈に、法律で定められてある。

所が夢遊状態といふものが、今述べた様に半醒半睡の姿であつて、果して正氣か正氣でないか、甚だ區別するに難いものである。そこで人に怨みがあるとか、懸想しながら色良い返事をして貰へないとかいふ者が、殺人その他の犯罪行爲を敢てしながら、その所罰を免れる目的で、故意に此の夢遊病者の態度を真似る場合があつて、犯行が本當の夢遊状態の間に行はれたものか、それとも怪病の夢遊状態中に行はれたものかを、區別しなければならぬ事になつて來る。

つまり、その區別如何に依て、犯罪者が牢獄へ入るか、入らないか。甚しい場合には犯罪者の生命が奪はれるか、奪はれないかの黑白を分つ次第で、之が極めて困難な仕事なのである。

それは結局、犯人が夢遊状態になり得る様な素質を持つて居るかどうか、言ひ換へればヒステリー又は癲癇、その他、特殊の神經質な病的の人物であるかどうか、或は以前にも同じ様な發作を起した事があるか、乃至、その父母、兄弟その他の近親に、そんな種類の人物があるかといふ様な點、殊にその犯人が、その犯行に依て、その平生に希望して居た目的を満足させる所があるか、如何かといふ點を識別する事になるのであるが、之が實際問題となると存外厄介なものにな

つて來るのである。しかし、

「そんな事はあるまい、さうむづかしくはないだらう」

と考へる人もあるかも知れないが、本統のお芝居の狂人でさへも、俳優が上手で藝が眞に迫つて來る位であるのに、之は又特別の利害關係があつてする仕事であるのみならず、こんな怪病ケムヤウをする者は、相當の教養なり智識なりを有して居るものに限るから、前以て相當の計畫を立ててかかるのと、又夢遊状態が普通、夜間人目の無い時に行はれて、多少の不自然があつても人から怪しまれずに済むといふ便宜があるのと、二つの理由から、中々識別が容易でないことになるのである。

## 九

以上の話と反對に、毎夜夢遊状態になつて庭園に出る習慣がある爲に、冤罪を蒙りながら辯明することが出來ないで、殺人者として死刑に處せられた實例を語らう。但しそれは今から一世紀程以前に、ヨーロッパ大陸にも未だ、意識無しにした犯罪は、所罰しないと云ふ規則の出來な



つた時代に起つた悲劇である。

ジアットランド半島のグレネーの片田舎、ウエルビー村の宣教師に、ソレン・クイストと云ふ者があつた。

彼は温厚な男であつたけれども、性來激し易い質であつて、怒れば前後を忘却して人を毆つたり、器物を破壊したりする缺點があつた。それがつまり先天的に癩癩の系統があつた爲で、信仰の力も遂に此の缺點を如何することも出来なかつたのである。その上彼には又癩癩につき物の睡中慢歩の癖があつて、晝間の衣服と着替へ、寢室の扉をあけて庭園に出た後、木立の中を散歩したり、月を眺めたりしてから、寢室へ歸つて再び舊の通り寢衣に着替へて、床に入るのであつたが、此の夢遊状態中の行爲に就ては、翌日になると少しも記憶して居ないのであつた。

すると隣村のイングヴオルストラップに、牧畜を業として居るモルテン・バルンスといふ男があつて、ソレンの妹を妻に迎へたいと申込んだのを、貪慾で品性が下劣な爲に拒絶されたのを根に持つて、いつか機会があつたら、ひどい目に逢はしてやらうと、手ぐすね引いて待つて居たのである。不幸にしてソレンは、彼の病癖の爲にモルテンの奸策に陥つて、遂に罪無くして死刑に

處せられるに至らなければならない事になつてしまつた。それは次の様な事からである。

## 十

モルテンの弟、ニエルス・バルンスは、前からソレンの教會に雇はれて下男になつて居たが、頑固で懶け者なので時々ソレンを激怒させた。一日、耕作中、例の通りニエルスがソレンを激怒させて、鋏の柄で毆られて兄の家へ逃げ歸ると、モルテンは好機至れりとして、ニエルスの歸宅を秘して置いて、その夜近所の墓地から新しい死骸を掘出し、之にニエルスの着物を着せて、ソレンの庭内に埋んで、何食はぬ顔をして數日を過しながら、しきりにニエルスの行先の不明なことを、恐らくは死んだのではないかといふ事を、村内に吹聴して廻つたのであつた。

數日を経たが、隠してあるニエルスが出て来る筈がない。時は來れりと狂喜したモルテンは、直に警察へ飛込んで、ニエルスはソレンに殺されたであらうと訴へたのである。

官邊でも始めは之を信じなかつたけれども、調べて行く中にソレンの庭から、腐敗して誰とも知れない死骸が發掘されて、衣服に依つてニエルスだといふ事が定まり、又毎夜ソレンが庭に出



て奇怪な行動をする事や、痴癪持ちで時々激怒して人を毆る事等がわかつて見ると、遂にモルテンの告訴が事實であることを承認しなければならぬ事になつてしまつたのである。

かくしてソレンは殺人者として、死刑に處せられた。誰もがそれを冤罪とは思はないので春を送り、秋を迎へて居る中に、モルテンも亦病氣の爲に死んでしまひ、二十一年の星霜が重なつて、その昔話が全く忘れられてしまつた頃、或る日一人の跛者の乞食が現はれて、故老の一人からそれが昔のニエルス・バルンスのなれの果てである事が發見せられるに及んで、茲に意外の事實、即ちソレンが無罪でありながら死刑に處せられた事が、始めて明白になつて來たのであつた。

ニエルスは、當時兄モルテンに勧められて外國へ逃れ、戦争に参加して片足を失ひ、流れくで、遂に乞食の群に投じたのであつた。彼は兄から「決して郷里へ足を入れるな」と命ぜられては居たが、零落と老衰との爲に、望郷の念が禁じられなくなつて、遂に兄との約束を破つたのであつて、若し彼が歸らなければ、ソレンは永久に殺人者と見做された事であつたらう。

殺した覚えの無い者が、何故黙々として罪に服したか？ 一言の抗辯もせず、双眼を白い手巾で掩はれて、白刃の下に身首を委ねたのは何故か？ と思ふ人もあらうが、自分に夢遊漫歩の

習癖があつて、その間の記憶が無い爲に、ソレンとしては右記の證據をつきつけて、問ひつめられると、絶対に殺さないと云つて之を否認することが出來ないのであつた。殊に身、教職に従つて居ながら、假令疑ひだけでも懸けられるのは、即ち自分の不徳の爲であると考へた崇高な心が、ソレンをして古い昔の殉教者そのままの氣高い姿を、白刃の下に横へしめたのであつた。

夢遊漫歩の奇癖が無かつたならば、いくらソレンでも黙々として死刑に處せられはしなかつたであらう！ 此の氣高い心の持主を、むざ／＼と奸計に陥れたのが、即ち夢遊漫歩であつた事を思へば、ゾムナンプリスムスも、單に一場の夢としてかたづけしてしまう事の出來ない重大な問題と成て來るのである。



## 右利と左利の問題

### 動物は右利か左利か

人類が大半、右利の手を持つて居ることは、何でも無い様に見えるが、實は不思議な事實である。何故、人類が右利であるかに先つて、動物に關する實驗如何を見て置く必要がある。

純粹の四足獸は、殆ど左右の區別が無いので、皆立上つて後肢のみで歩き得る類人猿又は猿に就て、實驗をするのであるが、ローレットによれば左利が六割四分の多數を占めて居ると云ひ、プリントンによれば、左右兩方とも同様に利くと云ひ、大澤謙二博士は又、左利、右利の區別を明にすることは出来ないけれども、人類に比すれば左利が多いと云つて、學者に依つて、皆實驗の結果が同一でない。尙ほカンニングム、バルドウィン、マルチン、ホリス等の諸學者は、動物に於ては右利左利等の別が無いと云うから、以上を綜合して、「動物に於ては、人類に於けるが如



く、右利といふ事實を認められない」といふに十分である。

### 原始人は右利か左利か

モルセーリの人類學講義の中には、「原始時代の人類は、手を左右無差別に使用した」と書いてあるし、ル・ボンに依れば、原始時代の人間、並に野蠻人に於ては、左右兩方同様に利くものが多いと云ふ。それからヒータ、及びフォーレスとの兩氏が、バプアン、並にポリビアンの土人を調査した所によれば、左利が中々多かつたといふ事であるし、又ブリントンが亞米利加印度人の使用した器物等から判断した所によれば、左利三に、右利一の割合であつたといふことであつて、之も亦右利でないといふことに一致して居るのである。しかしその他に、「野蠻人の左利の数は、ヨーロッパ人のそれと同様の割合に於て發見される」といふが如き反對の統計もあるが、それは研究の對照が皆違ふから、一律に行かないことも、別に不思議ではないと思はれる。そこで當然起つて來る問題は、「本來右利に限らなかつた者が、如何して今日の人類の如く、右利になつたのであるか？」といふ疑問である。

### 何故右利になつたか

右利になつたといふ理由に就ては、諸説があつて一致しないから、それ等を列記しなければならぬ。

- (い) リューヂツケンスや、オーグル等は、血管の分布が、腦の左右兩半球に差異がある位として居る。
- (ろ) コントは、母の胎内に居る時の位置に依つて起ると云ひ、又之に類したもので、出生後の抱き方、寝させ方等に依ると云ふ説もある。
- (は) ベネケンは、人體の重量が左右平等でなく、右半が左半よりも重い爲に起つたのであると云ひ。
- (に) ステイブンは、左右の兩眼は、何れも右半部の視野が、左半部のそれよりも大きく、事物に注意し易く出來て居るから、従つて右利になつたのであると云つて居る。
- (ほ) スミスや、ウエーベル等は、心臟が胸廓の左側にあつて、生命を左右すべき重大なる役



目を持つて居るので、之を保護せんが爲に、左手を使用するので、楯を持たずに劍を執る右手がよく利く様になつたのである。四足獣として、心臟を地に面せしめて居る時代にはそんな必要は無かつたが、後肢のみで立上つて、前肢を手にし、胸部を敵に暴露するに至つて、此の必要が起つたのであると云ふので、之は以上の諸説中、最も有力なものではあるが、之にも尙幾多の反對説が無いではない。例へば、劍と楯とを携へて敵前に出たのは、男子ばかりであつたから、男子の右利はいゝとしても、女子まで右利になる筈はないから、理由はそれ以外にしなければならぬといふが如きものである。

しかし之等は何れも臆説であつて、今日實驗的に決定し得られないから、確定せられる日は遂に永久に來ないであらう。

### 右利と言語中樞との關係

右利である多數の人類の言語機能を司る中樞が大脳の左半球にあることを、プロッカー氏が確證したのは、一八六一年の事であつて、爾後、ウエストフアール、ピアンヒ、或はスピツリ其他

の諸氏が、所謂プロッカー氏言語中樞と稱せられる部位を破壊しても、それが左利の人であるならば、毫も言語障害を起さない事實を立證したので、一層確實になつたばかりでなく、更に又それを反對側から立證すべき例として、左利の人で右側の大腦に障害を蒙つた爲に、言語障害を起した事實を、ウツド、バンチ、キョステル、或はニンガツツチニ等の諸家が認めて居るのである。

その他、右利の者が、腦出血の爲に右足と右手が動かなくなる場合には、いつでも失語症を伴ふ事實、同様に左利の者が、左足と左手とに、即ち左側の半身不隨を起す場合に失語症を伴ふ事實等も、手足の運動を司る腦中樞からの神経纖維が、途中で左右相交錯して居る結果であつて、矢張り以上の言語中樞の所在に關するプロッカーの説を裏書するものである。

所で此の言語中樞が、何故、右利か左利かの別に従つて、或は腦の左方に、或は腦の右方に偏在することになるかに就ては、エルンスト・ウエーベルが次の如く、説を立て居るのである。即ち、

「人は、幼少時代には左右兩腦半球に、何れも言語中樞を持つて居るのであるが、右手を主として使用する場合には、右腦にある言語中樞は萎縮するし、又反之、左利で左手のみを使用す



る場合には、左脳にある言語中樞が萎縮して、用をなさない様になるのである。故に若し右利の者が、右半身不随と同時に失語症を起した場合に、練習に依つて左利となつたならば、その結果、右脳に於ける言語中樞が發育して來るに違ひないのである。」

フレンケルの實驗した患者の一人で、その言の如く右半身不随後、左手を運用した後、再び言語を發し得るに至つたものが、現にあつたといふ事である。

又ブレオプラスチックキーと、ヨツフロイの二氏は、各別々に一例づゝ、生前右利で失語症になつて後死亡したものを解剖して、右脳に障害を發見した。そこで之は右利の觀を呈しては居たが、恐らく事實は左利であつたのであらうと説明して居るが、之は反つてウェーベルの説に従つた方が、説明に便利なものゝ如くに思はれるのである。

### 左利に関する研究

そこで左利は、之を如何に解すべきかに關する、興味ある實驗を二三掲げて見ようと思ふ。

米國の一研究者によれば、「左利が遺傳的に見える例が相當にある、而して精神的に低格である

かの如く見え、その割合が百人中四人に相當して、丁度色盲の割合と同一である」と云つて居る。

又キナンは、四十四歳乃至八十九歳の六百人に就て検査した結果、百人中七人の割合に左利を發見し且つ音聲上の缺陷と、左利との關係を見るのに、吃音者は右利よりも、左利の方に三倍乃至七倍も多くあつて、發音上の缺陷と、左利との間に密接な關係がある様に云つて居る。

又ゴルドンは、精神状態低格の兒童の左利に就て検査した結果、

「精神低格兒童の左利の率は、普通の小學兒童のそれに比して非常に高い。それから又左利の者は右利の者に比して、言語の缺陷を伴ふ場合が非常に多い。又双生兒Ⅱニタ子Ⅱの場合には、右利の者は普通であるのに、左利の者は發育が非常に悪く且つ著しく神經質である。尙ほ精神低格の者で、文字を書くのに、自然に左利から右利に變る場合には、課業の成績や智力が著しく進歩するのを認める。(末尾註参照)

しかし普通の小學兒童に於ては、精神低格者の場合とは反對に、左利の兒童は一般に他の兒童よりも賢明で、よく役に立つ者である」

等の結論を下して居る。



三宅驥一博士が、七千餘人の左利の者に就て、遺傳の關係を調査した所によれば、

「父が左利の場合には、左利は男子に限つて遺傳する。

母が左利の場合には、男子は左利にならない。女子も亦左利にはならないが、その女子は結婚した後、孫に左利の者を生む所の素質を持つて居る。

父母共に左利の場合は甚だ稀で、唯々一例あつたのみなのに、生憎それには子供が無かつたのを遺憾に思ふ。」

といふ事になつて居る。

フランクフルト・アム・マインの神經病研究所の助手リーゼ氏は、右利、左利の分るゝ所は、左大脳半球が右よりもよく發達して優勢である爲と信ぜられては居るが、凡人では見える程の差異の無いのを遺憾として、傑出した人物に就て之を見たのである。即ち、特に才能のある左利の彫刻家の脳を見た所が、その左の大脳半球表面の凸凹は、極めて單純であつたに拘らず、右大脳半球に於ては皺襞が多數であり、且つ甚だ複雑であつた。之は一例ではあるけれども、左利の者に於て、右の大脳半球がよく發達して居るといふ事實を、證據立てるに足るであらうと結んで居る。

(註) 書字の中樞は、言語中樞に近い所、即ち左大脳半球にある。

### 顔面の不相稱

大脳の左右不相稱が、前掲の如くであるのに關聯した事實として、人の顔面が左右不相稱である事なども面白い事であるが、右利左利と直接關係が無いから、茲には省略して置く。



## 煙草の害毒

煙草に就ては、語るべき事柄が非常に多く、單に面白いのみならず、煙草に依つてはじめて名作を書いた文豪の話等、煙草を禮讚する者も少くはない。しかし茲にはそんな話は一切せず、又「煙草」の語原や、その發達の歴史等も悉く省略して、單に煙草の害毒に就てのみ語らうと思ふ。それは大に向上しようといふ前途有爲の青年の人々が、讀者の大半であらうと思ひ、それ等の人々をして此の嗜好品の爲に、折角の心身を犠牲にさせることなからしめやうといふ、一片の老婆心に基くものである。

さう云へば「未成年者喫煙禁止法といふ様なものがあるから、そんな餘計な心配はいらない」と考へる人もあらうが、しかし酒や煙草の如き嗜好品は、何百何千の法令を作つても決して効果のあるものではない。表面だけは立派でも裏面に於て反つて盛んに行はれる事が多いのは、北米合衆國の禁酒に徴しても明白である。要は、當事者が心からその危険を自覺して、自制しようと



考へなければ駄目なのが、嗜好品に共通の重要な點である。

然るに昨今、若い女性の間にまで、喫煙の風が益々盛んになつて來た様に見えるし、某氏の計算によれば二十歳から六十歳まで、毎日「敷島」二箱づゝを吸ふとすれば、その總計五十八萬四千四百本、代金五千二百五十九圓六十錢で、若しそれに八分の利子をつければ、大約三萬圓に達するといふことであるから、中々「高が煙草位！」と輕蔑出來ない問題である。新しい報告を持合さないけれども、大正十四年中に喫煙消費された專賣局の卷煙草の數、二百八十億四千三百本、刻煙草の目方、六百三十二萬四千貫で、その價格二億四千八百萬圓に上り、日本人が一日七十萬圓づゝ煙として之を消失した事になるのである。

煙草の害の重なるものは、ニコチンによること、人の知る所であるが、煙草中に含まれて居るニコチン量はどれ位であるか、特に日本煙草のそれを知る必要がある。

東京衛生試験所編纂の「飲食物編」によれば、次の如くである。

種	名	其の百分中一本中の瓦量
朝	口島	〇・七四五二
敷	島	一・〇一二五
ス	タ	一・三四一〇
リ	リ	一・四七〇九
		〇・〇〇四九
		〇・〇〇六八
		〇・〇一三六
		〇・〇一六一

それから又同所發行の「衛生試験所彙報」第三〇號には、次の如く書かれてあつて、表中の「主流」とは口腔の中に吸込まれる部分、「副流」とは空中に逃げ去る部分であるといふ註が加へられてある。

あまのこの新煙草

種	名	本數	總グラム數	主流	副流
胡蝶	蝶	—	七・二二二	一六・〇	三・九
エナツブ	ツブ	—	八・〇八一	一八・三	四・七
スエタ	タ	—	九・八七三	一八・九	五・六
オリエント	ント	—	九・〇七五	一六・一	五・九
カメリア	リア	—	九・九五九	一一・九	六・三

煙草の害毒



朝	日	朝	朝
不	島	一	一
敷	二	一	一
〇	〇	〇	〇
一〇・二二七	一〇・二二七	一〇・二二七	一〇・二二七
一一・〇七五	一一・〇七五	一一・〇七五	一一・〇七五
一〇・五五二	一〇・五五二	一〇・五五二	一〇・五五二
一一・〇・一	一一・〇・一	一一・〇・一	一一・〇・一
一一・二・七	一一・二・七	一一・二・七	一一・二・七
一一・二・六	一一・二・六	一一・二・六	一一・二・六
一一・五	一一・五	一一・五	一一・五
二・六	二・六	二・六	二・六
四・五	四・五	四・五	四・五

重複する様ではあるが、計測者が違つて少しく結果に相違があるのと、別の煙草もある爲に、もう一つ田村昌、佐野伴三兩氏の調査報告をも載せて置く。

(一本中に含まれるグラム量)

ス	タ	ス	タ
バ	ツ	バ	ツ
か	め	か	め
國	り	國	り
朝	ほ	朝	ほ
た	日	た	日
〇・九九九瓦	〇・九九九瓦	〇・九九九瓦	〇・九九九瓦
〇・九七二ク	〇・九七二ク	〇・九七二ク	〇・九七二ク
〇・八八六ク	〇・八八六ク	〇・八八六ク	〇・八八六ク
〇・六四八ク	〇・六四八ク	〇・六四八ク	〇・六四八ク
〇・六八〇ク	〇・六八〇ク	〇・六八〇ク	〇・六八〇ク
〇・六二五ク	〇・六二五ク	〇・六二五ク	〇・六二五ク
〇・六五八ク	〇・六五八ク	〇・六五八ク	〇・六五八ク
ほ	ま	ほ	ま
エ	ア	エ	ア
シ	ッ	シ	ッ
プ	プ	プ	プ
〇・二八六ク	〇・二八六ク	〇・二八六ク	〇・二八六ク
〇・九九五ク	〇・九九五ク	〇・九九五ク	〇・九九五ク
〇・七二六ク	〇・七二六ク	〇・七二六ク	〇・七二六ク
〇・六八六ク	〇・六八六ク	〇・六八六ク	〇・六八六ク
〇・六五一ク	〇・六五一ク	〇・六五一ク	〇・六五一ク
〇・三三四ク	〇・三三四ク	〇・三三四ク	〇・三三四ク

英國ケンブリッジ大學醫學部のサー・フレッチャービー教授が、一九二六年に發表した所によれば、喫煙の結果一番大きい害を被るのは精神能力で、百分の十乃至二十三が麻痺し、減退し、若し慢性になれば、殆んど半減されてしまふといふことである。それから又世俗にも信ぜられ、且つ多くの人の經驗がある如く、喫煙の結果、著しく痩せて體重の減少することは、喫煙の爲に胃弱が起つて、食物が胃中に停滞し、時には胃痛さへ伴つて、食慾が著しく減退するのみならず、胃の消化力や吸収作用が悪くなるからである。

早老も亦喫煙と密接の關係があつて、愛煙家は一般に年齢よりも老けて見えるのが普通である。と云はれて居るが、それは皮膚に小皺が増加して、顔色が悪くなる上に、顔面筋の表情も亦痴鈍になるからである。此の事を知つたならば、美を生命と思ふ若い女性は、決して煙草を口にしないであらうに、知らないとは云ひながら、氣の毒なものだと思はれるのである。

オールバット及びローレンストン兩氏によれば、心臓や肺臓も亦著しく犯されるものであつて、咽喉が烈しく痛み、呼吸は切れ易くなつて、運動競技上の微細な調節が出来なくなる。之を米國では「煙草病」と稱して居るといふさうであつて、平生と違つて撞球の成績が悪くなつたり、競争の際に喫煙の爲に敵に勝を譲つたりする例は、枚舉に遑が無い位であると云はれて居る。



性的作用も亦、喫煙に妨げられることが著しいもので、甚だしい愛煙家には、子供が出来なかつたり、早産したりするものが多いのである。煙草工場に永年勤務する女工達に、屢々月經異常や早産等があるのは、古くから知られて居る事實であるし、歐米で花柳界の附近で煙草を賣るのを嫌ふのも、亦經驗に依つて之を知つて居るからに違ひない。しかし之を利用して學生の性的惡癖矯正の爲に、喫煙を奨励せよといふ議論は過つて居る。それは角を矯めて、牛を殺すに類する愚擧であると云はなければならぬ。

以上の變化は、主としてニコチンに依るものであつて、極めて除々に人の氣のつかぬ位の速度であるが爲に、反つて意外に甚しく神経系統を犯されたりするに至るのである。心臟が弱つて脈搏が不正になつたり、心臟部を絶えず抑へられる心持がして、やがて狭心症の前驅となつたり、視神経を犯されて視力が鈍つたりして後に、大騒ぎをはじめても、もう間に合はない事の少くないの等は、皆之が爲であると云はれて居る。

ニコチン中毒の結果として、血壓の亢進することは、最近キューン氏が、ドイツ國ケーニヒスベルグの大學生に就ての研究發表であるが、それによれば、

二一五以下	四二・七%
一一〇まで	三三・三%
一一〇以下	一三・三%
一〇五まで	一八・七%
一〇五以下	一三・三%
一〇〇まで	九・三%

であつて、此の關係も前記の早老の内因でないとは斷定出来ない。昭和二年の夏、ニコチン中毒の爲に死んだ武藤金吉氏の如きは、一ヶ月に葉巻煙草に三百五十圓乃至四百圓を支拂つたもので、一日の飲み料七本と定められて、外出の時に七本入りのケースを滿されながら、私に三四本を夫人に隠してポケットに忍ばせたといふ話であるが、その血壓の高さが傳はつて居ないのは遺憾である。

又ノイベルグ教授が、コーベル氏と共に研究した所によれば、煙草中毒の原因はニコチンのみではなく、メチールアルコールにも因るといふ事である。煙草中のメチールアルコールの半分は、



空中に散逸してしまふけれども、それが非常に水に溶解し易いので、直に唾液中に混入して、人體内を運行するに至るのであるし、その毒力が激しいから、極めて微量のものが蓄積しても、他日、突然重大な病状を發するに十分であつて、メチールアルコールの爲に重症の眼病を起して、その結果失明せしめるが如きは、その最も普通の事なのである、之がニコチンと協力して、その威力を逞しくすることは、大に警戒を要することであらう。

一九二七年五月一日から一週間、オリンピックに於て、バーケンヘッド卿司會の下に、國際煙草會議が開かれた時——但し之には日本からは誰も参加しなかつたといふことである——ブルースポーター氏は、昔から「煙草は口頭の痛の原因になる」といふ説を肯定して、下の如く説明したさうである。「昔は粗末なザラ／＼なパイプを用ひて、短い爲に口が熱くなる様なこともあつたから、舌が焦けたり唇に火傷したりした事もあらうが、今日はそんなパイプを使用する者もない、従つて昔のそれは或はパイプの刺戟から出來た痛かも知れないが、今日のそれはパイプの爲ではない、煙草そのものゝ爲である」と。但し之はあまりに常識的に過ぎるから、何處まで信用すべきかを知らない。

煙草は嗜好品であるし、習慣となつてしまふから、止めやうとしても、中々止められないものである、強ひて止めやうと努力して、失神した様になつたり、神經衰弱の如くなつたりする人も極めて多い。又當事者が止める決心で居ても、周圍から盛んに之を勧めもするし、街路にも室内にも到る處に誘惑が多いので、一旦習慣となつた喫煙の禁止を、本統に斷行し得たものは、極めて少數であると聞く。

故に煙草を有害と考へるならば、習慣とならぬ前から、之に接近しないのが一番容易であり、又賢明である。喫煙の最初には、單に一種の好奇心や模倣が動機となるものが多く、その時に於ては特にうまくも無く、爽快をも感じないのみならず、中には反つて苦痛を忍びながら、大人の眞似をしたいといふ考に支配されて居るものが若し有るならば、最初に之を手にしなはいといふことは、決して苦痛ではないのである。

最初に喫煙の模倣さへしなければ、一生煙草を口にしないで居ても、少しも苦痛を覺えない。反之、一旦習慣となつてしまつてからは、之を禁止するのになかなか容易ならぬ努力と忍耐とが必要で、しかもその十中の八九までも、不成功に終つてしまふことは、特に青年としてよく考へて見



るべき事である。

愛煙家となつて後の、自己辯護としての煙草の效用論はいくらも有らうが、冷靜に第三者として批判すれば、喫煙の爲に、知らず識らずの間に、除々に身體の各部を犯されて、食慾を減退せしめ、早老の原因を作つて、天命の短縮するだけでも、決して得策ではあるまいと思はれる、況んや之が爲に、より以上の重大なる健康障礙を蒙るに於てをやであり、且つその費用を轉じて、他の有力なる利用が出来るとすれば、尙ほ更の事であらう。

既に常習者となつたものに對しては、未だ喫煙に着手しない人々、特に青年として前途春秋に富んだ人々の参考に資したいのが、本篇の精神である。

尙ほ又常習の人々も、なるべくニコチンの含有量の少いものを選ぶのがよくはないか、但し之は風味の關係で、矢張り不可能な注文であるかも知れない。

## 頭腦明晰の秘訣

頭腦を明晰にするには如何すればよからうか？ 第一に考へることは、何か良い藥が無いか或は何とかする良い治療法はあるまいかといふ點である。成る程、健腦丸その他の名稱で、よく賣れた藥品が少からずあつたが、その主成分は、頭痛を止めるとか、頭腦を沈靜させるとかするもの、換言すれば頭腦に故障がある場合に、之を治療して普通の状態に復舊せしめるといふ時にのみ役立つ、消極的の藥劑であつて、病的でない頭腦を、積極的に、より以上に活躍させる所の效能は無いものである。

或は又、往々「頭腦を明晰にする食物」といふが如きことも書かれてはあるが、果して相當の効果が得られるか？ 如何か？ 甚だ疑はしいものである。無論、膏藥その他の外用藥で、頭腦を明晰にし得られやうとも思はれない。電氣療法や、マッサージの如き治療法も、要するに暗示作用と、後に述べる氣分の轉換の效果であつて、本質的のものではあるまい。要するに、然るべき



薬品も無く、又特別の治療法と見做すべきものも、一寸見當らないといふことになる。然らば、手を拱いてボンヤリして居るより他に、致し方が無いものか？ 否！ 否！ 然らず、大に考慮すべき餘地がある。

頭腦の明晰を妨げるものは、疲労と混亂との二つである。此の二つさへ、完全に除き得れば誰でも十二分に自分の能力を發揮することが出来て、自ら頭腦の明晰なことに驚嘆する位である。依つて先づ頭腦の疲労を速に恢復すべき方法如何から考へやう。

頭腦に休養を與へて、その疲労を徹底的に除去するものは、睡眠が第一である。しかし「人生の三分の一は寢室に暮す」と云はれる位であるから、頭腦を明晰にして、より多く能率を擧げんが爲に、寸陰をも惜しむといふ人々は、そうノンキに睡眠を食つて居る譯には行かない。そこで、如何にして最小時間の睡眠で、最大の仕事を成し得るかといふ點に考慮を費さなければならぬことになつて来る。

生理學者の實驗によれば、眠りの程度は、睡りかけてから一、二時間までが最も深いので、俗に「寢入りばな」とも稱せられ、之が盜賊に最も便宜を與へて居ることは御承知の如くである。

處がそれからだん／＼眠りが淺くなつて、數時間後の夜明け前は、夢ばかり見て居るから、あまり睡眠の効果が無い。

そこで、引續いて長時間眠るかはりに、夜の睡眠を二、三時間に止めて、その埋め合せに一、二時間の午睡をすれば、合計三時間乃至五時間で、普通の七八時間以上の効果が得られる事になるのである。ナポレオン一世は二時間より睡らなかつたと傳へられ、森鷗外博士も軍醫官と、文學者の二重の仕事の必要上、二時間づゝ眠つたといふことであるが、此の點を大に聯想させる處がある。

必也

又特にそんな例外な偉い人の話をするまでもなく、新戸部稻造博士は、一日に二度づゝ、朝の快活な頭腦を持つ爲にと稱して、每日一、二時間の午睡を奨励したことがあつたし、林學博士の本多静六氏其他、常人以上に多忙な生活をして居る人々の中には、日中にも、随時に隨所に於て、短時間づゝの午睡をして、頭腦の疲労を醫することに成功して居る名士が少くないのである。午後の何時から何時まで二時間午睡をすると定めることは、學生又は會社員等、一定の勤務時間を持つ人には出来ないことになるけれども、電車や汽車等の中、或は讀書の中間等に、折を見は



からつて、合理的の午睡をすることならば、誰にでも容易に出来ることである。「書を投じて腕を曲けて眠る」と云つた、支那の古人の言葉は、期せずして此の方法と合致して居る能率増進法である。

睡眠に次ぐ、疲労恢復の良法として、入浴或は湯浴等が擧げられて居る。しかし、之は肉體的の疲労には根本的に利くけれども、頭腦の疲労に對しては、畢竟、之から述べやうとする、腦の轉換方法の一種で、その稍々大規模のものであるに過ぎない。

仕事に疲れた腦の働きを轉換させて、休養を與へるものは、無數にある。散歩、旅行、或は前掲の溫泉行等の如きものを始めとし、家族との團樂、交友との談話、娯樂としての種々の遊戲、肩の凝らない讀書、音樂を聴き或は繪畫の類を見ること、又は茶菓を口にすること等、數へ立てれば限りがない位であるが、その中の何を選ぶべきか、又何が最も有效であるかは、各人の趣味の如何に依つて定まるのであつて、一概に何がいと斷定することは出来ない。ダンスがいと云ふ人もあれば、音樂に限るといふ人もあらうが、又盆栽いぢりが一番だといふ人も、繪筆を持つのが有效だといふ人もあつて、門外漢の指定すべき限りではないから、各人、適宜に、適當の

方法を求めるがよからう。

しかし睡眠の度を過し易い以上に、此の腦の轉換に選ばれたものには、動もすれば時間を多く費し過ぎる氣味がある。本來好む道であるから無理ではないが、仕事の能率を高める方便として、休養の一助としては、それではいけないことになつてしまふ。此の點を恐れる人は、同時になすべき仕事のいくつかを、順次に交代にかたづけを行つて、その度毎に心氣一轉して、元氣よく働かうといふ考案をして居るが、之は確に間違の無い名案である。

近代に於ける大政治家たる、英國のグラッドストーンの仕事振は、正にその代表的の例とすべきものであらう。即ち彼は、常に書齋に三脚の机を置いて、甲の机上では政治的の仕事をしたが、同時にこの机上には歴史的の研究材料を積み、丙の机上には宗教上の研究資料を置いて、政治に疲れると、乙又は丙の机に倚つて、順次にその研究を片づけて行つたのであつた。而して愈々その三つの内の總てに倦めば、庭に出て薪割りをしたと傳へられて居る。

仕事の轉換がいと云つても、學校の時間割の如く、一時間々々に換へて居ては、能率が上らない。唯々一つの仕事ばかり續けて、一度に全部完了しようとすることは、勞多く時を要する



のみで、効果が至つて少いといふのである。餘りに疲労し切つてしまつて、他の仕事に轉換しても、何も出来ないといふ程までに、つめて頭腦を働かせるのも亦不得策である。少しく疲れて、能率の下りかけた頃を見はからつて、巧に甲から乙、乙から丙と、他の仕事に移るのが、最もよいといふのである。

尙ほ一言して置く。前に頭腦を明晰にすべき薬は無いと言つたが、種々の轉換方法を綜合して見れば、日光と新鮮な空氣と一椀の清涼な水の如きは、確に之に對する藥劑としての效力を有して居るものであるから、疲労に依る仕事轉換の際に、適當に之を調合して用ふることをお勧めしたいのである。

腦の働きを轉換させるものは澤山有ると云つたが、例へば活動寫眞の如く、長い筋を短く短縮した上に、強く視神經を刺戟するものや、探偵小説の如き智的遊戯の類は、それ自身が割合に頭腦を疲労させるから、此の場合には避けた方が得策であらう。又清涼飲料として、ウキスキーその他のアルコール含有の液體がいと云ふ人があるけれども、之は一時的に興奮させて、空元氣をつけるのみで、持久力を反つて減殺するから避けなければならない。

それから、人に依つては睡眠時間短縮の目的で、急に深く眠りたいといふ考から、催眠劑を飲むけれども、之は非常に愚かな話である。何故といふのに、催眠劑に依る眠りから醒めた後には、身體中がだるく、往々にした嘔氣を催したりするが、それは藥品には本作用以外に、大抵副作用と稱して使用者の希望しない效力をも兼有して居るからである。加之、催眠の作用も、服藥後直にあらはれずに、遙に遅れて肝腎の働くべき豫定の時間に眠くなり出したりする様な、不便が常に伴ふからである。

催眠劑等を用ひないでも、頭腦を明晰にするだけの睡眠は、自然に十分得られるのが普通である。

前に疲労並に「混亂」と云つたが、適當に疲労を調節した上に、仕事の順序を鹽梅し、且つその材料をよく整理して、沈着でさへあれば、頭腦は決して混亂しない筈である。混亂の原因は、いつでも何か以上の中に缺ける所があつて、不安に感じたり、狼狽したりする所に存するのである。

但し、頭腦に疾病がある場合は別で、無論その病根を絶つ必要がある。又頭腦そのものは健全

1. apphommulabum 5 Smid 8  
2. arber 11/13  
3. 沈着  
4. 沈着  
5. 沈着



でも、之に密接のある疾病、例へば「蓄膿症」と稱する鼻——詳言すれば、副鼻腔——の病氣があつたりすれば、矢張り著しく記憶力が減退するから、之を治癒するのが急務である。

胃腸に故障がある場合にも亦、頭腦の働きを妨げることが著大であつて「無藝大食」といふ如き謔すらある。過食が禁物である上に、便秘も亦面白くないから、常によく便通のある様に調節をする必要がある。往年、流行した健腦劑の中に、整腸劑を調合したものがあつたことは、此の事實を裏書して居るかの如く思はれる。最後に自瀆の行爲は、男女共に兎角その度を過し易く、従つて頭腦の明晰を妨げる恐れがあるから、努めて精神を他方面に轉じて、極力之を避くべきである。

## 胸腺淋巴體質の話

### 序

日常生活上に密接の関係のある病氣、或は體質等の事に就て、知つて置かなければならない様な話題の中、最も奇怪で且つ危険なものは、「胸腺淋巴體質」である。茲にその大要を語る所以である。

### 胸腺淋巴體質

「胸腺淋巴體質」とは、如何にもをかした耳馴れない題であるといふ人が、必ず多數であらうと思ふ。

如何にも耳馴れないけれども、しかし之が爲に、驚くべき意外の急死を招く場合が少くないの



であるから、耳馴れないだけ、それだけ餘計に、此の「胸腺淋巴體質」に就て、知つて置く可き必要がある。

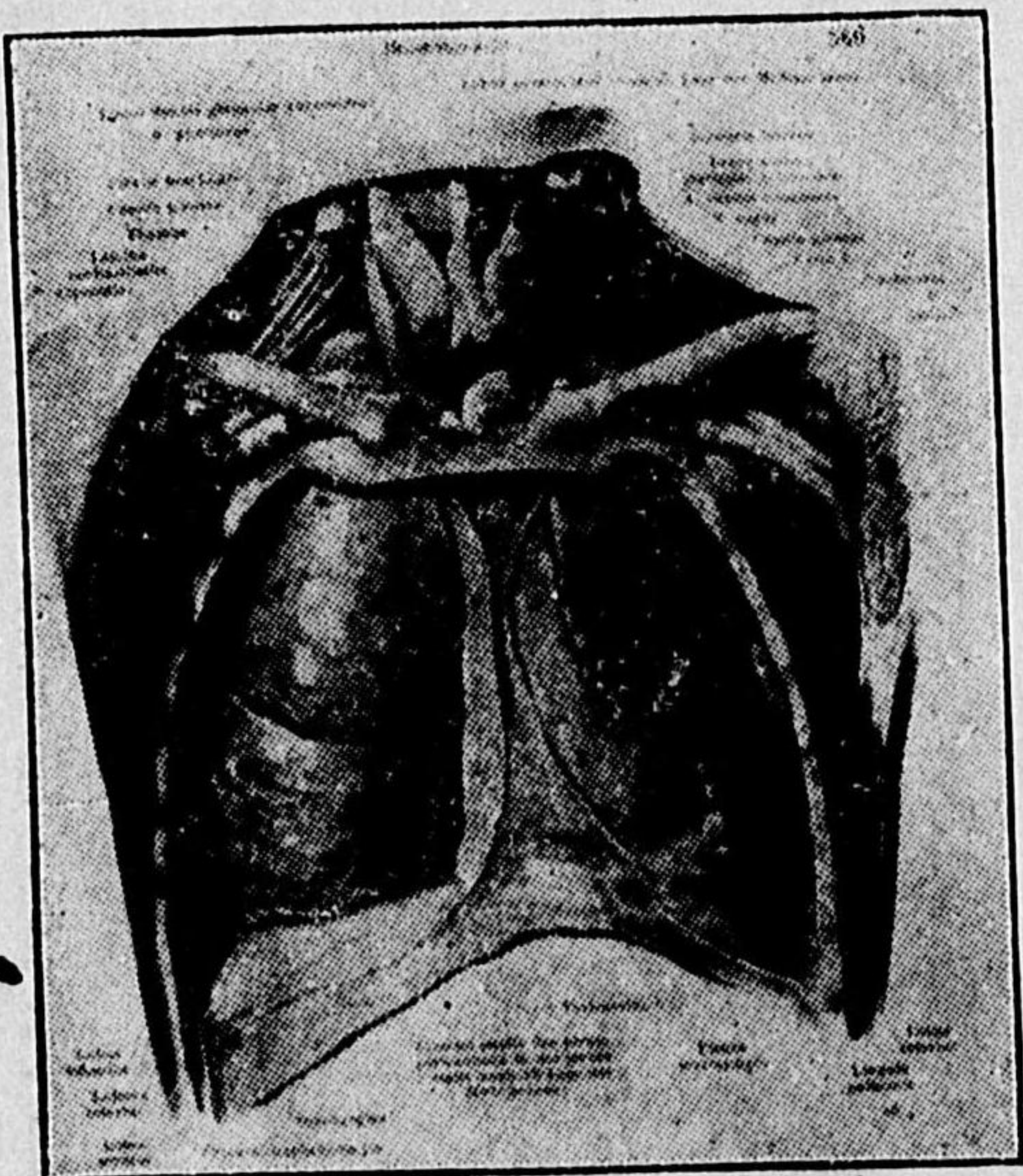
サルヅアルサン（六百六號）その他いろいろの藥品の血管内注射をしたり、或はコレラや、腸チブス等の豫防注射、その他いろいろの藥液類の皮下注射をした場合に、注射後間もなく胸が苦しくなり、頭痛が起り、目まひを覺えて嘔吐を催し、數時間乃至十數時間の内に、原因が不明で強健な人々が、死亡してしまふことが往々あるし、又外科手術等の場合に、クロ、フォルム、その他の藥品で、麻睡されたまゝ、再び覺醒せずして、永久に眠つてしまふ、所謂「麻酔死」或は「胸腺死」と稱する現象がある。

そこで先づ醫師の手落ちや過失が疑はれるが、調査して見ると醫師は平生の通りにしたので、現に一所に取扱はれた者は、皆平氣で居ることがわかり、又藥品が悪かつたのかと調べて見ると製造所にも販賣所にも、毫も缺點が無い。そこで死體を解剖して検査を行つて見ると、特に病變或は死因と認められる様な變狀は無いが、胸腺淋巴體質といふ一定の體質であつたことが、明白になる場合が、決して稀ではないのである。その實例は澤山あるけれども、紙數の都合上、すべて省略して、之から直に此の體質の説明に移ることにする。

### 解剖的變徵（「圖の説明」中央上部「山」字形のものが甲状腺。その一寸頭を出してゐるものが胸腺。下部兩側の大きいのは肺臓。）

此の體質は、女よりも男に多く、シムマーに依れば、男六、女一の割合であるといふ。解剖をすれば諸所の淋巴腺をはじめ、脾臓の如き淋巴装置に至るまで肥大増殖して居て、殊に胸腺が著しく肥大して居る場合が多いのであつて、之が胸腺淋巴體質といふ名を得た所以であるが、胸腺の肥大を缺く場合もあつて、それは單に「淋巴性體質」と呼ばれて居る。

それから又心臟が小さく、心臟の筋肉壁が



胸腺淋巴體質の圖



薄いのみならず、血管系統、殊に動脈が非常に薄く且つ弱々しく出来て居ること、並に副腎の髓質、その他アドレナリン系統と稱せらるゝ部分の發育が、非常に不良であることが認められ、併せて又、生殖腺、即ち男性の睪丸、女性の卵巢の如き内分泌腺をはじめ、子宮その他の内生殖器、並に陰莖その他の外陰部に至るまで、悉く發育の悪いことの、著しいのを認めることが出来るのである。

此の胸腺といふものは、未だその機能のよくわからない、一種の内分泌器官であつて、胸骨の上半の後面に位し、心囊の上部に掩ひかぶさりながら、左右の兩肺に抱かれる様に掩はれて居るのである。暗赤色、不整形で、一見數の子(鍊の卵群)の如く、大抵は左右の兩葉に分れて居るが、左右相稱形にはなつて居ない。

而してその大きさも一定しないもので、例へばヘレンに依れば、初生兒に於ては十四グラム、生後九ヶ月で二十グラム、滿二年で二十三乃至三十六グラムの平均數を得たといひ、ブラムンドは初生兒では平均値十グラム、滿二歳では二十二グラム、三歳乃至十四歳では二十五グラムで、それ以上は漸次減少すると云つて居るが、要するに生後二、三歳までに増大して最大限度に達し、

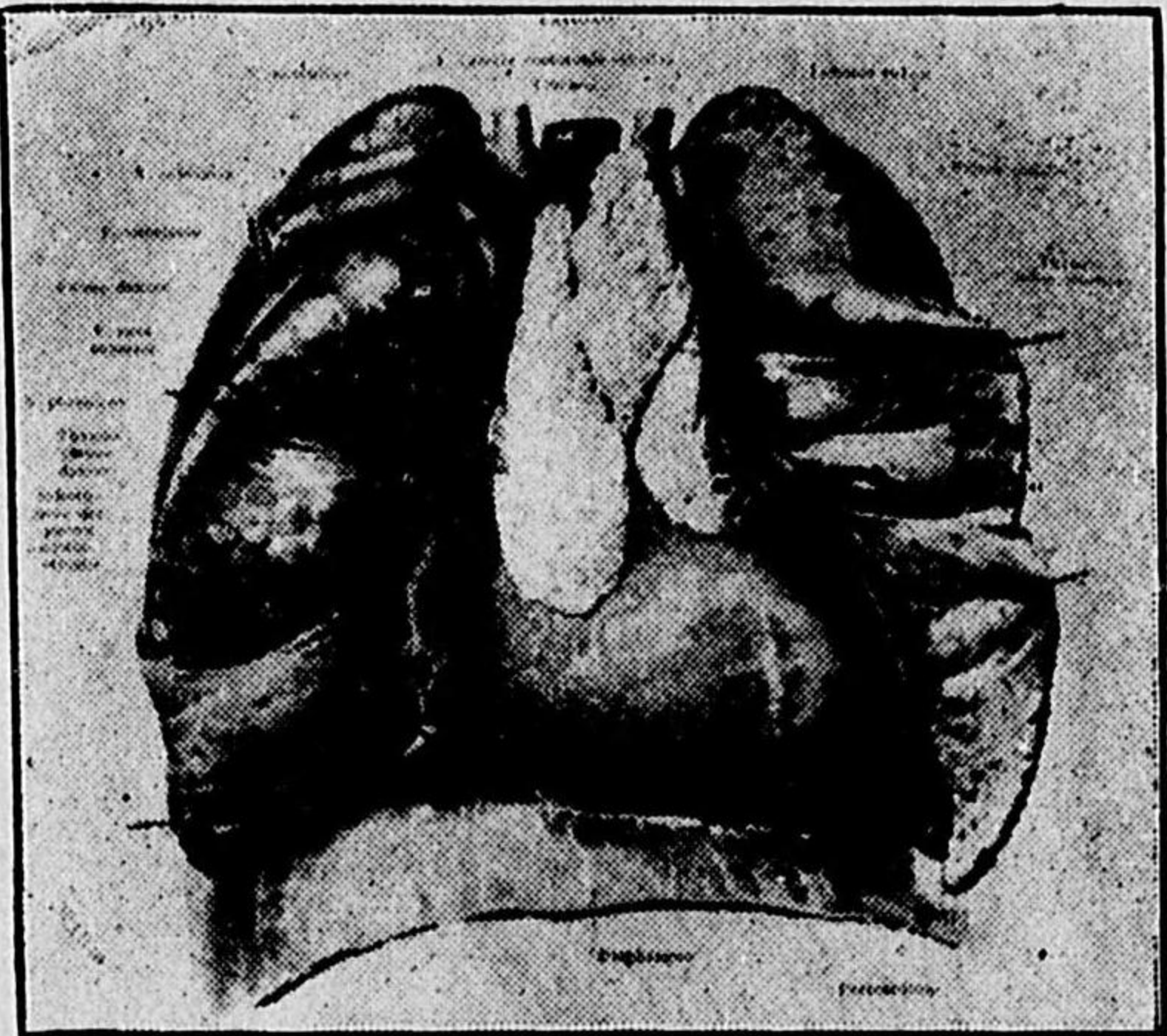
それから十四、五歳まではそのまゝの大きさで存在するのみで、少しも大きくならず、それから後

には年と共に萎縮して、或は無くなつたり、或は脂肪組織に變化したりするものであつて、滿二、三歳の頃に最大の作用を營み、大人に於ては全く無用であるのみならず、之あるが爲に反つて、前の如き不慮の死を招く懸念を生ずるものなのである。此處に入れた挿畫は、十二歳の男子の胸腺を、胸骨や肋骨を切り取り、左右の肺臓を押廣けて前面から見た所である。

(「圖の説明」中央上部のものが胸腺で其の下は心臓。左右兩側にあるのは肺臓。)

### 生前の診断

所で、かゝる體質の人々に、注射や麻酔が禁物であるとするれば、之を生前に診断して不慮の死から免れしめるのが、醫師の義務でなければならな





い。しかしそれは死後の解剖の如く、さう容易には決定がつかないのである。而してその診断は、小兒と大人とに大別して、語る必要を認めるのである。

### 甲、小 兒

淋巴性體質の小兒は、淋巴装置の異常に増殖して居る以外に、皮膚に著しい特長があつて、一般に蒼白く、皮下脂肪がよく發育して居る爲に、外見上肥つて居て、素人目には丈夫さうに見えるけれども、内部の筋肉の發育は非常に不良であるから、生後滿三年になつても、立つたり、歩いたりすることの出来ない者さへある位である。胸つまり肥つては居るけれども、所謂豚肥えて、何となくブワ／＼した所があつて、事實上皮膚が弱い關係もあるのであらう、一寸蟲に刺されても、非常に強く赤く腫れ上つて、少し掻きこはせば、澤山の滲出液が後から／＼にじみ出て止まないのが普通である。

頭に毛髪が密生して居るのみならず、顔や手足等に至るまで、長い毛のはえて居るものが比較的多く、頭の形は普通よりも大きくて、前頭部にある大顛門、即ち俗に「おどり子」と呼ばれて居る骨の間隙が、中々閉ぢないで久しく残つて居る様な點も、亦此の體質の小兒の特長とされて居る。

### 乙、大 人

大人に於ては、脂肪の關係が不定であつて、瘦せたものも肥つたものもあるが、面白い事には男であれば反つて女性に近く、下肢や臀部等に脂肪が多く、女であれば反つて男性に似て、乳房や腰部等の脂肪が貧弱なものが多いのである。同様に又毛髪に於いても、男には毛が少くて鬚や腋毛、陰毛等が悉く貧弱であるのに、女では反つて毛髪に富んで男性的であり、殊に陰毛に於て著しいと云はれて居る。之は解剖的變徵の項に云つた如く、内外生殖器の發育が著しく不良であることと、重大な關係を有して居るものと考へられるのである。

それから肝腎の胸腺であるが、之は胸骨の内側で、大半は肺臓に掩はれて居る爲めに、打診等では到底わからない。そこでX光線で陰影を見ても矢張り明瞭ではないので、その際胸部大動脈の最小徑を計つて、それで身長を割れば、此の體質の者では血管が細い爲に、その商が大きくな



つて、普通人では五十乃至七十であるものが、七十乃至百に上ると云ふ。此の數を大動脈率と云つて、米國では兵士の體格検査にも、之を計測して居ると云ふが、一般の注射等に先つて、一々之を計ることは中々行はれ難いであらうと思はれる。尙ほ淋巴系統の増殖如何を知る爲に、口腔、殊に舌根部の淋巴濾胞や、扁桃腺の肥大の有無等見るのが普通である。

その他、兩手を左右に延して計つた、左右兩中指の尖端間の距離、即ち指極の長さ、普通人では身長と略々一致するのに、此の體質の者では特に長いと云ひ、又音聲が他性的で、男ならば女性的、女ならば男性的の聲を出すとか、血壓が弱いとか、筋肉の發育が悪いとか云ふけれども、何れも参考に止つて、それだけで直に淋巴性體質か否かを斷言することは出来ない。白血球の數の多いこと、その他の血液の特長は、あまりに専門的になるから省き、精神的方面のことも、平均よりは智力の低い人が多いとは云ふが、之も例外が澤山あつて、あまり標準にならないから省かう。

### 此體質の者は何故急死するか

淋巴性體質といふ名稱は、十九世紀の終り頃に埃國ウキーンのパルタオフがつけたのであるが、此の事實は已に一八五四年にロキタンスキーが認めて居るのであつて、昔は解剖的變化を重視して、胸腺の爲に氣道を壓迫する爲に死ぬのであるとさへ云はれた。それが細菌學の發達後は、内因を棄て、外因に依つて説明しようとし、最近二十餘年以來は之を體質として考へる等、時代に依つていろいろの考があつて、或は淋巴機官から生ずる物質に依る自家中毒とし、或はアドレナリンの缺乏に基いて血壓が降下し、心臓の衰弱する爲とする等、今日に於ても未だ確たる定説は無いけれども、しかし此の如き體質の人々が、普通の人の平氣で居る様な些事の爲に、容易に不慮の死を招くといふ事實だけは、不祥にも斷乎として存在して居るのである。しかも意地悪くも、生前に於て明確な診斷を下すことは、中々困難であつて、死後解剖に依つて、事實を確める爲の判斷のみが下されて、不幸な家族の徒に慟哭する事實が、往々諸所に突發して居るのである。特に此の體質は血族的に生ずるもので、一家數人、時を同じくして不慮の死を招く例も大に



可能なのであることを知つて置く必要がある。

今後一日も早く醫學の發達に依つて、此の急死の本態がわかり、併せてその適確なる生前の診斷法や、急死の豫防法の發明せられる時の來らんことを切望すると共に、醫師としては種々の注射や、麻醉等の診療行爲に先つて、事情の許す範圍内に於て出来るだけ細密に、此の體質の所有者か否かに關する診斷を試みる必要があると同時に、一般の人々も亦かゝる事實のあるといふ事を知つて居て、或は自ら醫師の注意を促したり、或は自家の體験を訴へて、醫師をして診斷上の便宜を得しめる等、兩者協力して此の不祥な、急死を見ない様に心掛くべきである。

## 内分泌物語

### 一、内分泌とホルモン

人類の肉體を構成して居るものの中に、肉月に泉と云ふ字を書いて、「せん」と讀まして居る腺の字の附くものが澤山ある。それは例へば、涙腺、唾液腺、汗腺或は攝護腺等の如きもので、涙、唾液即ちつばき或は汗等の様に、一定の役目のある液體を直接或は間接に身體外に分泌すること、その役目として居るものである。然るにその構造を見ると、確に一種の腺に相違ないにも拘らず、液體を分泌すべき通路としての管を持つて居ないものが、亦少からず存在して居て、之等は久しく醫學上の謎であつた。即ちその謎の主の名を尋ねて見ると、曰く松果腺、曰く甲状腺、曰く胸腺、曰く扁桃腺等を始めとし、導管の無い關係から「腺」といふ名稱すら與へられない面々には、曰く大脳下垂體、曰く副腎、曰く卵巢、曰く睪丸等、實に多士濟々なのである。



所が一八一四年の事であつた。ドイツ、ゲッチンゲン大學教授ベルトホルドが、何かの都合から雄鶏の睪丸を取去つた所が、その雄鶏は男性の標徴としての鶏冠が小さくなつたり、美しい羽の光澤が悪くなつたりして來ることが著しく目についたので、それが偶然の現象か、それとも睪丸剔出手術の結果であるかを知りたくなつて、その雄鶏の皮膚の下へ、他の鶏の睪丸を取つて縫ひ付けて置いた所が、彼はその後、再び舊の如く羽の色も美しく、鶏冠も大きくなつて、勇ましく晨を告げる様になつたのである。之に依つて兎も角も雄鶏の雄鶏たる所以は、睪丸の存在するが爲であるといふ事實が、實驗的に證明されたのであつて、液體を分泌すべき導管は持つて居ないけれども、睪丸は伊達に存在して居るのでないと云ふ事實と共に、隨ろ氣ながらも睪丸も亦何かの分泌を司るのであらうといふ推定の端緒が與へられたのである。而してそれから二十餘年を経て、フランスの學者、クラウドベルナルドに依つて、之に「内分泌」といふ言葉が加へられ、且つ之はその腺の分泌が、身體外に出ずに、身體の内部に送り出され、血液と共に全身を循環して、一種の化學的作用をするのであらうと説明されることになつた。

それから又歲月が流れて、一八八九年の六月一日に同じくフランスの碩學、ブラウンセカールが自分の肉體、しかも七十二歳の老軀を、此の實驗の材料に供して、睪丸のエキスを注射することに依つて、心身共に若返るといふ事實を、首都パリーの生物學會に報告するに及んで、内分泌學説は頓に勃興の機運に向つたのである。その後英國の學者、スターリング等に依つて、此の内分泌物に對してホルモン (Hormone) の稱呼が與へられたが、之はギリシヤ語のオルマオから採つた言葉で、刺戟する物といふ意味なのである。

近年、此のホルモン學説は非常に、廣く深く研究が進められて、導管を有して居る腺、例へば腺臟にも一種の内分泌機能があることを證せられたり、内分泌腺の機能に故障が起れば、それが爲に特種の疾病が起ること、例へばバセドー氏病と呼ばれて、眼球が兎の様に強く前方へ突出し、心臓の鼓動が激しくなる症状は、甲狀腺の腫れ上る時に限つて起るし、アチソン氏病と呼ばれる皮膚の色が眞つ黒に變化する症状が、副腎に結核性の變化がある時に度々起る等、副腎の作用と關係が深い、それから又腺臟の剔出手術をした場合に、糖尿病が起つたり、甲狀腺の作用が減退した時に、粘液水腫と稱して智能の低下する疾病が起つたりすること等がわかつて來た。



或は又此の内分泌腺の爲に、或る特種の體質の生ずることがわかつた、即ち甲状腺の機能が高まれば、身長が高く、身體が細長い神経質の人間になるが、若し又反對にその機能が減退すれば人は丈の低い、脂肪過多の感受性の鈍いものとなる、大脳下垂體の機能が高まれば、骨の太い、手足の末端の大きい人間になるし、その機能が低下すれば、身體の發育が止つて、侏儒の様な不具者となる、それから胸腺といふものは、普通は幼年期のみにあつて、年頃になると同時に、非常に小さく萎縮してしまふものであるが、之が若しも普通よりも早く萎縮すれば、生殖機能が早熟するし、反對に長く残つて居れば、生殖力に乏しい小兒の姿に止つて居ること等を、その一例と見るがよい。

尙ほ此の研究の賜物として、内分泌腺の中から、その有効物質を取出して、薬用に供せられる様にもなつた。即ち大脳下垂體の後葉からピツイツリンが取れ、甲状腺からチレオイヂンが取れ、脾臓からインシュリンが取れたり、副腎からアドレナリンが取れたりする様になつて、インシュリンが、従來食物養生法以外に手のつけ様のなかつた糖尿病によく効を奏したり、チレオイヂンが粘液水腫に用ひられて、「馬鹿につける薬は無い」といふ古諺を真切つて、此の特種の痴愚者を

惻巧にしたりすることを、その一例とすることが出来る。

以下之等の關係に就て、もう少し詳細にその説明を加へやうと思ふ。

## 二、内分泌の研究方法

内分泌の作用を研究する方法は、右に述べた所に依つてわかる様に、大體三種に區別せられる。即ちその一は内分泌腺に病變の起つた場合に、その症狀や變化を観察することであるし、その二は内分泌腺を身體から手術して取除いた後に、續發する變狀を見ることである。之は人類に於ては特殊の場合以外には出来ないが、動物に就て實驗することは、いくらでも出来る。それから第三は、第二と反對に故意に内分泌腺を身體に移殖したり、或はそのホルモンを藥劑の形式で之に與へて、之が爲に起る變化を見ることであるから、之は前掲の如くいろいろの抽出製劑のある内分泌腺に就ては、殊にし易いのである。

此の第三の方法の一種に、パラビオーゼを利用すると面白い。パラビオーゼと云ふのは、二匹の動物の身體を血管に依つて聯絡して、二匹の別々に生きて居るものゝ、一方から或る内分泌腺



を取去つたり、或は又、一方にその内分泌腺を移植したりすることであるが、之に依つて、その動物に直接にそのホルモンを與へる場合と、全く同一の結果が得られるのである。

第一の方法は、結果は非常に著明であるけれども、内分泌腺に偶然に疾病の起る機会を待たなければならぬから、急ぐ場合には用ひる機会が無いといふ欠點がある。

此の様な研究の結果如何を、之から各内分泌腺個々の場合に就て、述べることにしやう。

### 三、睪丸と卵巢

ベルトホルドやブランウンセカール等が、夙に睪丸とそのホルモンに關して、内分泌學の基礎を作つたばかりでなく、睪丸と卵巢との内分泌作用は、内分泌の中に於ても、特に人の目につく程、重要なものである。男が男らしく、女が女らしく、男女兩性の別が明であるのは、實に此の内分泌の結果なのであつて、未だその内分泌の始まらない幼少の時代には、男女の區別が著しくないし、又已に卵巢の機能が減退して、月經の止んだ後の婆さんには、女性らしくないものが極めて多いことになる。「卵巢を持つが故に女性なり」といふ、病理學の泰斗ルドルフ・ウイルヒ

ヨーの一語は、實に萬代不易の名言で、卵巢を剔出してその機能を止めたならば、花羞しい佳人も、一朝にして無耻厚顏の代物と化してしまふ筈なのである。

卵巢を剔出されて、所謂虛脱症状を呈した例は比較的少いけれども、睪丸を取られた例は、宗教上の關係等から極めて多いのであつて、宗教の寺院で哀調を帯びた讚美歌を歌はす爲に、子供の中に去勢される話は世間周知の事である。ロシアやルーマニア等に散在する宗教の一派で、スコプツェンと稱する者の中にも、五歳乃至十六歳の少年を去勢する風習があつて、去勢せられたものは年が長じても、喉頭は化骨せず、聲も身體も子供の時のまゝであると云ふ。支那の宦官も亦此の種の異例として考へることが出来る。

しかし面白いのは動物實驗である。雄の動物から睪丸を剔出して、そのかほりに卵巢を移植すれば、雄を變じて雌とすることが出来るし、その反對に雌を變じて雄と化せしめることも出来る。故に若し之を人類に應用することが許されるならば、男の子がほしいのに女ばかり生れる家では是非そんな手術がしてほしいといふことになるであらう。



#### 四、松果腺

松果腺はどんぐり大で、大脳の後聯合の上部、中央に位して、昔、哲學者のデカルトに依つて精神の存在する場所と考へられた、歴史附の小體である。

鶏の若い中に、その松果腺を剔出すると、生殖腺の發育が著しくなつて、鶏冠が大きくなつたりするのみならず、動作の上にも性的現象を見せるが、此の關係は人類に於ても同様である。即ち六七歳までの子供で、松果腺に腫物が出来ると、急に身體が發育して就中生殖器に於て特に著明になる。即ち鬚が生え、聲帯は太くなり、耻毛が生じ、女子ならば乳房が大きくなつて來るが、之は腫物の爲に松果腺の内分泌が止る結果であつて、松果腺の内分泌には、幼少の間、睪丸や卵巢の作用を阻止する力があることがわかるのである。

春情夙發症と稱せられて、四、五歳にして已に成年者同様の心身を有する異常兒童の例は、時々醫學會に報告せられたり、新聞の記事になつたりすることがあるが、それは大抵此の松果腺腫瘍の關係であつて、短い年月の中に死亡するものが多く、解剖の結果、その事實の立證せられる

ものも亦少くないのである。但し、實例はあまりに多くあるから、紙數の關係上、省くことにする。

#### 五、大脳下垂體

大脳下垂體は、その名の如く大脳の底部に、視神經の交叉部の所から下垂して、土耳其鞍の上に乗つて居る蠶豆大の小體で、前葉を後葉の二部に分れて居る。形態の關係から一名を漏斗體とも云つて、松果腺とは丁度、大脳の上下の兩極にあたる反對の位置を占めて居るが、單に位置が反對であるのみならず、その内分泌機能に於ても亦、松果腺と反對に生殖腺の作用を強盛ならしめるものである。但し性的機能を強盛ならしめるのは、その後葉のホルモンに依るので、前葉の方は主として骨の發育を助成するから、之に依つて或は巨人となつたり、或は侏儒になつたりすることに於る。そこで此のホルモン製劑も、後葉からはピツイツリンが取れるし、前葉の方から取れるものは、アンツイツリンと呼ばれる別種のものである。

前葉と後葉との他に中葉と云ふものが有つて、中葉の分泌液は後葉の淋巴から第三腦室に入り



それから腦脊髄液の中へ入ることがドレンデンブルグ氏に依つて確定されたのは、未だ新しい千九百二十四年のことである。而して此の中葉の部分が破壊される場合には、尿崩症といふ病氣が起るものゝ如くに考へられて居たが、之は間違ひで、實は間腦に於ける水分代謝調節中樞に損傷を受けた結果であると認められる様になつて來た。

## 六、甲 狀 腺 (第一四二頁の圖参照)

甲狀腺は頸部の皮下にあるかなり大きなもので、之が腫れ上る病氣のバセドー氏病患者に於ては、外から盛り上つて居ることがよく見える位である。形は下が大きく、厚く、上部に向つて右葉と左葉と、圓推形の中央部との三部に分れて居て、男に於ては割合に小さいが、女に於ては比較的大きく、特に月經の時に膨大になるのである。又その大きさは年齢との關係が多くて、壯年者は體重の千八百分の一位であるが、老年になると非常に少さくなるし、反對に幼年者には割合に大きくて、生れたての子供では體重の約四百分の一の重量を有して居る。此の事實から推測することが出来る如く、甲狀腺は幼年時代に特に必要な機能をするものであつて、思春期以前にそれが犯

される場合には、著しい病變が起つて來るのである。粘液水腫と稱せられる病氣が、即ちそれである。而してそれと反對に、甲狀腺の機能の高まり過る爲に起るのが、即ちバセドー氏病で、バセドー氏病と粘液水腫とは、症狀に於て正反對の點が極めて多いのである。但し兩病のことは、前に一言して居るから、茲に繰返さないことにする。

甲狀腺の肥大する病氣で、地方的に多いものにクレチニスムといふのがある。古來アルプス山脈の附近に多くあつて、飲料水の關係から起るものと考へられて居たが、ヒマラヤ山脈の北斜面のチベット地方にも之が多いことがわかり、又米國に於てはシカゴ市の防近から、ガリ、インヂアナ、ハーバー、ホワイチング、オウケガン等の地方に多いのである。所でこの「クレチン」と云ふ言葉は、フランス語の *Chretien* から來たもので、昔、ローマ人が異教徒を侮辱する時に用ひたものだそうであるが、研究の結果によれば、沃度の欠乏がその最大の原因であることになつて來たのは、一寸面白いことではないか。



## 七、胸

腺（第一四三頁の圖参照）

胸腺は胸骨上部の内側に在つて、胸骨の上端から少しく上に頭を出して居るから、丁度、前の甲狀腺の尻の下に、その頭の頂邊がある如き位置にある。形は不定で、年齢に従つて大小があるけれども、大體に於て中央部と右葉と左葉との三つに分けることが出来る。

胸腺の大きさの、年齢に依る相違といふのは、重量に於ては十歳乃至十五歳に於て最大で、約十五グラムに達するけれども、體重との比較上、最大の時期は生後、二歳乃至三歳の頃である。つまり幼少年の時代には、相當の大きさを有してその機能も盛んであるが、丁度思春期頃からは、急に退化し始めて、壯年に至れば殆んどその影をひそめてしまふのが普通である。

所が往々にして、壯年に達しても尚ほ胸腺の大きい人もあるが、そういふ場合には生殖器の發育が不完全である上に、心臓や血管、並に副腎の發育が非常に不良であつて、反對に淋巴腺の發育が著しく良いのである。尚ほ困ることには、此の如き人々は、普通の人々には何でもない様な一寸した事が原因となつて不慮の死を招くことが屢々ある。

即ち例へば、外科手術の爲に麻酔劑をかけると、そのまま永久に麻酔から醒めずに死亡したりマヌスの豫防の爲の皮下注射や、梅毒治療の爲の血管内注射を受けた時等に、その施術に欠陥が無く、その藥劑が悪くないのにも拘らず、そのまま急に死亡してしまうやうなことになる。かういふ様な人には、胸腺淋巴體質といふ特別の學名がつけられて居て、前掲の如き肉體上の變化はいつもその死因探究の爲の解剖の結果、明白になるのである。その變死の原因は未だ不明であるけれども、如上の異常と密接な關係があることは、取立てゝ云ふまでもあるまい。而して胸腺のよく發育して居る時に、生殖器の發育の悪い事實と、幼少年時代に之があつて、思春期頃から退化する事實とは、又胸腺のホルモンに睪丸や卵巢の機能を阻止する作用のあることを示して居るのである。

そんな有害無益な内分泌腺ならば、思春期以後に早く手術して取去るがよからうと思ふ人もあらう。しかし此の胸腺の大きいか小さいかは、平時に外部から診斷することも困難であるし、又診斷がついたとしても、胸部の内側、即ち胸腔の内部にある爲に、手術が中々出来ないで、何とも致し方がないのである。（前項記事参照）



## 八、副腎皮質

副腎は左右の腎臓の上部に密接に附着して居る扁平な小さい内分泌腺である。つまり左右の腹腔内に一つ宛存在するので、今までの諸内分泌腺が、中央に唯一個あつたのと、一寸様子が異つて生殖腺と同じ形式になつて居る。而して副腎は皮質と髓質との二部から成立して居るが、内分泌機能は主としてその皮質に依つて司られて居るので、髓質の方は、假令、無くても生命に別條の無いことが、動物試験に依つて確められて居る、之が即ち副腎皮質といふ題目を掲出した所以である。

副腎のホルモンたるアドレナリンは、今から三十年程前に、高峰巽吉博士に依つて始めて純粹に取出されたもので、その主なる作用は、胃、腸、心臓或は血管壁等を形成して居る不隨意筋に分布して居る神経を興奮させることである。

副腎の内分泌と、密接の関係のあるアチソン氏病は、一八五五年に英國の醫師トーマス・アチソン氏に依つて、始めて記載された珍しい疾病で、皮膚の色が、全身、青銅色に變じ、一見銅像

の如くなるのをその特長として居る。本病の場合には、副腎が著しく萎縮して居るけれども、之にアドレナリンを投薬しても、決して治癒しないで、遂に死んでしまうのである。

## 九、脾臓

脾臓は血液の製造に關係して居て、腹腔左側上方に唯一つだけある小判形の、長徑約三寸位の内臓である。しかし之も何か内分泌を司るのではあるまいかと考へられる。内臓の中で、中央に無くして唯一つきりのものは、實に此の脾臓のみである。

## 一〇、腭臓

一臓は、十二指腸へ、輸膽管と並んで開口して居る、導管を有する長徑一尺に近い細長い不規則な形の内臓で、その内分泌液は必ず消化の作用を司るものと考へられて居た。従て獨乙語ではパオフスバイヘルドリユーゼ (Bauchspeicheldrüse) 即ち腹部唾液腺とも直譯すべき名稱を持つて居るのであるが、近年に至つて之が内分泌にも關係を有して居ることになつて來た。その内分



泌は糖尿病の發生に關するもので、脾臓の實質からではなく、その中のラングハンス氏島といふ部分が、その本部である如く考へられる。而してその仕事をするものが、インシュリンといふホルモンであることは、既に前にも云つた如くである。但し脾臓の分泌液パングレアチンといふものが、消化作用に關係のあることは、否定出來ないので、つまり内外兩分泌兼任の姿なのである。尙ほ原因不明で頓死するものを解剖して見ると、他に何一つ變状がなくて、脾臓に出血が著しいことが往々あるが、之が内分泌と如何なる關係を有して居るかは未だ明白でない。

## 一一、扁桃腺

扁桃腺と云ふ名稱は、知らない人がない位に名高いが、その機能は未だよくわかつて居ないので、咽喉の兩側に扁桃の様な形をして、謎の如くに竝んで居る。しかし之が胸腺肥大の場合にリンパ腺と同様に大きかつたり。感冒その他の呼吸器病にかゝる場合には、先づ之が腫れ上つたりして、行動が甚だ不審であるのみならず、無くても別に故障が起らないといふ考から、米國等では、無暗に之を剔出してしまふことが流らして居る様である。しかし無暗に切取るのがいゝか悪

いか、之は尙ほ考慮する餘地が大にある様に思はれるのである。

## 一二、其他の關係

以上の他にも尙ほ内分泌腺らしく思はれるものがある、例へば攝護腺の如きものがあるし、鼻腔内の下甲介も、剔出した後に性慾の止ることが往々にある關係から、矢張り内分泌に關係がある如く考へる人もある。又肥満した體質と内分泌との關係、氣質と内分泌との關係、犯罪と内分泌との關係、その他いろいろ興味のある問題も残つては居るが、與へられた紙數も盡きたから、それ等は總て割愛して置く。しかし唯、一言する必要のあるのは、便宜上、各内分泌腺の作用を個々獨立して居るもの、如く書いたけれども、事實上、各腺の作用には互に密接な關係が有つて、しかも、それが非常に複雑だと云ふことである。例へばバセドー氏病の場合に、甲状腺と同時に胸腺が肥大して居たり、デルクム氏病の場合に、甲状腺と松果腺とが肥大して居たり、或は、生殖腺の作用に關しても、松果腺や胸腺等が之を抑制するに反して、大脳下垂體や副腎等が之を鼓舞する等の如く、到底、單獨に作用しないのであるが、之も一々説明せず、一言の注意のみ



に止めて置く。

## 醫學から見た現代人の生活

### 現代生活

現代人は賢明である、現代人は敏感である、その賢明で、敏感な人々のすることに、もとよりそのあらゆる筈がない、一から十まで頭の頂邊から、足の爪先まで、中々上手に立廻つてゐることを肯定するに對して、誰でも躊躇することは出来ないであらう。しかしその現代人の所謂「文化的生活」なるものにも、醫學といふメガネをかけて見る場合に、少々ばかり「どうかなあ？」と首をかたむけさせられる點がないでもない。それを一つ二つ御紹介！——といつては不都合であるから——御披露におよんで、江湖の指教を仰ぎたいと思ふものである。斷じて文化生活に對する反逆でもなければ、又冒瀆でもないのであるから、怒るのを後にして、氣をしづめて、此わからず屋のダ、ツ兒の言葉に、一應耳をかたむけてもらひたいとおもふ心が切である。



藥品愛好

現代の人々は、中々薬品がすきである、病氣の時には止むを得ないけれども、平生達者で、ピン／＼してゐる時にでも、少くとも二、三種の薬を服用してゐる人がザラにあるのは、一體どうしたものであらうか――

食事の前後に何か粉薬を飲んでゐるので

「どこかお悪いのですか？」とたづねてみると、ニヤ／＼笑ひながら

「いや、病氣ではありませんが、ヂヤスターゼを一寸……」

と答へる人がある。そうかと思ふと旅行先にまで「ヴィタミン、A」といふ様なものをわざ／＼携帯におよんで、三度々々缺かさずに飲んでゐる人もある。

今ではもう下火になつたが、數年前カルシウムが流行して、カルシウム入りのパンや飲料水、その他いろ／＼の飲食物ができた頃に、日々の米の飯をたく時に、カルシウムの何とかいふものを入れる人が多かつた。しかして「それを入れると何か違つた所がありますか？」と質問

してみると「ハイ、第一飯の艶までが違ひますよ！」と得意になつて答へるのであつた。

現在ではカルシウムの錠劑の廣告は、ずつと少くなつてはゐるが、しかしカルシウム入りのビスケットといふ意味であらう。それを簡単に引つつけて「カルケット」と稱してゐるビスケットまがひの菓子のは、やはり大いに賣れてゐる世の中であるから、今でも存外カルシウム愛好者は澤山あるのかと思はれる。三度の飯たきにカルシウム何とかをませて、艶があるのを喜ぶ人は、如何か知らないけれども！

しかし考へてみるのに、ヂヤスターゼも、ヴァタミン、AもCも、或は又カルシウムも、普通に飲食してゐる場合ならば、特別にそれを藥劑として藥屋から購入してまで飲まないでも、決してその缺乏を訴へない筈である。無論、それを藥劑として内服しても、決して有害ではないのであるから、のんではいけないといふのではない。たゞ特に内服して、果してどれだけ著しい効果が見れるかどうかを疑ふこと、並に食物としてそれを攝取するのに比して、藥劑として内服するのは、はるかに高價に上るから、少からず不經濟であらうと思ふまでである。故に若しも「それは乃公の趣味である……或は道樂なのである、金は有あまつてゐるから、餘計な差出口は



無用だ！」といはれるならば、我輩又何をかいはんやで黙々として引さがるまでのことである。又特に弱さうに見えない人や、むしろ人なみ以上に強壯らしい人でありながら、好んで補血剤や滋強劑の類を常用したり、精力旺盛に見えるくせに、日常×××ビンといふが如き強精劑と稱する、効力の如何がはしい藥劑の類を、新聞廣告をそのまゝ受入るかの如き態度で、絶えず愛用する人々の中々多いこともまた、注目に値するやうに思はれる。そういへば、その人々は反對に「おれたちはその藥劑を愛用するが故に強壯なのである……或は勢力旺盛なのである。お前は原因と結果とを逆に見てゐるからいけない……」と反駁するかもしれないが、これこそ少々一種の道樂に近いかと失禮ながら……考へさせられる節がある。さらにもつと以上の藥劑通になると、好んで鼻のあなへ「コカイン」を滴下して、これを頭腦明晰法の一種のやうに心得てゐるが如く見えるが、これは「コカイン」のために、鼻の通りがよくなつて、ちよつと氣持がよくなるからであらう。しかしこの氣持のよいのは、ホンの一時的のことで、これを味はんがためには、幾度もこの「コカイン」滴下を反覆すべき必要を生ずるのであるし、「コカイン」はだん／＼なれるに従つて利き目が少くなつてくるから、日月を経るにつれて、著しくその分量を増加しなければ、到底以前の如き氣持のよさを味はへないことになつてしまふものである。しかしてその裏面には直にコカイン中毒症といふ、恐るべき病魔が、すごい微笑をたゞへながら、爪牙をすどくして今にもつかみかゝらうとして、立つてゐるのであるが、それを知つてか、知らずにか、すまして勇敢に「コカイン」の滴下を總續してやめない人々に對しては、ちよつと挨拶の仕様に苦しむ次第である。これでこそ、藥屋は萬歳であらうけれども、まさか藥屋を喜ばさんがための慈善的行爲でもあるまい。一體全體、何が故に現代人はかくまでいろ／＼の……なくもがなの……藥劑を愛好するのであらうか？ 考へれば考へる程わからなくなつてくる次第である。

中途半端な藥の智識は、ない方が安全かと思はれる。

### 海水浴 萬能

數年來の海水浴の流行はすばらしいもので、海水浴は現代人に缺くべからざるものゝやうに考へ、海水浴に行かないものは、ともに文化を語るにたらぬやうな有様で、全國いたる處の海岸に赤綠黃紫、色とり／＼の美しい海水着が、春の花の如く開展せられてゐる姿は、全く物すごい



かりである。勿論海水浴は衛生上によろしい、萬里の長風を心行くばかり呼吸し、玉の肌におしけもなく日光浴をさせるだけでも、すでに十分の効果はあるから、新調の上等な海水着の手前、海水に入ること躊躇して、砂の上を羽をひろけた孔雀の様に、闊歩するだけでも、決して文句をいふ必要はないのである。しかしながら腑におちないのは「避暑」といふ言葉であつて、暑さをさげんがために海濱へゆくのならば、海濱生活が都會にある自宅よりもすゞしくなければならぬのに、事實は却てこれを裏ぎつてはるはすまいかといふ懸念である。海濱も北海道か樺太まで遠征するならば、氣温が低いから直に首肯し得られるのであるが、鎌倉や須磨、明石では、東京、大阪邊と氣温に大差があらうとも思はれないから、住居の方で涼を求めなければならぬことになつてくる。しかるに猫も杓子も押出して宿屋も民家も大入満員を極め、空室の少い關係から、自宅よりも遙かにせまツ苦しい部屋に起居することを余儀なくせられるのみならず、すぐそばによその人々がる關係上、自宅でならば猿股一つ、腰巻一枚で寝そべつてゐる人までも、義理にもゆかたの一枚位は引かけてゐなければならぬといふ始末である。自宅よりもせまい所に、自宅以上に衣服を羽織つて、よそ行の態度を取つてゐては、たとへ都會よりは少し位風通し

がよいとしても、果して何の避暑ぞやといひたくなつてくるではないか！ その關係を十分承知してゐながら……中には苦しい金の無理算段をしてまでも……そのあつ苦しい「避暑」と稱する海水浴をしなければならぬのは、表面はとにかく、事實は衛生のためでなくつて、近所や友人、乃至、親戚等への見えが、少からず手傳つて居はしないか？

「お隣の××さんところでも避暑したんですもの、うちでも行かなきゃ見つともないぢやありませんか……」といつたり、或は

「あの〇〇（同僚の名）でさへ、うち中、鎌倉へ出かけたから、乃公の所も明日から返子へ出かけやう……行かずにくすぶつてゐちやア、氣が引けるからね」といふ様なのが、存外、避暑の動機になつてゐるのが多いことはないであらうか？ 之がもし一度も避暑の出來ない私の邪推に過ぎないならば幸福である。

### 温泉陶酔

夏の海水浴のその如く、冬には温泉へ行くことが、又中々盛んである、温泉！温泉！……之



れ亦至極衛生上にいゝこと勿論である。底のしれない深い地中から、滾々とながれ出て盡る時のない天然の温泉に、心ゆくばかりあたゝめられて、いろ／＼の礦物の溶液によつて、靜かにやわらかに撫でられてゐるばかりか、出でゝは又、山懐の清らかな自然の風光を恣にしてをれば、幾十年來の痼疾も、必ず輕快せずにはをられない道理である。即ち温泉の流行は、衛生思想の普及を象徴したものと見て、大いに謳歌しなければならぬのであるが……親しく温泉の此所、彼所を見て見ると、必ずしもさういふ人ばかりゐるにきまつて居らないやうである。

温泉地、またはその附近には、申合せたやうに藝者屋や料理屋の類はあるが、それ以外の娯樂機關はあまり見當らないやうである。附近の名勝舊跡をたづねるにしても本來山間の谿谷のやうな所に多い、交通に不便がちな温泉地である上に、リニューマチで運動の自由を缺いたり、慢性病で活動の出來にくい人々は、山川の跋涉を望むことは無理であらう。豫め心掛けて讀むべき書物や、書くべき原稿を携てへ行く人でない以上、長期間の退屈凌ぎにどうしても藝者を招いて、酒を飲むことになるのは、もとより自然の數であらう。そんな關係から、折角の結構な温泉の陶酔が、酒色三昧に陥り、酒池肉林の逍遙になつてしまつて、衛生とは正反對に、不衛生の限りを盡

すことになるのは不思議千萬なことである。これに對して、現代人は果して何と答へるであらうか？ 即ち

「酒池肉林の逍遙が出来るからこそ、温泉へ行くんぢやないか！ 野暮なことを云ふな？」

とせゝら笑ふか？ 或は又

「失敬なことをいふな！ それは温泉へ行くべき金と時間とを持つて居ない所の、お前のひがみに過ぎないのだ！」

と、しかり飛ばすか？ 私はどうかその後者であることを願つてやまない者である。

### 郊外住宅

煙筒と煤煙と自動車の臭氣が、塵芥や土砂や、いろ／＼の微菌の類をまじへた紅塵萬丈の渦巻となつて、そこで勤務しなければならぬ都會人の健康を、むごたらしくも奪ひ去らうとしてゐる今日、郊外の生活が喜ばれ、且つ理想とされるのは、もとより當然のことである。いはんや、地價が安く町内のつき合が少く、經濟的であつて、一舉兩得なるにおいておやで、これには唯一



人異論のあるべき筈がないけれども、郊外の文化住宅といふものが、或は傾斜の急な赤瓦の屋根といふお定まりの外形に重きを置きすぎて、採光や通風、乃至暖房装置等の衛生的設備に至つては、あんまり考へないやうな氣味はないであらうか。無論、よい家も澤山あるが、屋根さへ赤瓦ならば文化住宅で、どんな日あたりが悪くつても、苦にならない……否得意である人も、一人や二人はありはしないかと氣づかうのである。それに郊外となれば、水道かガスかのどつちかで兎角、不便になり勝ちである。ガスの方は或はない方がかへつて衛生上いゝ點があるかも知れないが水道の方になると井戸をほる必要が起つて、水質の良否が問題である上に、飲用水の貯へ方等に、少からず衛生上考慮すべきことが起つて来る。或は場所によつては、これがために腸チブス等にかゝる心配があるかも知れない。とにかく郊外生活には不便が付物で、瓦斯があつても壓力が少かつたり、電氣は無論あるけれども、往々停電を試みたりするのであるから、郊外生活といふ以上は、十分郊外氣分の味はえる處で。山林や田畑に近くつて、野趣横溢といふ空氣と日光とに恵まれた處を選ばなければ、その本旨に添はないわけである。

然るに郊外生活を口にしながら、町はづれで未だ紅塵萬丈の域を離れないばかりか、道路の完備してゐないことや、撒水等の不行届きのために、市内より以上に不潔な砂塵濛々と巻きあがる處で、草木の如きは一本もみへず、大小の工場は近所まで建込んでゐる處に、お定まりの文化住宅を建て、得意になつてゐる人のあるのは、不思議所か却て氣の毒なやうな心持さへ起つて來るのである。これでは郊外生活の長所を一つも持つてゐないで、市内と異なる點は、單に不便と不潔との二つのみではないか？

執務するための通勤に時間がかゝつたり、郵便の速達がきかない位はかまはないが、砂ほこりや、飲料水の悪いことが氣にならないのは、寧ろ滑稽に思はれてならない。

郊外生活をする位ならば、多少の不便はもとより覺悟の上のことであるから、運動に十分や二十分位餘計の時間を要しても、瓦斯があつてもなくつても、思ひ切つて都市から遠ざかつて、日光と空氣との天恵の豊富な地域を選ばなければならぬであらう。途中の時間は、それだけ早く起ることによつて補はれて、それがために一層健康になることも出来る。瓦斯のない位は、石油コンロでも間に合はすに十分ではないか！ 而して水質の選定は、少しく注意すれば、いくらでもよい所が見出し得るであらう。郊外生活ならば思ひ切り離れた方がよい。生はんかの都市續き――